

日曜学校教案誌

第3号

2001年10・11・12月号



日本キリスト改革派教会
中部中会教育委員会

も く じ

まえがき	望月信	3
巻頭説教 「生命の守り手」	木下裕也	4
日曜学校教師研修会夏の講座の報告	伊藤治郎	7
教会学校教師研修会のご案内		9
日曜学校・教会学校訪問		
名古屋岩の上传道所	相馬直子	10
教会学校教師のための実技講座	吉田実	14
描いてみましょう《クリスマスツリー》	岡野美佳	18
2001年10・11・12月分カリキュラム		20
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		21
10月7日		22
10月14日		30
10月21日		38
10月28日		46
11月4日		54
11月11日		62
11月18日		70
11月25日		78
12月2日		86
12月9日		93
12月16日		100
12月23日		107
12月30日		114
幼稚科視覚教材・工作		121
2002年1・2・3月分カリキュラム		134
編集後記		135

まえがき

望月信（高蔵寺伝道所協力牧師）

日曜学校教案誌の作成・出版の試みが、中会的なご支援によって支えられておりますことに、心から感謝しております。

今回の教案誌が第3号であり、すでに編集部では第4号の作成作業を進めています。この一年間の発行のめどが立ち、少しほっとしているところです。編集部では、来年度に向けて、何か読み物のようなかたちの連載記事を掲載することを検討しています。毎週のカリキュラムを提供すると共に、日曜学校教師としての継続した学びの材料を提供することなど、皆様の益となるよう教案誌の充実を目指して参ります。この教案誌をより良いものへと育てていただくために、皆様からのご意見やご要望をお寄せいただくよう、心からお願い申し上げます。また、教案執筆の負担が特定の方に偏らないために、すでに執筆者の交代や担当の変更などを行いました。編集部では、現場の多くの日曜学校教師の方に、教案誌作成の作業に加わっていただきたいと願っております。執筆者として加わりたい方、ご推薦いただける方がありましたら、ぜひ編集部までご連絡ください。

さて、日曜学校に携わる中で感じていることの一つは、日曜学校とは果たして「学校」なのだろうかということです。教案誌を作成しながら、根本的な疑義を申し立てるようなのですが、しかし、このことは一度ていねいに考えてみる必要を感じています。

私たちの教会では、日曜学校への子どもの出席者は一、二名という現状です。それに対して日曜学校教師は六名であり、毎週の日曜学校は、

大人が礼拝している中に幼い子どもが一人か二人共に出席している、といった光景になっていきます。子どもの人数が少なく、また幼いため、分級なども行うには至っておりません。ですから、毎主日、毎主日、主日礼拝に加えてもう一つ、子どもと共に礼拝を守っているという状況なのです。子どもを中央にして、子どもと共に聖書を読み、子どもと共に讃美をする、ごく簡潔な礼拝です。その中で、日曜学校とは、本来、子どもと共に礼拝を守ることなのだという基本的なことに気付かされてきた次第です。

日曜学校という「学校」という名称を用い、クラス分けをして分級を行う中で、「教える」ことに焦点が当たり、「礼拝する」ことがおろそかになっていたかもしれないと反省させられました。もちろん、礼拝することの中に教える要素も含まれていることは確かです。しかし、それは、いわゆる「学校」の教え方とは異なるものでしょう。その意味で、「学校」という名称をこえて、「神礼拝」へと子どもたちを招くことが求められていると思うのです。子どもと共に「礼拝する」「神を拝む」。このことこそが、日曜学校の営みの中心なのであると、あらためて思わされております。

まもなくクリスマスを迎えます。伝道の良い機会として、さまざまな計画を練っておられることと思います。それらが、子どもと共に神を礼拝する業として豊かに用いられますように。それぞれの日曜学校の営みの上に、主なる神の祝福が豊かであるようお祈り申し上げます。

「生命の守り手」

- 詩編 23 編 1 - 6 節による説教 -

木下裕也（豊明伝道所宣教師）

詩編 23 編は、主なる神さまを羊飼いに、また人間を羊にたとえています。そのことによって、人間は生まれながらに孤独な存在ではなく、彼の命の与え手、また守り手である神さまとともにある存在なのだということが明らかにされています。

羊飼いは羊たちを心から愛して、食料となる青草を、手をとるようにして食べさせ、また喉のかわきをいやす水のほとりにまで導いていてくれるのです。人間は生まれるときもひとり、また死ぬるときもひとり、そのように言う人が時折ありますが、そうではありません。造られた者は、自分を造ってくださったお方と、はじめからともにあるのです。すなわち、造り主ともにあるということが、人間の本来のありかたなのです。ちょうど、羊が羊飼いのもとを離れないようにです。

そして私たちはこの詩を理解するために、さらにふたつのことを知っておかなければなりません。この詩がうたわれているその情景はどのようなものであるのかということ、羊とはどのような動物であるのかということです。

まず、この詩の情景についてですが、青草の原とか憩いの水のほとりといった言葉もあることから、青空と濃い緑の中で羊がのんびりと草をはみ、それを羊飼いがいつくしみのこもったまなざしで見つめているというような、のどかで牧歌的な、ちょうどアルプスの少女ハイジの世界のような光景を想像する人が多いのです。すでにクリスチャンとして生きている人々の中にも、この詩を愛する人々は多いのですが、その人々も、今申したようなイメージでこの詩の背景をとらえている人は案外多いのです。

けれども、実はそうではなかったのです。この詩の背景として横たわるのは、パレスチナの荒涼とした砂漠です。食べ物も飲み水も乏しく、切り立った崖が随所にあり、また獅子や熊といった獍猛な獣が跋扈する、そういう所に羊たちは飼われていました。

この詩は、そういう乾いた、また危険に満ちた砂漠を、人間の人生そのものになぞらえているのです。

私たちの人生はいつも平穏であるわけではありません。いつ獣に襲われるかわからない、いつ崖下に転がり落ちるかわからない、もともと私たちの人生は、そのような危機や不安定さと背中合わせであるというのが、本当のところなのです。この詩はそういう現実をごまかすことなく、正面から見つめるまなざしをきちんと持っている。そしてそこから語り始めるのです。

次に、羊とはどういう動物であるのか。羊の特徴は二つあります。第一に、近くのものしか見えません。遠くのものを見るのができないのです。ですから、どうかするとすぐに迷子になってしまいます。

第二に、羊は自分の身を守る武器を持ちません。鋭い牙も、早く走ることのできる足も持ちません。パレスチナの砂漠に跋扈する獍猛な獣に襲いかかれたなら、ですからひとたまりもありません。

従って羊という動物をひとことで言い表すなら、無力であるということになります。あるいは無知であるということもできるでしょう。それが、聖書が人間を見るとき、ある確かな見方、つまり人間観です。

これは確かなことだと思ふのです。私たちは、

時に自分のことは自分がいちばんよく知っていると思うことがあるかも知れません。けれども、案外自分のことを私たちは知らないものです。他者から指摘されて、はじめて自分の重要な面に気づかされたりすることは珍しくありません。また、自分は強いと思いつ込んでいる人が、何かあると意外なほどもろかったりします。

そういうわけですから、羊はひとりでは生きていくことはできないのです。ましてやパレスチナの砂漠の真ん中にひとりで放り出されては、一日たりとも生きていけないのです。

けれども、だからこそ羊飼いがいつもともにいるのです。そして、厳しい砂漠の環境の中でも、羊を守り養い、いつくしみをもって導いてくれるのです。羊飼いは一頭一頭の羊に呼びかけ、青草や憩いの水の水辺まで誘っていき、ときには身をていして獅子や熊とたたかって、命をかけて羊の命をまもるのです。

そして羊飼いは、近くのものしか見ることができない羊自身が自分について知るよりも、はるかに羊のことをよく知っているのです。事実、昔の文献によれば、パレスチナの羊飼いは一頭一頭の羊に名前を付け、寝起きをともにし、その性格から何から熟知していたようです。羊の生きるべき道を、羊飼いは知り尽くしている。羊にとって何が幸せか、あるいは不幸か、どの道を行ったらよいのか、そのことを本当に知っているのは羊ではなく羊飼いなのです。

地図もなく山に登るのは危険です。また、灯もなく夜道を歩くのは不安です。荒涼とした砂漠に置き去りにされた羊も同様です。けれども頼もしい羊飼いがついてきます。そして、羊飼いは羊に、命の道を指し示してくれるのです。羊飼いの声、言葉、これが羊の命を守り、羊の命をはじめからおわりまで見取ってくれる。そういう羊飼いなる、主なる神さまが、私たち羊とともにいて下さるのです。この神さまとともに

に生きることが、私たちの命の道です。

3節には、羊飼いが羊の魂を生き返らせてくださるとあります。また、主はみ名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれるともあります。羊飼いが羊の行くべき正しい道を教えてくれる。羊がその道に従っていくとき、羊の魂は生き返るのです。

4節に注目しましょう。ここで詩人は、死のかけの谷を行くときにも、羊は災いを恐れない。それは羊飼いがともにいてくださるからだとうなずきます。

死は人生の最大のわざわいであり、不可解であり、悲劇です。さきに触れた人生そのものの不安定さということも、(私たちがそのことを日々の中でどこまで意識しているのかは別として) 私たちの日々がたえず死のかけの谷と隣り合わせであることから来るものなのです。生の裏側には死があります。死はいつ訪れるかわかりません。若き日にも死は訪れます。また多くは、唐突にそれまで積み上げてきた人生を断ち切るように、中断するように、突然に死は訪れます。

死の前では、まさに人間は羊のように無力です。誰にでも、一度死が訪れること、私たちの人生にとって、これほど確実なことはありません。けれども私たちは誰もが生きることを望む。死の克服を望む。では、どこに命の道はあるのか。

答えは聖書に、この詩編に記してあります。まことの羊飼いのもとにこそ、命はあります。羊飼いなる神は、私たちの命の造り主、与え主です。そして同時に、私たちの死を滅ぼして、まことの命を取り戻して、回復して下さるお方でもあるのです。

死がどこから来るのか。ここに言う死とは、ただ呼吸が止まったとか脈がとまったとか、そのような言わば医学的な意味での死ではありません

せん。もっと深い、そして大切な領域における死、人間存在の、トータルな意味における死です。そういう死が、どこから来るのか。羊が羊飼いのもとを離れるところから来ると聖書は語ります。羊飼いを離れても、ひとりで生きていくことができる。自分の力でやっていくことができる。羊はそう考える。そして羊飼いかから離れます。

けれども羊は無知で、視野の狭い動物です。自分の身を守ることでできない動物です。これが正しい道だと思っても、そこで道から大きく逸れているということがある。人を愛したいと思う。けれども愛することができない。平和な世界をつくりたいと願う。けれども争いが絶えることはない。隣人と分け合いたいと思う。けれども独り占めをしてしまう。それは、羊がまさに羊であるというところから来る悲しみであり、さらに言うなら、羊が本来の場所から、すなわち羊飼いのもとから離れているところから来る悲慘です。人間に本当の死を、あるいは死の痛みや滅びへの恐れをもたらすのは、このような無知や無力です。これらが自分と隣人の命のすこやかさを損なうのです。

そのように、羊飼いかから離れた羊、パレスチナの砂漠に置き去りにされた羊には、至るところで死の危険が待ち受けています。いつ死のかけの谷の谷底に転落するかわかりません。いつ獣に襲われるかわかりません。

しかし羊飼いは、みずから自分のもとを離れ去った羊をもういちど自分のもとに招き寄せようとなさいます。羊飼いは羊を愛しているから

です。そして羊飼いは、羊たちの死を命にかえてくださるお方です。

「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(ヨハネによる福音書 10章 11 節)

私たちのまことの羊飼いでられる主イエス・キリストは、私たちのために十字架の上で死なれました。それは、まことの羊飼いが、羊のためにあらゆる人生のわざわいとたたかってくださったということ、そして、羊が命を得るために、ご自分の命を捨ててくださったということです。

主イエス・キリストは十字架に死なれてから三日目の朝に、死を破って復活なさいました。それは羊飼いが、羊からまことの命を奪おうとするすべての罪や悲慘にうちかたれたことの証明です。このことによって羊もまた、復活の命の恵みを受けて、死から命へとうつされるのです。この命こそが私たちがそこに生きるべきまことの命です。

羊が、自分のために死んで、そして自分の受けるべき死を破ってくれたまことの羊飼いとともにあること、それが生きるということです。そしてその羊飼いなるキリストと羊である私たちの命の絆は、死をはるかにこえるほどに強いのです。

主イエスこそ私たちの命の守り手であられます。このお方のもとに来る時、私たちは生きるのです。このお方は私たちを永遠に、まことの命の祝福のもとにとどまらせて下さるのです。

日曜学校教師研修会 夏の講座

2001年7月14日（土） 四日市教会にて

中会教育委員会主催の「日曜学校教師研修会夏の講座」が、7月14日（土）四日市教会を会場として行われました。

今年は、「子どもの心にとどくために」というテーマで、四日市教会の嘉成頼子姉を講師として、四日市教会日曜学校の中高生のクラスで行なっている「聖書深読」について、実際の分級の様子を再現しながら、参加者自身も「深読」にふれてみるワークショップ形式の学びを行ないました。

午前部

午前中は、四日市教会日曜学校のジュニアクラス（中高生）の皆さんに集まってもらって実際に毎主日に行なっている「聖書深読」の分級の模様を再現してもらいました。



たくさんの先生たちに囲まれて最初はちょっと緊張気味だった子どもたちでしたが、すぐになれて、いつものように御言葉から受けた恵みや疑問などを自由に、そして素直に発表してくれました。

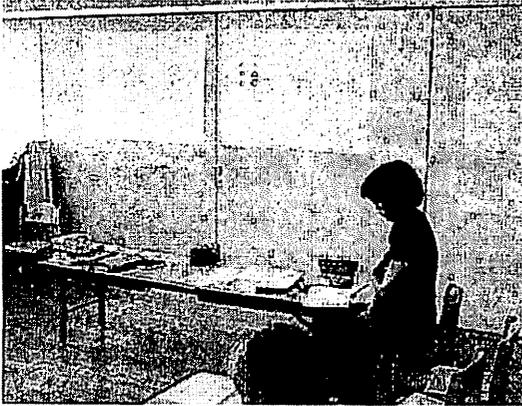
子どもたちが、それぞれのたましいに御言葉から語りかけられているということ、よく理解できるひとときでした。

午後部

午後の時間には、マルコによる福音書 10 章 13 ~ 16 節（「子どもを祝福する」）の御言葉をテキストとして、先生方に、実際に「聖書深読」を経験していただきま

した。

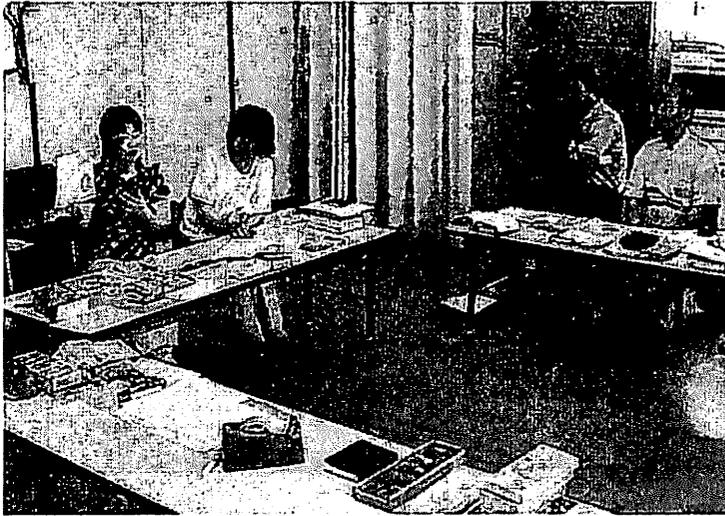
初めてのことで少し戸惑いもあったようですが、心に響く御言葉の恵みを分かち合ったり、自分が聖書の登場人物になったつもりで劇をしてみたり、御言葉から与えられたものを絵にして表してみたりして、それぞれのたましいに語りかけられている御言葉の恵みを豊かに受けるひとときを与えられました。



恵みの分かち合い



聖書の登場人物になって



いただいたものを絵にして表してみる

多くの先生方にとって、「聖書深読」は初めての体験だったと思いますが、御言葉に静かに耳を傾けて自分に語られている事を聞き取ろうとすることの「楽しさ」を味わっていただけたのではないかと思います。このような御言葉の学びが従来の教理教育と共になされることによって、大人にも子どもにも、御言葉の恵みがいつそう深くたましいに刻まれるのではないかと考えています。まさに、この「聖書深読」の方法を十分に活かせるのは、教理を重んじてきた改革派教会なのかもしれません。この機会に、多くの教会、日曜学校で、「聖書深読」の試みが始められることを願っております。

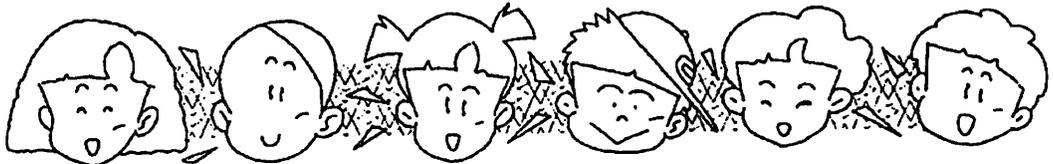
四日市教会：伊藤治郎

2001 年度 中部中会
CS (教会学校) 教師研修会のご案内

— 福音の喜びにあふれた
日曜学校を目指して —

今年も、日曜学校の各奉仕者が一同に会する「学びと交わり」のひとときを以下の通り開催いたします。

今年の全体主題は『日曜学校教案誌』です。2001年4月、中部中会教育委員会によって『日曜学校教案誌』が刊行されました。講演では、教案誌発行のねらいについておうかがいし、分団では、各分級・奉仕ごとに、それぞれの日曜学校の課題や、教案誌執筆者を交えて教案誌について懇談します。校長先生はもちろん、牧師・日曜学校教師・助手……、重荷を持っておられるどなたのご参加をお待ちいたしております。



主題：『日曜学校教案誌』発行のねらい、その使い方について
講師：相馬伸郎牧師（日本キリスト改革派名古屋岩の上传道所）

プログラム

10:00 ~ 10:30	開会礼拝	村手淳牧師（献金あり）
10:30 ~ 12:00	講演	相馬伸郎牧師
13:00 ~ 15:00	分科会	幼稚科、小学科下級、中級、上級、 中学科、礼拝説教
15:00 ~ 15:40	全体会	

日時：2001年11月23日（金・勤労感謝の日）
場所：日本キリスト改革派名古屋教会

名古屋岩の上传道所日曜学校の紹介

名古屋岩の上传道所日曜学校校長 相馬直子

1. 名古屋岩の上传道所日曜学校の沿革

1994年、単立教会として開拓伝道を開始し、1999年日本キリスト改革派教会中部中会に加入致しました。開拓当初、いわゆる教会学校は行っておりませんでした。(ただ、単発的に公園に出掛けて行っては、子ども会のように伝道したことはあります。)大人の礼拝式の中で、子どものための短い説教を行い、その後、子どもらは別室で、「全体分級」を行いました。一人の教師が工作をしたり、一緒に遊んだり、子どもの「世話」をするような状況でした。その歩みのなかで、独自のカリキュラムをつくったり、何より大きな事は、教師から、教えの手引きとなるものをとの要請を受け、牧師が『岩の上子どもカテキズム(教理問答)』を作りました。これは、ウエストミンスター小教理問答を基本としており、子どもはもちろん求道者、教会員全員で学びました。教理の体得こそ、キリスト教信仰に生きる道そのものに繋がるとの、牧師の確信による指導がなされました。このように、心ならずも日曜学校として地域の子どもたちに働きかけるまで、手が届かなかった開拓伝道であり、教会形成でありました。

しかし、加入した1999年4月より、朝9時半より10時15分の間、日曜学校を開始致しました。契約の子たちの信仰継承は勿論、いよいよ地域の子どもたちへの伝道に着手したのです。小さな賃貸ビルの一室での伝道は、一般の大人はほとんど来てくれません。大人に信用して頂くには、大変な時間と困難が伴います。むしろ、これまで実行しなかった、子どもへの伝道こそ、このビルでの開拓伝道の突破口、この時期だからこそ有効な手段ではないかとの思いもあって開始致したのでした。このように、日

曜学校としての組織は、未だ日が浅く、今は土台を作る期間として考えております。

2. 現状

今年度から、開始時間を早めて、9時15分から10時15分の日曜学校と致しました。それまでは、主日礼拝式の直前まで、子どもたちの賑やかな声が、祈って備える礼拝式の空気を阻害しておりましたので、早めたのです。ただ、15分早くなっても、子どもたちが分級後すぐには帰りませんので、なかなか礼拝式の空気を整えることは容易ではありません。

最初に、全体の礼拝式を捧げます。その後、幼稚科・小学科下・中・上・中学科・成人科(子らと一緒に来られる契約の子の父兄、未信者の父兄のため)の六つの分級に分かれます。礼拝室十八畳(小学科下、中、上、成人科)、別室七畳(幼稚科)、通路一畳(中学科)と言う狭隘な部屋で行われる分級は「騒然」としております。天気の良い日は外の階段で分級するクラスもあるほどです。幼稚科から中学科までの在籍生徒数は、43名が登録され、平均出席者数は、2001年上半期として、22名です。最近、30名を超える子どもらが集うこともあり、奉仕者や大人と合わせると、40名を越え、まさに分「窮」状態です。ここからも、ご推察していただけるかもしれませんが、岩の上传道所の日曜学校の特徴は、契約の子以上に、地域の子どもたちが集う所にあるかと思えます。これは、私共の伝道の実りではなく、子ども自身が伝道した結果です。もし、私共がしたとすれば、その子ども自身の伝道を励まし、子どもらを受け入れる器である、礼拝式、分級の充実に努めたからであろうと思えます。



2001年合同夏期キャンプ（名古屋、豊明、名古屋岩の上）

3. 日曜学校の中心は子ども礼拝式

名古屋岩の上伝道所の日曜学校の生命線は、この子ども礼拝式にあります。生きておられる主イエス・キリストを紹介し、主イエス・キリストの救いへ、神礼拝へと引き導く上で、言うまでもなく礼拝式が要となります。ですから、その礼拝式じたいが充実することこそ、日曜学校の祝福の基であると思います。分級も、伝道も、詰まるどころ子らをしてより礼拝者として引き、良い礼拝者として整えるための業に他なりません。30分ほどの時間をとります。これまでの2年間は、校長である私と牧師とが交代で説教を担当してまいりました。今年からは、本誌の説教原稿を記している関係上、牧師が担っております。司式は、各分級教師の交代で担います。祈禱、オリジナルの賛美歌、暗唱聖句、子どもカテキズムの暗唱、聖書朗読、説教。その後、各分級となります。子どもの賛美は、教師のオリジナル曲を中心に歌います。また、現在、『子どもカテキズム』を覚える楽しい工夫がなされ、子どもたちは、カテキズム暗唱の時を楽しみにしているようです（大人も！）。子どもの礼拝式の司式の奉仕をされる教師の大切さを思わされます。

ただ現在は、「主の祈り」も「十戒」も「ニカイア信条」も唱えておりません。献金も捧げておりません。子どもの礼拝式をどのように整えるのか、今後の課題となります。ただし、どこまでも「楽しく」生き活きと礼拝することが基本線かと思います。そして、子どもの礼拝式が真の礼拝式として成立しえるのは、洗礼受領者・信仰告白者である教師が「聖霊と真理」をもって三一の神を礼拝しているかどうかにかかってまいります。つまり、礼拝を真実に捧げている教師の交わりの中に、未受洗者・未信仰告白者を迎え入れることによって、キリストの臨在が保証され、単なるキリスト教的集会ではなく、公的な礼拝式として捧げられ、受け入れられていると信じるのが大切であると思います。教師は、主日の大人の礼拝式以上に（？）礼拝者としての自覚が求められるのではないのでしょうか。

4. 日曜学校教案誌

これまで、カリキュラムは、独自に私が作成してまいりましたが、今年度からは、本誌のカリキュラム通りに行っております。カテキズムに則った教案誌は、予想以上に好評で教師に用

いられております。私自身で申しますと、これまで月に一度していた教師会でのカリキュラムの学びが楽になりました。ただし、2号の巻頭言にもありましたように、この教案誌を「虎の巻」にしてしまうようなことは避けたいと思います。カテキズム教育こそ、改革教会の信仰教育の根幹として大切に継承されてまいりました。その影響はローマ・カトリック教会にも波及し、公教要理として継承されて来たかと思えます。しかし、カテキズム教育は、生命の福音、生けるキリストから離れて語られる時には、「つまらない」と言う印象を与えます。ですから、教師自身が教理体得の道を熱心に求め、喜びを持って、福音の証人として生きられるように励む必要があると思います。その意味で、この『日曜学校教案誌』がさらに充実したものとなるように期待しております。また、私共も安易に用いるのではなく、自分自身の学び、さらなる研鑽をめざして利用させて頂きたいと思えます。

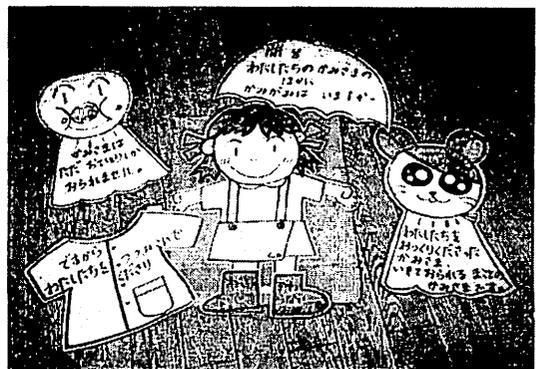
5. 分級

上述のような「騒然」とした分級です。しかし、各担任の先生たちはそれぞれ祈りながら、準備された楽しい良い分級運営をしておられます。ただし、牧師は、分級では、用意したカリキュラムをこなすことを最大の目標にするのではなく、一人一人の子どもを「お祈りできる子ども」へと育て導くことこそ、担任の最大の目標、務めであると強調しています。現状は、短い分級の時間の中でどのようにそれを実現するのか。しかも、時に一人の教師で10人ほどの子どもを見る分級もあり、奉仕者が与えられることも祈りです。



6. 夏期キャンプ

毎年、7月20日～21日に一泊のキャンプを行っております。キャンプにだけ参加するお友達もいますが、キャンプによって日曜学校に繋がったお友達も少なくありません。一つの主題を定め、「少女ポリアンナ」から「良かった探し」(キャンプを通して、神さまに感謝する良かったことを幾つ見つけ数えることができたか)、「クマのプーさん」から「良いとこ探し」(キャンプを通して、お友達の良いところを幾つ見つけ数えることができたか)をしました。教会員ほぼ全員が奉仕者となり、30名余りのキャンパーのための奉仕を担います。教会の一大行事です。今年は、名古屋地区の3教会、名古屋教会、豊明教会と合同のキャンプを行いました。総勢80名のキャンプで、中会に連なる教会ならではの、一教会だけでは味わえない素晴らしい恵みを、奉仕者も参加者も与えられました。このキャンプにも初めてキリスト教に触れた中学生も4名与えられ、大きな伝道のときともなりました。今後も、キャンプ自体が新しい子どもたちへの伝道にもなるような楽しいキャンプ、日頃、個人的に祈ったり、遊んだりすることができない子どもたちとゆつくり交わりをすることのできるキャンプをめざしたいと思っています。



7. 子ども岩の上だより

今年から、ご父兄向けに、日曜学校通信「子ども岩の上だより」を季刊で発行しております。ご父兄に、日曜学校の姿を知って頂き、やがては、教会に足を向けて頂くためです。分級と担任の紹介、行事の案内などを載せております。また、今年の春には、子ども礼拝式と主日の礼拝式との合同の礼拝式を、大人の時間帯で、説教はいつもどおり子ども説教で行いました。初めての試みでしたが、初めて出席して下さったご父兄も数名与えられ、これまでのどの伝道集会より、新来者が多く与えられることになりました。教会員の理解も得て、秋にも同様の主日礼拝式を計画しております。

8. おわりに

賃貸ビルの小さな伝道所ではありますが、神はそれだけに、建物（外側）の影響を受けない、子どもたちへの伝道に活路を開いてくださいます。日曜学校に地域の子どもの数が少なくなって久しい今日の状況です。しかし、主イエスキリストの福音は、大人も勿論ですが、子どもたちも、必要としています。いえ、主イエスさまこそ、子どもたちを招いておられます。私共は、「子どもたちを私のところに來させなさい」との主イエスの命令に従う教会であり、日曜学校でありたいと思います。勿論、契約の子らへの信仰の継承こそはその大前提であります。

岩の上子どもだより

日本キリスト改革派教会名古屋岩の上伝道所 日曜学校だより
458-0008 名古屋市緑区平手北2-1701 3階
inFax 052-876-3954 / 877-8962

2001年8月26日 №2
「今こそ、日曜学校の出發です」
教師 相馬伸郎

私共の日曜学校にいつも、大切なお父さまを送り出してくださいませこと、心より感謝申し上げます。



「教育基本法」、日本国憲法と並んで日本の教育のあり方の基本を指し示す法律の中に、公教育において、特定の宗教を教える事を禁じる条項があります。この法律は、明治憲法以来、「天皇を中心とする神の国」というイデオロギーを植えつけ、国づくりをした結果もたらされた先の太平洋戦争の「増殖」への深刻な反省が基本にあります。

実に、國の為、天皇のために殉じる子どもたちを作るための装置が、国家神道（靖国神社は敬意高揚の装置）でした。ですから、教育基本法において、特定宗教への国家の関与（国家宗教）は厳しく規制してあるわけです。それ（政教分離原則）は、これから大切に保持しなければならないと思えます。

しかし、ただ「教えない」ということだけで問題は解決されるでしょうか。一切の宗教教育を禁ぎられない子どもたちには、正しく生きる力、愛、思いやり、生命への畏敬・・・が育ちにくいと言う問題です。（あるいは、オウム、エホバの証人・足塚彦一・・・宗教の名のもとにいかわしい教えに騙されるのは、宗教に関してあまりにも無知であるからなのではないでしょうか。）

これにつけこんで、「新しい歴史教科書をつくる会」などの極端な歴史認識、思想をもって、改めて子どもたちを「洗脳」しようとする企ても進められております。

今こそ、私共「日曜学校」の出發であると信じております。物質中心の世界観、文化が子どもの心をむしばみます。それに抗して、正しい「世界観」、目に見えない心・「愛」・「生命」を育むのがキリスト教教育なのです。皆隣と共に、愛する子どもたちの健やかな成長の為に、これからも働きたいと祈っております。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」伝道の書12:1

日曜学校の働きは、教会の働きです。教会員全員の絶えざる祈りに支えられて、召された教師の尊いご奉仕によって担われます。皆様と、この尊いご奉仕に召されたことを光榮に思い、神と子どもらへの愛に基づく忍耐と希望をもって、次主日の奉仕の準備に励みたいと思います。「こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」(コリントの信徒への手紙 一 第15章 58節)

教会学校教師のための実技講座

吉田実 (神戸長田教会牧師)

- 今回も、西部中会機関誌『リフォルマング』第18号、第22号(西部中会教育委員会発行)より、「教会学校教師のための実技講座」を紹介いたします。
- 私たちが子どもたちに伝える福音は、昔も今も変わりはありません。けれども、今の時代の子どもたちを教会学校に呼び集めて神様の愛を伝えるために、その提供の仕方やプラスアルファの部分で、いろいろな工夫ができる

のではないかと思います。今の子どもたちの多くは、ファミコンゲームに代表されるような、技術的に高度な玩具に囲まれて生活しています。けれども、そのような中で、手作りの暖かさに飢えている子どもたちが多いこともまた事実です。そのような子どもたちのために、既製品にはない暖かさを伝えることができるようなアイデアを、ご提供できればと願っています。

吉田実

楽しいクリスマスカード その①『あなたへのプレゼントカード』

ただんだ状態は
まるでプレゼントの
箱みたい。



※ 開くと下ようになります。
(拡大コピーもして作ってみて下さい。)

—— 山折り } です。
---- 谷折り }



For		You
「神はその独り子を お与えにしようと 心を配られた。」		独り子を信じれば、一人し或ひも 救済の命を得るためである。 (ヨハネによる福音書3:16)
Merry Christmas	and	Happy New Year
	_____ _____ _____	

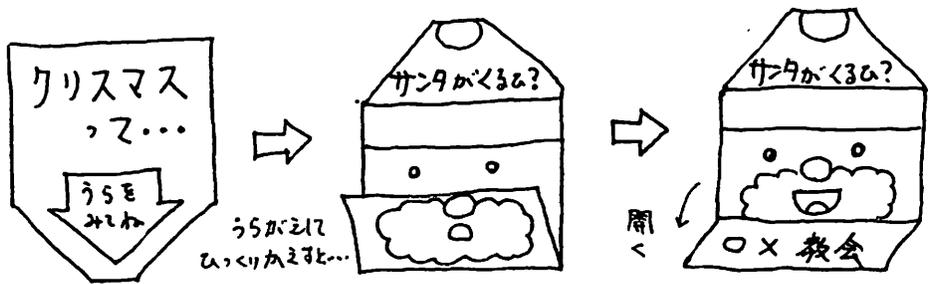
山折り

谷折り

※ 折り目をつける時は
定規をあてると
やりやすいです。

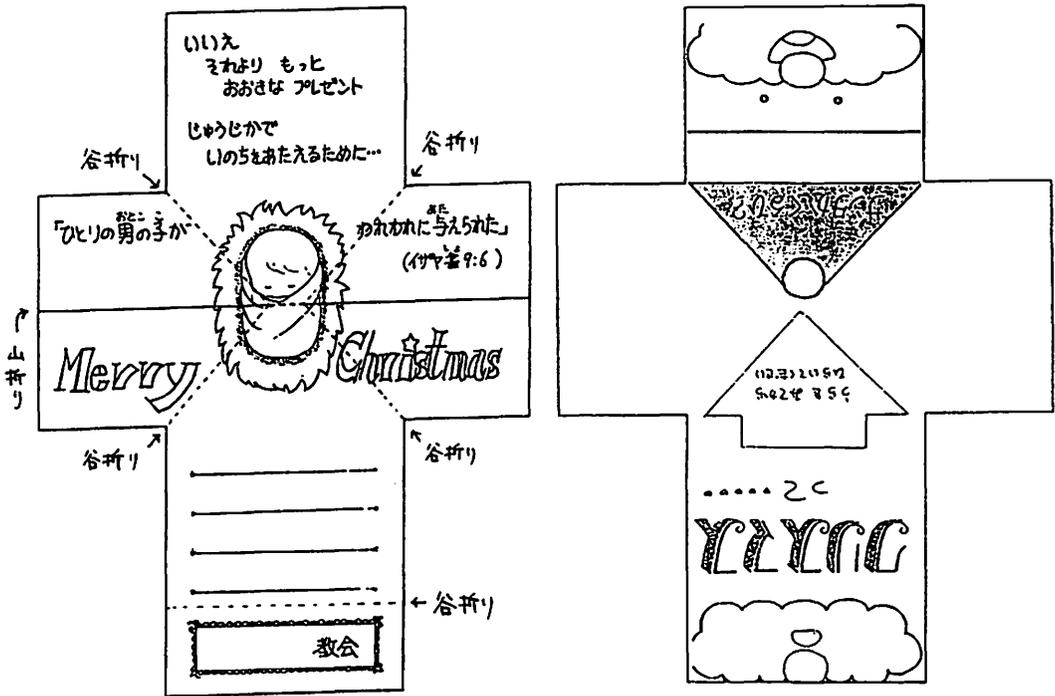


楽しいクリスマスカード その②『サンタじゃないよ！ 十字架型カード』



下の図のような原稿を作って、表裏をあわせて印刷するか2枚作りはり合わせます。

さらに開くと十字架型のカードに！



拡大コピーをして作ってみて下さい。

協力：単立垂穂教会 伊藤 淳美 姉

○手作りスライド劇を作ろう！

毎年クリスマスに、降誕劇などの劇に取り組まれることが多いと思います。劇の練習が始まると、「もうすぐクリスマスなんだ！」と、子どもたちの心も高鳴ります。しかし、時には出演者がそろわなかったり、練習時間がうまく確保できなかったりと、苦労することも多いのではないのでしょうか。そんなときに、この手作りスライド劇は最適です。

カメラで撮影するだけですから練習はいりません。準備さえしっかりしていれば、一、二回集まるだけで作ることができます。当日上映するときの、劇のように慌ただしくなく、みんなでゆつくりと楽しむことができますし、何度でも上映することができます。きちんと保管しておき、子どもたちが大きくなってから、再び上映してみるのも楽しいものです。

吉田実



ステップ1 資料を集め、台本をつくる。

どんな劇にするのか、いわゆる降誕劇か、もっと別のものにするのか。資料を集めて考えましょう。台本集のようなものも出版されていますし、絵本なども参考になります。何をするか決まったら、出演者を考えて台本を調整し、完成します。



ステップ2 配役を考えながら絵コンテを作る。

誰がどういう衣装で、どういう場所でどういうポーズでとるか、スライドにする場面のイメージを、最初から最後まで簡単な絵で描いてみます。これがきちんと出来ていると、当日の撮影はスムーズに進みます。

教会にある劇の衣装をあらかじめ調べておきましょう。なければ必要なものをリストアップし、教会のみなさんに呼びかけて、何とか集めましょう。風呂敷や端切れが集まるだけでけっこう何とかなるものです。

〈絵コンテの例〉



ステップ3 場面ごとに撮影する。

全体の説明をし、衣装をつけて撮影します。フィルムはリバーサルフィルムを使用します。(現像に出すと、そのままスライドになって返ってくる。) 同じ場面を念のために2枚程撮っておくと安全でしょう。タイトルや END マークも忘れずに。



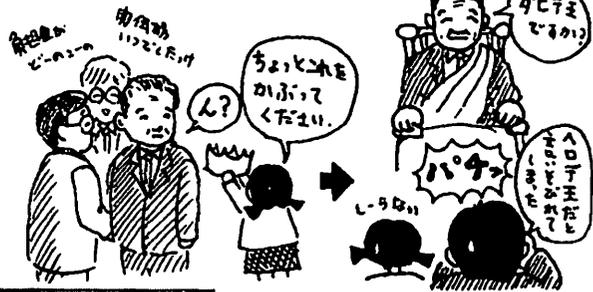
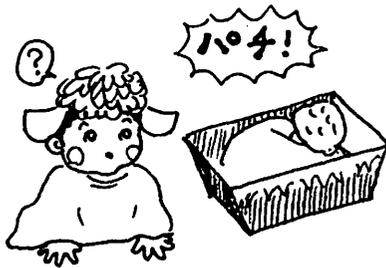
ステップ4 せりふを録音する。

台本の読み合わせの練習の後、録音します。BGM 等も考えておきましょう。時間のない時は、当日スライドを映しながら、みんなで読み上げてもよいでしょう。

☆「準備時間の短縮」「当日ゆっくり出来る」以外にも、こんなにいいことがある!

※ 劇に出演できないような小さな子供でも、参加できる。

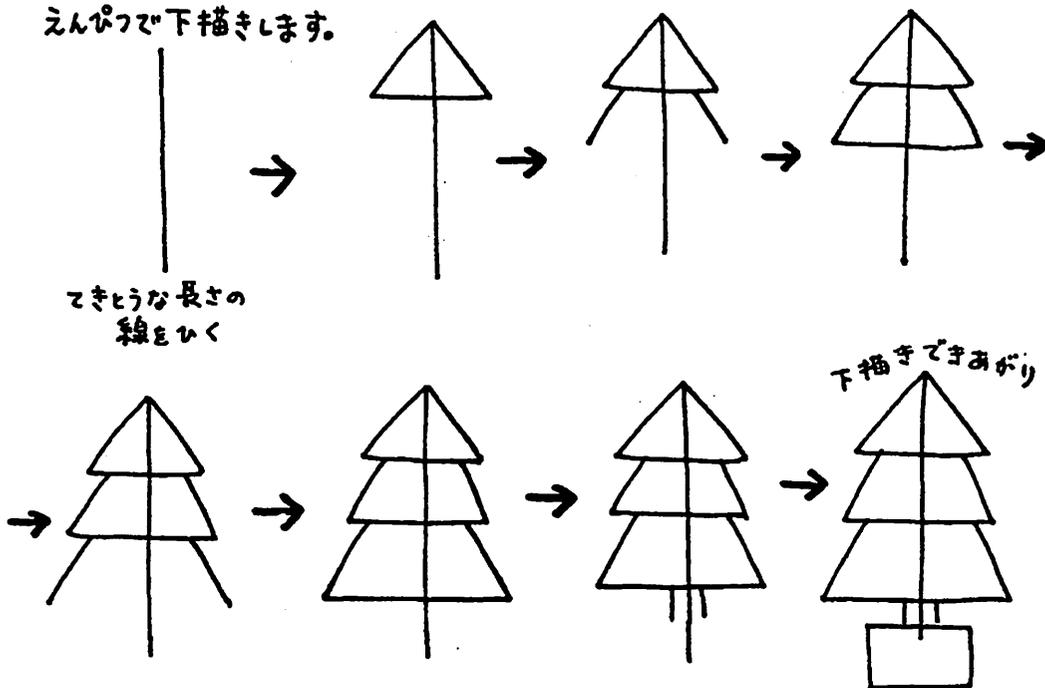
※ 普段忙しい長老さんや、大人の人達にも協力していただきやすい。



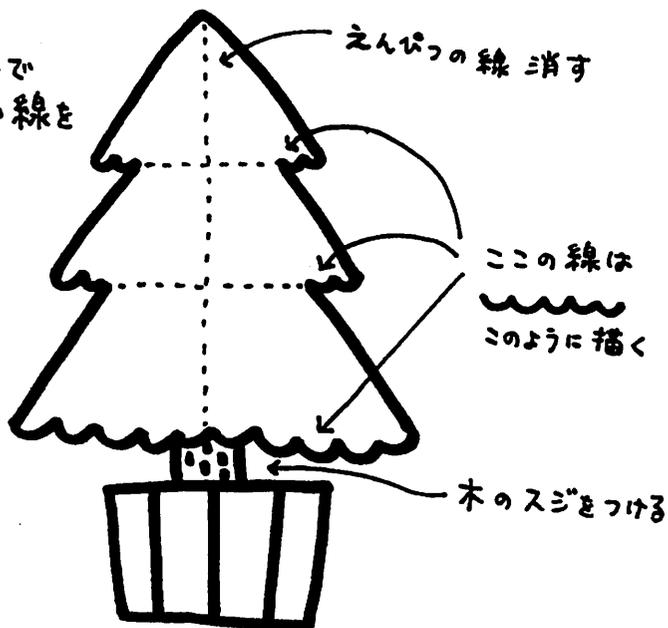
描いてみましょう!

《クリスマス ツリー》

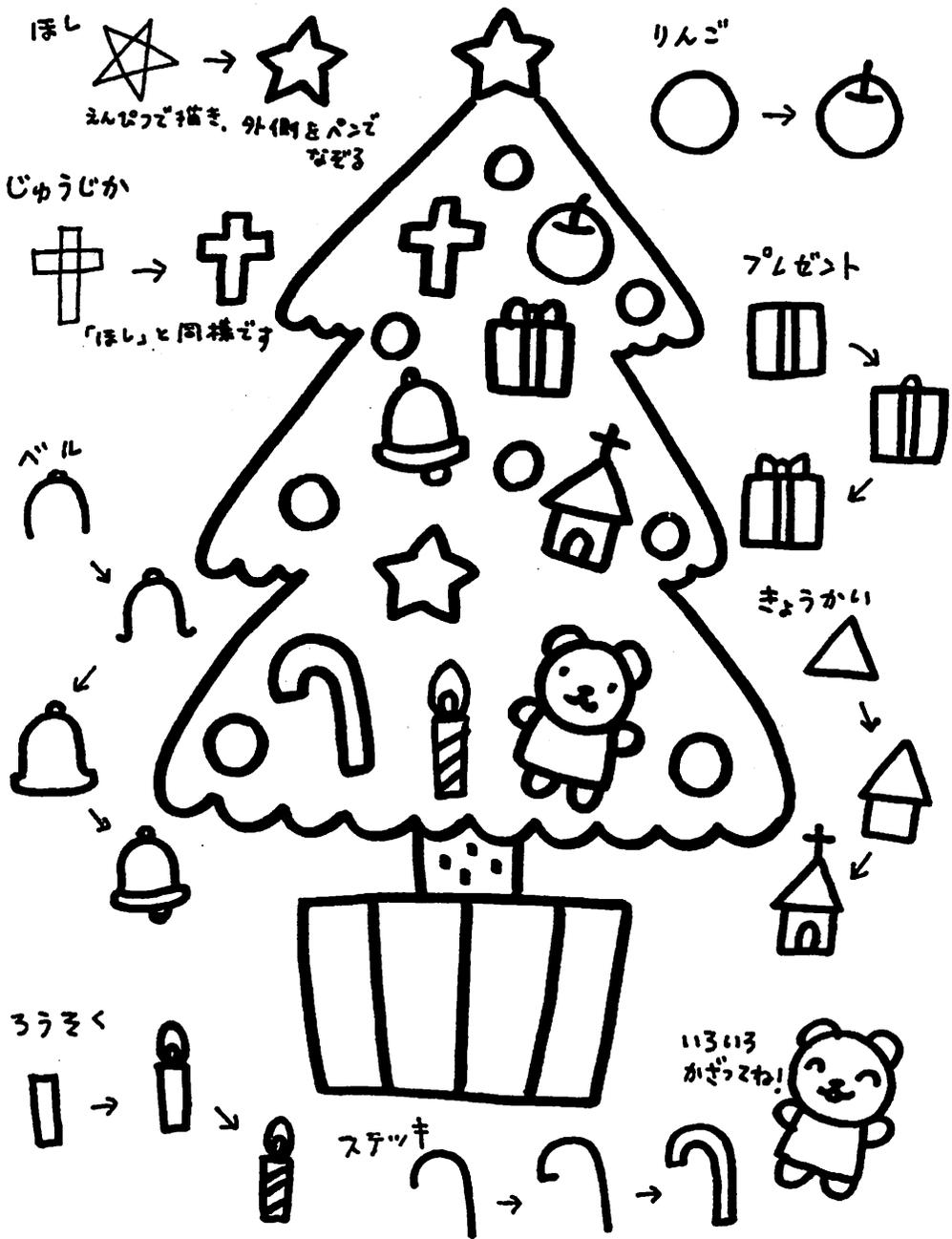
えんぴつで下描きします。



ツリー外がわをペンでなぞり、えんぴつの線を消しゴムで消してできあがりです



クリスマスツリーに、いろいろな かざりをつけてみましょう



※「描いてみよう!やさしい絵」岡野美佳姉(青葉台教会)を、『1996年教会学校教師ノート第20号』(日本キリスト改革派教会東部中会教育委員会)から転載いたしました。

日曜学校 2001年度カリキュラム (10～12月分)

2年サイクル第1年(子どもカテキズム問1～33)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
10月7日	あがない主	問21	小教理20、ハイデ15,18
		ヨハネ7:53-8:11	ヨハネ8:11b
神の主権的救いの御計画、神の恵みの選びへの感謝、讃美を。			
14日	二性一人格(1)	問22	小教理21,22、ハイデ35,36
		ルカ1:26-38	ルカ1:35
神であり人である主イエス・キリストを紹介する。ここでも福音の物語をもって。			
21日	二性一人格(2)	問22	小教理21,22、ハイデ16,17,18
		ヘブライ2:14-18	ヘブライ2:17
なぜ、救い主は二性一人格でなければならないのか。ヘブライ書から学ぶ。			
28日 宗教改革記念	主は救い、イエス	問23	ハイデ29,34
		マタイ1:18-25	マタイ1:21
主イエスの御名。主イエス・キリストの名前を信仰の喜びをもって呼ばせたい。			
11月4日	神の御子、キリスト	問23	ハイデ31,33
		マタイ16:13-20	マタイ16:16
キリストの職務。主イエス・キリストの名前を信仰の喜びをもって呼ばせたい。			
11日	謙卑のキリスト	問24	小教理27
		マタイ27:45-50	マタイ27:46
主イエス・キリストはへりくだり、私たちのためにすべてを捧げてくださった。			
18日	高擧のキリスト	問24	小教理28
		使徒1:6-11	使徒1:9
主イエス・キリストは高く挙げられ、私たちのために働いておられる。			
25日	預言者イエス	問25	小教理24、ハイデ31
		マタイ7:24-29	ヘブライ1:2a
生ける神の言葉イエス・キリストが、聖書・教会・礼拝において語っておられる。			
12月2日 待降節	約束の実現を待望する		
		イザヤ8:23b-9:6	イザヤ9:5
神の約束の確かさに信頼して、待ち望んで生きることに招く。			
9日 待降節	預言の成就		
		マタイ1:18-25	マタイ1:22-23
神の預言の成就を示し、御言葉への信頼を養う。			
16日 待降節	神の愛の勝利		
		ルカ2:1-7	ルカ2:7
この世に対する神の愛の勝利としてのクリスマスの事実を伝える。			
23日 クリスマス	クリスマスの喜び		
		ルカ2:8-21	ルカ2:10-11
クリスマスの大きな喜びを伝える。			
30日 年末	感謝をささげよう		
		詩編103	詩編103:2
一年の恵みを共に振り返り、感謝する。			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

テキスト ヨハネによる福音書7章53～8章11節

律法学者たちやファリサイ派の人々がイエスを訴える口実を得るために、姦通の女を引き連れてきて、モーセの律法に訴えてイエスを試みるが、逆にイエスの言葉によって自分たちの罪が暴かれてしまうという物語です。その渦中に置かれる罪を犯して捕らえられた女性は主イエスのもとに留まることにより罪を赦され、解き放たれます。

(1) イエスに対する試み

律法学者たちやファリサイ派の人々が姦通の現場で捕らえられた女を連れてきて、イエスに「こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。

ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」という問いかけをするのは、モーセの律法解釈を問うているのではなく、6節「イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。」(レビ20:10、申命22:22、24参照)

つまり、モーセの律法に従ってその通りに石で打ち殺せとなれば、当時ユダヤの国はローマの支配下にあり、こうした裁判事件を自分たちの判断で裁いて実行することはローマの権力に対する反抗と見られて、後に十字架にかかったとき総督ピラトのもとで訴えられたように、ローマへの反逆という意味で訴える口実を与えることとなります。逆にモーセの律法には従わない判断を示すと、イエスは聖書の御言葉を守らないということとこれまた聖書を信奉するユダヤの民衆に訴える口実を与えることになるわけです。

(2) イエスの答え

このような試みにイエスがとった態度は、6節「イエスがかがみ込み、指で地面に何かを書き始められた。」7節「しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。」8節「そしてまた、身をかがめて地面に書き続けられた。」これほどの丁寧な描写は、このような悪意ある試みにイエスは終始無視をされてのらな

かった様子を説明したようです。イエスは答えはしましたが、それはしつこく問い続けたためだと説明しています。かつてサタン誘惑にのらず、それを退けられたように、ここでもその試みにのらず退けています。かえってイエスは短い答えを与えることによって、二者択一の悪意ある試みをひっくり返して、訴えようとしている彼ら自身の罪を暴き出しています。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が」というひとことがそれです。「年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい」という姿に罪を暴かれた人間の姿が描かれています。蛇の誘惑にのって墮落したアダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れた姿に似ています。(創3:8)

(3) 残った女とイエス

この物語は残された女性とイエスとのやりとりを丁寧に描いていますから、物語の中心点は罪を描き出すことよりも、むしろ暴きだされた罪にイエスが「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と言った言葉にあります。「罪に定めない」という言葉は「罰することをしない」の意味で罪を認めながらもその罰の執行を猶予しておられます。加えて「行きなさい。もう罪を犯してはならない」と言って、真ん中に立たされて追いつめられた女性に悔い改めて立ち帰るチャンスと新たな人生を与えられています。渦中に置かれた女性は人々が去っていく中で、同じようにそこを去ることもできましたが、彼女はただ一人イエスの前に残っています。イエスの前で罪が明確になりますが、そのイエスの前に留まることで、イエスによる福音も明確にされます。暴き出された罪に対するこの福音は「罪を犯したことの無い者」イエスによる十字架の贖いを想起させます。

カテキズム 子どもカテキズム 問21
 ウェストミンスター小教理問答 問20
 ハイデルベルク信仰問答 問15, 18

子どもカテキズム

問21 神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ、ちがいます。

神さまは、神の民となるように最初から私たちを選んでくださいました。

罪から救い出してくださるあがない主を与えてくださったのです。

〈あがない主イエス・キリスト〉

「あがない」という言葉の意味は旧約聖書以来、身請け金を支払って奴隷を買い戻すといった場合にあってはまるものですが、そこから転じて、神がみ子イエス・キリストの十字架の身代わりの死によって、罪人を救し、罪の報酬としての死から解き放って下さる恵みのみわざを意味するようになりました。

神は始祖アダムと「業の契約（命の契約）」を結ばれ、アダムが善悪の木から取って食べてはならないとのみ言葉に従うことを条件に、彼に永遠の命の祝福を約束されました。しかしアダムはみ言葉に背いて墮落しました。また「業の契約」はアダムのみならず彼の子孫とも結ばれていましたので、アダムの最初の罪と、その報酬としての死は、彼の子孫である全人類にも及んだのです。そして全人類は、罪と死のさだめからみずから救うことにおいて無能力となりました。

けれども憐れみ深い神は、全人類を罪と悲惨の状態のうちに滅びるままにはされず、ただご自身のよきみ心のゆえに彼らを罪と悲惨から救い出すために、「恵みの契約」を結ばれたのです（ちなみに「契約」とは聖書においては、人格的な交わりのこと）。

ひとり子イエス・キリストは、恵みの契約の仲

立ち手です。イエス・キリストはご自身は罪なき方であったにもかかわらず、罪の代価としての死を十字架上で死なれることによって、罪の奴隷となっていた私たちを神のものとして買い戻し、永遠に神とともに生きる命の恵みへと招き入れて下さったのです。

〈永遠の選び〉

恵みの契約は、神の永遠からの選びにもとづくものです。恵みの契約はその名前のおりに、罪ゆえに救いにおいて無能力となったアダムの子孫に対する神の主権的な、まったく無条件の救いの恵みによって成り立っているわけですが、そのように神の無条件の恵みが語られるところでは、おのずから神の永遠からの選びの恵みということも語られずにはおかれません。

なぜなら神の救いへの選びが条件的なもの、すなわち人間の側の、この地上の歴史においてなされる何らかの功績にもとづくものであるとすれば、すでにそれはひたすらな恵みではなくなってしまうからです。救いへの選びは、人間の手出しのできない「永遠の」次元においてなされました。だからこそ掛け値なしの恵みの選びであるのです。

ヨハネによる福音書 7章 53節～8章 11節
子どもカテキズム 問21

「罪を犯した女性」

〔単元のねらい〕

創世記からの説教が続いた。今日は、いよいよ「恵みの契約」の仲保者イエス・キリストを直接に紹介する。主イエスが自分自身にしてくださいました御業を心を込めて語りたい。福音の物語は、すべて主イエス・キリストがあなたにしてくださいました出来事として受け止めることができるはずである。この女性は今日説教するあなた自身の姿にほかならない。「わたしもあなたを罪に定めない」とおっしゃってくださいました主イエス・キリストへの感謝、愛の真心、救いの喜びを、子どもたちにむかって真実に証したい。

ある朝のことです。イエスさまは、エルサレムの神殿の境内で神さまの国のお話を心を込めて語っておられました。すると、そこへ律法の学者先生たちがとてもこわい顔をして駆け込んで来ました。見ると、その男の人達の中に一人の女の人がおりました。とてもおびえています。顔を真っ赤にして、そしてうつむいています。どうしたのでしょうか。

一番偉そうな律法の学者先生が言いました。「イエス先生、この女ときたら、律法を破りました。結婚もしていないのに、みだらな事をしたのですよ。我々はその現場を押さえて今こうして引っ張って来たんです。モーセの律法では、このような女は石打ちの刑で殺しなさいとハッキリ書いてあります。さて、あなたはどうかしますか。」

この学者はどうして、イエスさまのところに、わざわざこの女性を連れてきたのでしょうか。それは、イエスさまを何とかして困らせよう、殺してしまおうと考えていたからです。イエスさまがもしも、「その女性を殺すことはかわいそうではないか、見逃してあげなさい。」とおっしゃったら、律法の先生たちは、心の中で「シメタ」と思うでしょう。何故ならその時には、イエスさまが神さまの律法を破ることを人々にそそのかしたという理由で、イエスさまも殺してしまえるからです。また、逆にもしも、イエスさまが、「それなら仕方がない、その女性は石打ちの刑で殺さなければならぬ。」こうおっしゃったら、おそらく、今まで、真剣に教えを聞いていた人は、「ああイ

エスさまも今までの律法の先生と同じなのだ」と思って、イエスさまから離れて行くかもしれません。どっちにしても、律法学者は心のなかで「イエスをやっつけるためにこの女を捕まえることができ、本当に良かった。シメシメ」と考えていたのです。

さて、大勢の人々がこの女の人をジロジロ見ている、イエスさまはかがみ込んでしまわれました。皆は、どうしたのかとジッとイエスさまの方を見ます。イエスさまは地面に何かを書き始められました。律法の学者先生は、イライラしています。「イエス先生、あなたならどうしますか。この女をどうしますか。答えなさい。答えられないのか。何とか言いなさい・・・。」しつこく問い詰める彼らをご覧になって、遂にイエスさまは立ち上がってこうおっしゃいました。「あなたたちの中で罪を犯したことのない者が、まず、この女に石を投げなさい。」

問い 19 を覚えましたか。皆で言いましょう。問い 19、「あなたは罪人ですか。」答え、「はい、私も神さまの御前に罪人です。」それなら、僕たち私たちはこの女の人に石を投げつけることができるでしょうか。できませんね。私も神さまの御前に罪人だからです。

罪人だったら、どうされなければならなかったのでしょうか。問い 20 ももう一度、言いましょう。「あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。」答え、「はい。神さまの怒りを受けなければなりません。」

さて、このイエスさまのお話を聞いていた人はどうしたと思いますか。するとどうでしょう。歳をとった方から順に、一人また一人と立ち去ってしまいました。そして、とうとう誰もいなくなってしまったのです。イエスさまはおっしゃいました。「女の人、あなたを罪に定める人は誰もいませんでしたか。」女の人はおそろおそろ言いました。「主よ、誰もおりません。」

さて、でもちょっと考えてみましょう。イエスさまが「女の人、あなたを罪に定める人は誰もいませんでしたか。」とおっしゃった時、彼女は、「誰も」と言いましたね。でも、本当に誰一人としてそこにはいませんでしたか。違うでしょう。たったお一人、そう、イエスさまがおられるのです。イエスさまは、これまで罪を犯したことはありません。イエスさまだけは、罪人ではありません。イエスさまだけは罪を犯したことのないただお一人の人間です。そして、同時にイエスさまは神さまです。そのイエスさまが、神さまがお決めになられた律法を破ったこの女の人に石を投げ、罰しても構いません。イエスさまなら、この女性を罰するべきです。

ところが、イエスさまはおっしゃいました。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。」この女性はイエスさまに罪を、本当は石を投げつけられて殺されなければならないのに赦していただいたのです。でもそれなら、彼女の犯した神さま

への大きな罪はどうなるのでしょうか。その罪はそのまま残ったままです。イエスさまは、彼女の罪をもう最初からご自分がお引受になろうとお決めになっておられたのです。「わたしもあなたを罪に定めない」とおっしゃった意味は、こういうことです。「天のお父さまは、あなたを赦してあなたを神さまの子どもとするために、あなたが受けるべき罰を身代わりに十字架で受けさせるためにご計画されました。神さまはあなたを、愛しているからです。十字架を信じれば、あなたの罪は赦されるのです。だったら、良いですか。これからは決して、罪を犯してはなりません。」

彼女は、その後で本当にイエスさまがゴルゴダの丘で十字架に掛かって自分の身代わりに死んでくださったことを知ったはずです。そして、心からこのように感謝し、決心したはずです。「もうわたしは決して、罪を犯したくない。もう神さまを悲しませることはしてはならない。これからは、赦された神さまの子らしくイエスさまを信じて生きます。」

イエスさまはこの人の罪だけではありません。先生の罪も、皆の罪も全部背負って、十字架で死んで下さいました。そしてお甦りになられました。だから先生は、イエスさまを信じているのです。大好きなのです。イエスさまに感謝して、お祈りしているのです。

今週の暗唱聖句

わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。

これからは、もう罪を犯してはならない。

ヨハネによる福音書 8章 11節 b

〈目標〉

罪のために神様と遠く離れてしまった人間を、神様は見捨てず、イエス様の十字架によって、神様と結ばれる道を下さったことを伝える。

〈指導上の心得〉

神様と離れていると、心はとても暗くて悲しいけれど、神様と結ばれていれば、心はとても嬉しくて安心なことがわかるように話す。

〈展開例〉

皆の中に、神様の言うことを聞かなかった子がいたとします。皆はその子に石を投げてもいいかな？ イエス様は、「皆の中に『神様の言うことを聞かなかったことは一度もありません』。そういう子がいたら、その子は石を投げてもいいよとおっしゃいました。皆は、投げられるかな？ 先生も皆も、投げられないね。悲しいけれど、皆誰でも、神様の言うことを聞けない心があります。この心を罪といいます。実は、この罪のために、私たちは神様と遠く離れてしまっています。

神様は、私たち皆のお父さん。だから、このお父さんと離れているということは、迷子になるよりもっともっと寂しくて、辛くて悲しいことです。でも、天のお父様は、私たちが一人ぼっちにならないように、神様への道を下さいました。それがイエス様の十字架の道です。

(視覚教材を使いながら)

イエス様は私達の罪のために十字架にかかって死んで下さり、3 日目に生き返って下さったので

す。そして、そのことを信じれば神様としっかり結ばれるようにして下さったのです。だから、イエス様を信じていれば、いつもどんな時も、ずっと寂しくないのです。うれしいね。

〈お祈り〉

天のお父様、イエス様という道を下さってありがとうございます。神様と一緒に、いつも寂しくないことを忘れないようにして下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈視覚教材〉十字架による道

用意する物

画用紙2枚、カッター、はさみ、色鉛筆 or クレヨン

〈歌〉『ふくいん子どもさんびか』

61番「じのないほんのうた」

〈工作〉字のない本

用意する物

色画用紙(緑、黒、赤、白、黄)、のり、はさみ

※今号では、試みとして、幼稚科視覚教材と工作を、別掲載といたしました。10月7日分は121ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・ 祭司长、ファリサイ派の人々は、イエスさまを訴える口実を、探していました。
- ・ 一晚オリブ山で、祈っておられたイエスさまは、朝早く再び神殿の境内に入られました。
- 本 ・ 祭司长、ファリサイ派の人々は、十戒を破って捕まえられた女の人を連れてきて、石で打ち殺すべきだ、と迫りました。
- 結 ・ 「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と、おっしゃいました。

* イエスさまご自身が、人々の心の中にある「かたくなな心」(小石)を投げつけられて十字架の上で死なれました。

* * 罪人を滅びるままに、お見捨てにならない神は、罪の身代わりであるイエスさまの十字架によって私たちをお救い下さるのです。

伝言板

十戒を思い出してみよう。神さまに愛されている僕たち私たちは、それを守りたいと思うよね。でも、こころが弱っている時に、大きな誘惑が襲ってきたら、その誘惑に負けて十戒を破ってしまうことがあるかもしれない。その時、この聖書の箇所を開いてイエスさまに、お祈りして下さい。

「イエスさま、ごめんなさい。十字架のお苦しみは、僕(私)のためでした。ありがとうございます。イエスさまの深い愛に、こたえていける子どもにしてください。アーメン」

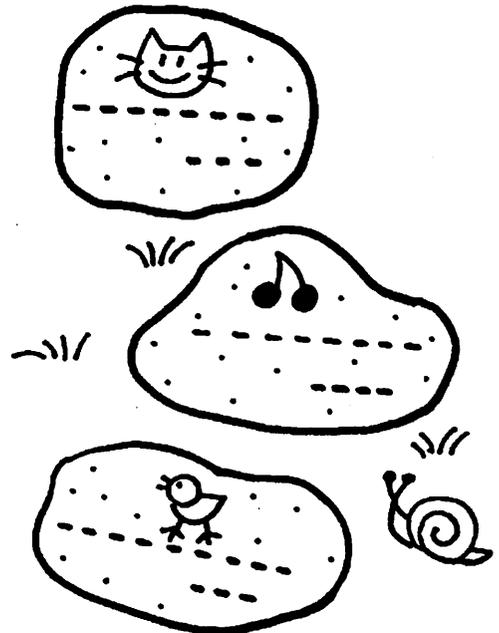
〈やってみよう〉

- 材料 ・ 大人のこぶし大の「小石」
(川原・海があれば見つけやすい)
- ・ 油性マジックペン
(あればポスターカラー)

作り方

- ・ 石を洗って、マジックペンで「わたしもあなたをつみにさだめない」(ヨハネ 8:11)と書く。
- ・ 空いているところに、好きな絵を描く。
- ・ 乾いたらニスを塗ってもいい。

紙類の重しに
使ってネ!



〈目標〉

主イエスは、私たちの罪を完全に赦してください
ることを学ぶ。

〈指導上の心得〉

自分自身が、主イエスに救われた確信と喜びを
持って、その喜びを伝える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をし
ていきましょう。

- ・神様は私たちの罪を赦されない方なのか？
- ・私たちの罪を赦し、私たちに罪がないとお
っしゃってくださいるのは誰か。
- ・なぜ、私たちは罪に定めないと主はおっしゃ
られるのか。
- ・主が私たちの罪を贖うために十字架に架かっ
てくださり、私たちの罪を赦して下さったこと
がどんなに嬉しいことなのかを、最後に確認し
ましょう。

〈ワーク〉

1. 私たち人間は、神様の目から見たらどのよう
に見えるのでしょうか？
a) とても良い人 b) 悪い人 c) 正しい人
2. 神様は私たち人間が、滅びることを嬉しいこ
とと思われる方でしょうか？
a) はい b) いいえ
3. 神様は、私たちが滅びてしまわないためにど
うして下さったのか、考えて書いてみよう。
4. ヨハネによる福音書 8:11 の後半を書いて、覚
えましょう。覚えたら、先生の前で言ってみま
しょう。

答え 1. b 2. b

〈目標〉

主イエス・キリストが女の罪を赦されたのは、
その罰をご自分が代わりに引き受けるおつもりで
あった。あがない主の愛を知る。

〈指導上の心得〉

「姦淫」・「さばき」という言葉について、説
明が必要。またペープサートは、子供たちがうま
く再現できるよう教師が手伝うこと。教師もカテ
キズムや聖句の暗唱をすること。

〈展開例〉

(1)ペープサート

- ① 3つのペープサートを用意する。(ア)怯えて泣
いている女の人、(イ)怒り、訴える人々、(ウ)
イエスさま。
- ② こどもたちに、3つのペープサートを使って、
物語を再現してもらおう。この時「あなたたち
の中で罪を犯したことのない者が、まず、この
女に石を投げなさい」と「わたしもあなたを罪

に定めない。行きなさい。これからは、もう罪
を犯してはならない」との主のお言葉を使うこと。

- (2)Q&A: Q1.この女の人、どこが悪かったのだ
ですか。A.姦淫の罪を犯したから。
- Q2.イエスさまはなぜ罪を犯したことのない人が
石を投げなさいと言ったのですか。A.本当に人
を裁くことができるのは、罪を犯したことのない
人だけだから。
- Q3.イエスさまが女の罪を赦したのは、なぜです
か。A.女の罪の罰を全部、ご自分で引き受ける
おつもりだったから。
- (3)暗唱カテキズム: ホワイトボードに全文を書
き、少しずつ消しながら、カテキズム問21を、
みんなで暗唱する。

〈祈り〉

主よ、今日もあなたの赦しと愛を教えてください
さってありがとうございます。私たちが罪を犯す
ことのないよう助けてください。

〈目標〉

イエス様が姦淫の女に示された御言葉から、イエス様こそが、私たちを罪から救い出してください、私たちの罪をかわりに負ってくださる方であることを知る。

〈展開例〉

今日の分級では、礼拝で与えられた聖書箇所の中で、最後にイエス様が語られた御言葉についていっしょに考えたいと思います。

○「もう、罪を犯してはならない」

それは、「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」(8:11)という言葉です。

実は、私は最初この言葉に違和感を覚えました。特に、後半の「もう罪を犯してはならない」です。私たちは罪-神様に喜ばれない、神様に背を向けてしまうこと-を犯してしまう存在です。この世にある限り、私たちはだれも「罪」と無関係であることができません。「罪を犯したことの無い者が、まずこの女に石を投げなさい」と言われて、誰もがそこにおれなくなってしまうように、「もう罪を犯してはならない」と言われても「はい、わかりました」とは誰も言えないのではないかと思っただけです。イエス様がこうおっしゃった真の意味はどこにあるのでしょうか？ これは単なる注意の言葉に過ぎないのでしょうか？

○罪の根本的な解決をくださる方

この女性の罪は「姦淫」=性的な罪(現代で言う「不倫」)です。彼女はなぜ、このような罪に陥ったのでしょうか？ それは彼女が非常に孤独だったからではないかと思っただけです。独りぼっちで寂しい心が、彼女を性的にだらしない生活へと招いたのです。そんな彼女に対して、イエス様は、何をしてくださったのでしょうか。

イエス様の「罪を犯したことの無い者が…」という言葉によって、だれ一人もいなくなってしまう、イエス様だけがお残りになりました。イエス様だけが、彼女に対して石を投げるができるお方だということです。しかし、そのイエス様は、決して石を投げませんでした。イエス様は、かえっ

て、「あなたを罪に定めない」とおっしゃいました。そして、彼女に新しい命、新しい人生をお与えになります。主イエスが共におられ、独りぼっちではない人生です。イエス様はおっしゃいました。「私があなたと共にいる。だから、もう罪を犯してはならない。」

○彼女の罪はどこへ

イエス様は、「あなたを罪に定めない」とおっしゃいましたが、それは「あなたを罰しない」ということではありません。先週学んだように、神様の完全な正しさは、罪を受容する事はもちろん、見逃す事もできません。それでは彼女の罪はどこへいったのでしょうか？ イエス様は、彼女の罪をうやむやにして、彼女を受け入れ、赦されたものではありません。イエス様は、彼女が罪によって受けなければならない刑罰を、ご自分が引き受けて十字架にかかることによって、ご自分が身代わりになることによって、解決されるのです。

私たちに対しても、イエス様は同じことをしてください。イエス様は私たちの罪をうやむやにするのではなく、ご自分が引き受ける事によって解決してくださるのです。しかも、私たちと共にいてくださり、私たちがもう再び罪におぼれることがないようにしてください。

「これからは、もう罪を犯してはならない」とは、彼女を愛し抜いて、十字架に赴かれる主イエスの、命がけの言葉です。罪を取り除き、命を与える言葉です。この十字架のイエス様からの言葉を彼女が心に刻むとき、もう二度と罪を犯したくはないと、心に誓ったことと思います。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、イエス様が姦淫の女に示して下さった恵みについて学びました。イエス様は彼女と同じ所に立って「私がいるから罪を重ねなくてもいい」とおっしゃってくださいました。そして、その罪を引き受けてご自分が十字架にかかって解決していただきました。この恵みが私にも示されている事を感じることができるようにしてください。

テキスト ルカによる福音書1章26～38節

天使ガブリエルによるマリアへの受胎告知とその言葉を信じて「お言葉どおり、この身になりますように。」と自分を神に委ねるマリアの姿を描く場面です。

(1) 天使ガブリエルとマリア

「ガブリエル」とは「神は力強い」の意。ダニエル書9章21～27節にてでくる神の使いです。一方マリアは「ナザレ」という片田舎に住み「ヨセフという人のいいなづけであるおとめ」です。このような出会いの設定に読者はすぐに旧約以来、神が遣わしてこられた偉大な働き人の誕生を思い起こします。大半の働き人は神の栄光と御業をあらわすために人間的には思いがけないところから登場してきました。(コリント一1章26～29節参照)「天使ガブリエル」と「ナザレ」という片田舎にいる「マリア」の出会いはただならぬ出来事を予感させます。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」という唐突な語りだしとそれに「戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ」マリアの姿はそれをあらわしています。

(2) 受胎告知

この天使ガブリエルの告知によるただならぬ出来事とは言うまでもなく一人の子どもの誕生です。このマリアから誕生する子は「イエスと名付けなさい」と指示されるように、既に生まれ出る前から名前が与えられています。マタイではこの名前の説明をイザヤ書を引用して詳しく説明しますが、ルカでは名付けの指示のみで名前の意味よりも、むしろ誕生前に名前が定まっていることに強調点があります。当然神の約束や計画を想起さ

せるのであり、名付けられて誕生する子は旧約聖書で神が約束された通り、ダビデの王座に座しヤコブの家を永遠に治めるメシアであることが明らかにされます。

この子は一方でマリアが「身ごもって・・・産む」と告知されるように完全な人間性を持っています。しかし他方で「男の人を知らない」マリアに「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」ことによって誕生するのだと説明されるように、超自然的な神の子であることが示されます。この神・人のゆえに「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる」正体を持つのだと説明されるわけです。そして、その働きは神・人のゆえに「父ダビデの王座」に座し「永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」神の民イスラエルの王となるのです。

(3) 神の力

このような不思議な出生を持ち、それゆえに永遠の統治を樹立する王メシアの誕生には、私たちの理解をはるかに超えた神の力があり、まさにメシアの誕生は神の力そのものであることがこの出来事の中でくり返し説明されます。それがマリアに遣わされた「天使ガブリエル」(=神は力強い)の名前にあらわされ、「不妊の女と言われていた」「親類エリザベト」の身ごもりにも証明され、「この身になりますように」と自分を明け渡す「マリア」の姿がさらにそれを強調しています。天使ガブリエル自身が「神にできないことは何一つない。」と断言して、このようなメシアの誕生はまさに不可能を可能にする神の御業であることを強調しています。

カテキズム 子どもカテキズム 問22
ウェストミンスター小教理問答 問21, 22
ハイデルベルク信仰問答 問35, 36

子どもカテキズム

問22 私たち、神の民のあがないの主はどなたですか。

答 私たちの唯一の主、イエス・キリストです。

イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです。

私たちの救いのために聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、

真の人となってくださいました。

イエスさまは、真の神であり真の人であり続けてくださる

二性一人格の神さまです。

イエス・キリストは永遠からいます神であられ、三位一体の第二のご位格、子なる神として父なる神とそのご本質を同じくされ、栄光も力もまた等しくあられるお方です。ウェストミンスター小教理問答問4は神を定義して「その存在と知恵、力、聖、義、善、真実において無限、永遠、不変の霊である」と述べていますが、この定義は父なる神とともに子なるキリストにもそのまま当てはまります。

その永遠の神が同時に真の人となられたと聖書は語ります(ヨハネ 1:14)。そのことは、聖霊のみ力によっておとめマリアの胎に宿るという、超自然的なくすしいみわざによってなされたことでした。

神が人へ変わったというのではなく、人が神へ変わったというのではなく、神が半神半人になったのでも、人が神に似た何者かになったのでもなく、真の神であることをおやめになることなく、同時に真の人となられたお方がイエス・キリストです。その神としてのご性質は永遠から有しておられたものであり、その人としてのご性質は、マ

リアの胎に聖霊の超自然的なみわざによってかたちづくられたのです。その時以来、永遠に神性と人性という異なるふたつのご性質を持ち、しかも二性はひとつのご人格において「混合せず、変化せず、分離せず、分割せず」(カルケドン信条)保たれています。

しかもその人性には罪はありませんでした。ヘブライ書が語るように、イエス・キリストもまた神の子らと同じく血と肉とをそなえておられます(2:14)が、「普通の出生による全人類」(ウェストミンスター小教理問答問16)がアダムにあって罪人であるのに対して、おとめマリアの胎に宿られたイエス・キリストは、聖霊によって罪の汚染から守られてあったのです。

このように真の神であり真の人であるひとりのお方であられるイエス・キリストこそ、神が罪人との間に結んで下さった恵みの契約の真の仲立ち、また真のあがないの主であられるのです。

このキリストを真の神にして真の人であると信じる信仰こそ、キリスト教信仰の生命線です。ここに救いの確かさの土台があるのです。

ルカによる福音書1章26～38節

子どもカテキズム 問22

「御子を宿したマリア」

〔単元のねらい〕

本日から、カテキズムは御子へと集中する。福音の物語をもって主イエス・キリストを描くことが中心となる。これまでも、礼拝説教では主イエスを指さし、主イエスへと心を向かわせてきた。この箇所ではなおさら、その主イエス・キリストが礼拝中に、説教の言葉を通して子どもたち一人ひとりを訪ねて下さることを祈り求め、信じて語って行きたい。カテキズムの文言を楽しく覚えさせる努力も必要であろう。二性一人格という神学用語も、子ども心に刻めればそれに越したことはない。しかし、あくまでも、言葉の実体は、礼拝式における主イエス・キリストの臨在体験に根ざすものである。聖霊のお働きを教師たちが心を一つにして祈り求めて、真剣な礼拝式を捧げたい。

今日はクリスマスの物語を読みました。クリスマスとはどんな日ですか。そうです。イエスさまがお生まれになった日です。世界中の人々がこの日をお祝いします。「クリスマスおめでとう」「クリスマスおめでとう」と言い合います。

ある女の人がありました。ダビデの家柄のヨセフさんという人のいいなづけ――結婚する予定の人――のマリアという人です。そのマリアさんのところに、はるばる天から神さまの御使いがやってきました。天使ガブリエルです。ガブリエルは言いました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」天使ガブリエルもいちばん最初に言ったのは、さっき言いました「クリスマスおめでとう」と同じで、「おめでとう」という挨拶でした。クリスマス、イエスさまがお生まれ下さった日に一番ふさわしい挨拶は、「おめでとう」という挨拶なのです。何がどうしておめでたいのでしょうか。

マリアさんは、天使が突然現れて「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」と言われたので、考え込んでしまいました。どうして、何がおめでたいのでしょうか。すると天使が教えてくれました。「マリアさん、恐れることはありません。あなたは神さまから恵みを頂いています。あなたは男の子を産みます。名前はイエスさまと名付けなさい。その子は、いと高き方の子つまり神さまの子と呼ばれます。イエスさまは永遠にあなたがたの家を治める神さまなのです。」

マリアさんは、もっとびっくりしました。そうしてすぐに天使ガブリエルに言います。「わたしが男の子の赤ちゃんを産むですって。そんなことがこの私に起こるはずはありません。私はまだ結婚してはおりません。やめてください。そんな悪い冗談は言わないでください。」でも、天使は引き下がりません。「いいえ違います。誤解しないでください。あなたのおなかの中に宿られるのは神さまの子なのです。聖霊なる神さまがあなたにくだり、神さまの力によって、マリアさん、あなたは神の子を産むのです。だから、おめでとうって言ったのですよ。」このようにして、僕たち私たちの主、救い主イエス・キリストは、マリアさんからお生まれになったのです。

ここでちょっと、まとめてみましょう。つまり、イエスさまはこのマリアさんから生まれる前から、永遠の初め、はじまりのはじまりから、御父より生まれた真の神さまです。「主はすべての時に先立って父より生まれ、光よりの光、真の神よりの真の神」(ニカイア信条)さまです。ですから、御子なる神さまは、マリアさんからお生まれになる前から、おられたのです。けれども、その御子なる神さまが、今から2001年前のクリスマスに、マリアのおなかにも宿られました。人間となるためです。人間となられたイエスさまの誕生日、それがクリスマスなのです。クリスマスは何の為でしょうか。誰のためでしょうか。イエスさまの

ためではありません。僕たち私たちのためです。
僕たち私たちを救ってくださるためです。

先週のお話を思い出せますか。律法を破ったところを捕まえられた、女の人のお話でした。あの時、イエスさまは、「あなたがたの中で罪を犯した事のない人が、石を投げなさい」とおっしゃいました。そして、たったお一人、イエスさまだけが、その場に残られたのでしたね。そして、そのイエスさまが女の人におっしゃいました。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。」しかし、それは、罪を犯しても罰せられないとか、神さまのお怒りを受けなくても良いとか言うことでは決して決してありません。罪を犯した人は必ず、神さまの審きを受けなければならないのです。それは、滅びるという事。死ぬと言うことです。死んでそれっきり終わりではありません。ずっとずっと神さまの審きを受けつづけるのです。イエスさまが「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい」とおっしゃったのは、こう言う意味です。「あなたの代わりに私が神さまの審き、罰を受けてあげます。私はそのために、御子なる神さまであるけれども、その立場、その輝きを捨てて、あなたと同じ人間となったのです。人間となったのは、あなたの身代わりに神さまの審きを受けるた

めなのです。」

イエスさまは、「真の神であり真の人」となっ
てくださいました。僕たち私たちを神さまの子と
するためです。そして、イエスさまはクリスマス
のときからずっとずっと「真の神であり真の人で
あり続けて」下さいます。いつまでも、僕たち私
たちの味方、友達となってくださるのです。僕た
ち私たちはもう、神さまと遠く離れているのでは
ありません。

イエスさまは同じ人間となってくださったので
すから、僕たち私たちの嬉しいこと、悲しいこと、
辛いこと、痛いこと、弱いところを良く知ってくだ
さいます。だから、僕たち私たちは、イエスさま
に何でもお祈りします。イエスさまは、今、天に
戻られました。天においても、人間となってくだ
されたイエスさまは、どんな小さな事でも、分かっ
てくださり、僕たち私たち人間のために、心を込
めて祈っていて下さいます。だからどんな時でも、
イエスさまのお名前をお呼びして下さい。今皆で、
イエスさまとお呼びしましょう。家に戻っても、
今週も、毎日、声を出してイエスさまと呼んでみ
てください。天に、そしてあなたの隣に神であり
人であるイエスさまと一緒にいてくださることが
分かります。

今週の暗唱聖句

天使は答えた。

「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。

だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

ルカによる福音書 1章 35節

〈目標〉

イエス様は神様であられるのに私たちを救うために人となって下さったこと、そのイエス様は私たちのことをすべてご存知でいて下さることを知る。

〈展開例〉

(最初に先週の見学教材を使うなどしてイエス様のことを思い出してみる)

今日は、このイエス様のお誕生のお話でした。

皆は今何歳? じゃあ〇年前は、お母さんのおなかの中にいたよね。おなかの中でだんだんだんだん大きくなって、そしておぎやあつて生まれてきました。イエス様もそうやってお生まれになったのです。皆と一緒にだね。でもね、ただひとつ違うことがあります。それは、イエス様は神様だということです。イエス様のお母さんのマリアさんに、突然、天使が現れて「あなたのお腹の中に神様の子、赤ちゃんがいますよ」って告げたのです。イエス様は、私たちと同じ人間になって下さった神様なのです。だから、イエス様は私達のこと何

でも知っています。そして、いつも私たちのことを見ていてくださいます。だから私達も毎日、声を出して「イエスさま」って、お祈りしようね。

〈お祈り〉

天のお父様、私たちのことをいつも見てくださり、ありがとうございます。毎日「私たちの主イエス様」とお呼びできるようにお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉 バタバタ天使

用意する物

牛乳パック(小)、画用紙、色画用紙、
せんたくばさみ2個、
おもちゃのカプセルとビー玉(おもり)、
クリップ、タコ糸(80センチ)、
竹ひご(15センチ)、

定規、カッター、はさみ、千枚通し、
両面テープ、木工用ボンド、油性ペン

※ 122 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

序 ・ナザレの田舎に住むマリアは、ダビデの家系であるヨセフと結婚の約束をしていました。

・ヨセフもマリアも、心をこめて、神さまに信頼して、結婚の準備をしていました。

本 ・天使ガブリエルは、マリアが「神の子」を宿すこと、そしてその子に、「イエス」と名付けるよう告げました。

結 ・「神にできないことは何一つない」と天使は言いました。マリアは「お言葉どおり、この身に成りますように」と、受け入れました。

* イエスさまが、誕生において僕達私達と同じ人間となって下さったのは、人間（私）の罪の身代わりとして神さまの審きを受けるためでした。

* * 二性一人格とは、「真の神」であり、罪をもたない「真の人」であるということです。

伝言板

「お腹がすいたなー」「のどが、渴いた！」
「寒いー！！」「ああ一つかれた・・・」「痛いっ！」

体を持っている私たちは、いろんなことを感じます。

イエスさまも同じことを、お感じになりました。人々と一緒に涙を流し、一緒に笑いました。だから、あなたの悲しみがわかるのです。だから、あなたの寂しさを分かってくさるのです。

恐くて仕方がない時、痛くて我慢できない時どんな時でも、イエスさまにお話して下さい。「いっしょにいるよ。きみの気持ちはよくわかるよ」と、言って下さいます。

〈やってみよう〉

- 出生手帳を作ろう -

〔自分用〕

お父さんのなまえ
お母さんのなまえ
うまれた日
うまれたばしょ () びょういん
ぼく(わたし)のなまえ
なまえのいみ

〔イエスさま用〕

お父さんのなまえ
お母さんのなまえ
うまれた日
うまれたばしょ
なまえ
なまえのいみ

* 自分の生まれたときの事で知っていることを先生やみんなに、教えてあげよう！

〈目的〉

主イエスの出生から二性一人格を教える。

〈指導上の心得〉

指導者が、二性一人格を的確に捉え、その意味とポイントをしっかり押さえて指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主イエスはどのようにしてお生まれになったか
- ・主イエスはただ単なる人間なのか。(ここで、その特別な出生に目を向け、子どもたちに主イエスが、真の神であることを意識させる。)
- ・なぜ、普通の子どもと同じようにお母さんから生まれてきたのか。
- ・二性一人格の主イエスが真の人としておいで下さったことの恵みを感謝して、その意味を最後に子どもたちと確認しましょう。

〈ワーク〉

1. イエス様はどのようにお生まれになりましたか？
 - a) 突然地上に現れた。
 - b) 桃から生まれた。
 - c) 人間と同じようにお母さんから生まれた。
2. イエス様は、私たちと同じようにお生まれになったけど、一つだけ違うことがあります。それは何でしょうか？考えて書きましょう。
3. ルカによる福音書、1:35 を書いて覚えましょう。覚えたら先生と皆の前で言ってみましょう。

答え 1. c

2. 神様の力によって、罪なき者として生まれたこと。

〈目標〉

受胎告知の記事を心に刻み、主イエス・キリストがまことの神である証拠を確認する。

〈指導上の心得〉

寸劇は、全員が演じることができるよう、何度も行うとよい。また、簡単な服装(マリヤ：かぶりもの、天使：白い衣)を用意するとよい。

〈展開例〉

(1)寸劇

[天使]おめでとう！恵まれた方。主があなたと共におられる。[マリヤ] (とまどいの表情) [天使]マリヤ、恐れることはない。あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名づきなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。[マリヤ] どうしてそのようなことがありえましょう。私は男の人を知らないのに。[天使] 聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は

聖なる者、神の子と呼ばれる。神にできないことは何一つない。[マリヤ] 私は主のはしめのためです。お言葉どおりこの身に成りますように。

(2)Q&A：Q1.いと高き方とは誰のことですか。A. まことの神。

Q2.子なる神イエス様は、どうしてマリヤの赤ちゃんとしてお生まれになったのですか。A.人間の罪の罰を代わりに引き受けるために、まことの人間になることが必要だったから。

Q3.どうしてイエス様は私たちのためにそこまでしてくださるのですか。A.私たちがどんなに悪くても愛していでくださるから。

(3)暗唱カテキズム：言葉を分けて、カード化する。順番に並べ、1枚ずつ裏返ししながら問22を暗唱していく。

〈祈り〉

まことの神イエス様。私たちの救いのために、人となってくださったことを信じます。

〈目標〉

主イエス・キリストは、子なる神であるにもかかわらず、へりくだってマリヤの胎を通して人としてこの世に来られた。それは私たちの罪を引き受けるためであることを学ぶ。

〈展開例〉

○地上に来られた「子なる神様」

以前に学んだように（7月15日）、イエス様は「子なる神様」です。ヨハネ 1:1-14 を見てみましょう。「ことば」とはイエス様のことです。イエス様はこの世の初めから創り主である「父なる神様」と共におられました。そして、神様が決められた時に人間の体をとってこの地上にやって来られたのです。

それでは、その子なる神様が地上に来られたときの様子はどんなだったのでしょうか。ファンファーレの鳴り響く中、天から階段を下りてこられたのでしょうか。そうではありませんね。君たちと同じように、お母さんのお腹の中で大きくなって生まれてこられたのです。

フィリピ 2:6-7 を見てみましょう。イエス様は神様なのですから、その気になれば、ずっと天にいてもできたのです。しかし、イエス様は「私は神様だからずっと天にいますよ」とは言われませんでした。イエス様は、神様に仕えるために造られた人間と同じ身分になることを選ばれたのです。イエス様は、最も高い神様という身分でありながら、自らへりくだって仕える者となられたのです。それは何の為だったのでしょうか？

ローマ 8:3 を見てみましょう。イエス様がへりくだって人間になられたのは、私たちの罪を引き受けて、私たちの身代わりとして十字架にかかり、私たちを天国へと導くためでした。イエス様は、人間の身代わりになるために、神様であるにもかかわらず、人間として地上に来られたのです。

○聖霊の力によって

もちろん、イエス様は私たちと何から何まで同じだったわけではありません。今日の礼拝で学んだように、マタイ 1:26-38 には、マリヤはヨセフ

と結婚する前に聖霊によって妊娠したと書いてあります。マリヤとヨセフが結婚して普通に生まれた子どもだったら、アダムからその子孫へと受け継がれてきた「罪」（9月23日教案）を負ってしまいます。しかし、聖霊なる神様の力によってマリヤのお腹の中に生まれた神の子であるイエス様は、アダムの罪とは無関係にお生まれになったのです。ただし、これは聖霊とマリヤが結婚したということではありません。35節にあるように、聖霊なる神様の大きな力がマリヤを包み、何も無い所からこの天地をお造りになったのと同じ様な大きな奇跡として、マリヤのお腹の中に子なる神様が人間の身体をとってやどられたのです。

○二性一人格

イエス様が神様でありながら人となられたということは、イエス様がこの世で人となっていた時には神様であることをやめていた、ということではありません。また、人である時と神様である時があった、ということでもありません。イエス様は、この地上におられた時、神様であると同時に人間でもあられました。それだからこそ、十字架の上で人の罪をつぐないながら、その罰に耐えることができ、死の力に打ち勝って復活し、私たちに永遠の命を約束して下さることができたのです。このように、神様としての性質と人としての性質がイエス様という一人の人格の中にあることを「二性一人格」と言います。このことは以前に学んだ「三位一体」と同じように、私たち人間にはなかなか具体的に思い浮かべることがむづかしいことですが、神様のご性質として大切な事ですから、ぜひ覚えておいてください。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、イエス様が神様であるにもかかわらず、へりくだって人としてこの世に来られたことを学びました。それは、私たちの罪を、私たちに代わって引き受けて下さるためでした。この救いの中に、この小さな私も入れて下さることを感謝します。

テキスト ヘブライ人への手紙2章14～18節

この手紙の最初の1～2章はこの終わりの時代に神様は御子によりご自身を啓示されたこと、その御子は救いの創始者であり、忠実な大祭司であることを紹介する箇所です。

(1) 血と肉を備える意味

「子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に」と言われている「血と肉」とは完全な人間性のことを指すのでしよう。この手紙では冒頭からイエスを御子と記し、「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れ」と紹介していますから、イエスの神性は最初から前提とされています。そこでその神の御子が私たち人間の救いの創始者となり、大祭司となるためには「数々の苦しみを通して完全な者とされた」(10節)、「御自身、試練を受けて苦しまれたこそ・・・助けることができになる」、という試練と受苦が必要であること、それから「子ら」と同様に「血と肉」を備えることが必要であることが述べられています。神の栄光の反映である神の御子が、私たち「子ら」の救いの創始者となるために、私たちと同様に「血と肉」という人間性をとられたのだと説明しているのです。その救いとは悪魔の死による支配からの解放です。悪魔は「死をつかさどる者」です。ですから悪魔はこの「死の恐怖」によって私たちとその生涯を奴隷として支配しています。イエスが人間性をとられたのはこの支配をご自分の死によって滅ぼし、そこから私たちを解放するためなのです。

(2) 大祭司イエス

さらに手紙は言葉をかえて、「すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかった」理由を「民の罪を償うため」と説明します。悪魔とその死による支配はそもそも私たちの「罪」に原因があります。この「罪」のために「アブラハムの子孫」でありながら「神の御前に」でることもできません。神とアブラハムの子孫との間をとりもつ執り成し手が必要なのです。民を「憐れみ深」かく導かれる方、導き先である神に「忠実」な方、そういう大祭司となって執り成すために、すべての点で同じようになり、償いとならなければならないのです。(大祭司については5章)

(3) すべての点で同じ

イエスが大祭司として私たちを救うために、「すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです」が、この同じなのは「血と肉」の示す人間性だけのことではありません。その「血と肉」によって営む「生涯」をも含みます。「すべての点」とはそのことを示します。(「罪」についてだけは別、4章15節で誤解のないように触れています。)ですから「試練を受けて苦しまれた」生涯を体験されます。そして生涯の最後「死」をも体験されます。こうしてすべての点で同じようになられたので、「わたしたちの弱さに同情でき」(4章15節)る大祭司となり、「奴隷の状態」から解放するための「民の罪の償い」となりうるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問22
 ウェストミンスター小教理問答 問21, 22
 ハイデルベルク信仰問答 問16, 17, 18

ハイデルベルク信仰問答

- 問16 なぜその方は、まことの、ただしい人間でなければならないのですか。
 答 なぜなら、神の義は、罪を犯した人間自身はその罪を償うことを求めています、自ら罪人であるような人が他の人の償いをするなどできないからです。
- 問17 なぜその方は、同時にまことの神でなければならないのですか。
 答 その方が、御自分の神性の力によって、神の怒りの重荷をその人間性において耐え忍び、わたしたちのために義と命とを獲得し、それらを再びわたしたちに与えてくださるためです。
- 問18 それでは、まことの神であると同時にまことのただしい人間でもある、その仲保者とはいったいどなたですか。
 答 わたしたちの主イエス・キリストです。この方は、完全な贖いと義のために、わたしたちに与えられているお方なのです。

〈ニケヤ論争〉

4世紀にニケヤ会議という教会会議が開かれました。この会議の眼目は、イエス・キリストが真の神であられるかいなかという点にありました。

アリウスとアタナシウスというふたりの人が、会議の主演として激しい論戦を繰り広げました。アリウスは、イエス・キリストは真の神ではなく、半神半人のごとき存在であると主張しましたが、アタナシウスはイエス・キリストを真の神にして真の人と告白しました。会議はアタナシウスの信仰を正しいとし、イエス・キリストは父なる神と同質(同じ性質)の神であるとするニケヤ信条を制定しました。のちに教会は三位一体とキリストの二性一人格の教理をも確定しました。

ふたりの主張の違いはどこから来るものであったのでしょうか。一言で言えば、アリウスにとっていちばん大切であったのは、人間の合理性を守ることでした。彼は100パーセント神である方が同時に100パーセント人でもあるなどということは計算に合わないと考えました。

しかしアタナシウスの関心はまさしく罪からの救いの問題でした。彼にとっては、人間の救いが

成り立つために、イエス・キリストが真の神にして真の人であられるという事実は何よりも重要な事柄であったのです。

〈真の仲保者〉

なぜイエス・キリストは真の神にして、同時に真の、しかも罪なき人であられなければならないのでしょうか。このことについては、上に掲げたハイデルベルク信仰問答の16～18問が的確に説明しています。

イエス・キリストは真の神でなければなりません。それは、真の神にしてはじめて、真に罪人の罪をあがない、罪の報酬である死を減ばして永遠の命を与えて下さることがおできになるからです。アダムの子孫たる人間が十字架上で死んだとしても、それは彼が当然支払うべきであった罪の報酬を支払ったに過ぎないのであって、彼の死によって人類の救いがなしとげられることはないのです。

なおかつイエス・キリストは真の人でなければなりません。それは、罪のあがないがなされるべき場所は、ほかでもなく私たちの人間性そのものでなければならなかったからです。

ヘブライ人への手紙2章14～18節

子どもカテキズム 問22

「私たちの兄弟イエス」

〔単元のねらい〕

三位一体（三一神）論と二性一人格（キリスト両性）論とは、教理の根幹である。例えば、万一、エホバの証人などの異端の教えに子どもらがさらされたとしても、この二つの教えがしみ込んでいれば、それがキリスト教とは違うと言うことも判別できるのではないか。キリスト教の神髄となる教理は、私共の救いと喜びの神髄、根幹である。真の神であり真の人でありつづけてくださる愛する主イエスであればこそ、私共は救われている。その喜びと感謝が説教者の語り口、音声、顔つき、身振りにまで現れ出ますように。子らの心を打つことができますように。準備の折りに、何よりも子らの前に立つとき働いてくださる聖霊のお働きを祈り求めつつ、真剣な礼拝式を捧げたい。

イエスさまは「真の神であり真の人であり続けて」下さり、それを二性一人格と言うことも学びました。神さまと人間がイエスさまにおいては一つになっているのです。今日の聖書の御言葉をもう一度読みます。「子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。」僕たち私たちは、体を持っています。体の中には赤い血が流れています。イエスさまも私たちと同じ血と肉を持つために、クリスマスにマリアさんから人間としてお生まれくださったのです。

先生は、これまで何人かの人のお葬式をしました。その後で、火葬場に行きました。火葬場というのは、死んだ人を焼くための施設です。人間は死んだら放っておくと腐ってしまいます。ですから、火葬場に行ってそこで焼くのです。死んでしまった人のお体が、白い骨だけになるまで焼かれます。それを見て、先生は決して慣れることはありません。本当に辛いのです。

一体、死んだら僕たち私たちはどうなるのでしょうか。どこに行くのでしょうか。その答えは、子どもカテキズムの中に書いてあります！ 見つけて下さい。皆は、自分が死んだらどうなってしまふのかって、考えたことがありますか。ある人は、生まれ変わるって言います。人間に生まれ変わる人もいれば、動物や虫に生まれ変わる人もいます。けれども、それはでたらめです。死んだ後のことを、生きて人間は知ることでは

きません。それをご存じなのは、僕たち私たちをお造り下さった神さまだけです。

先程読んだ聖書の中に、「死の恐怖」と書いてありました。人間は死ぬことが恐ろしいのです。怖いのです。怖いから、自分が死ぬこと、死んだらどうなるか考えません。考えても、自分に都合のよい勝手な空想をするだけです。死んでしまったら、おしまい、だから精一杯楽しく暮らそう、と考える人も多いのです。そして、自分勝手な、自分中心な事をして、悪いことを行ってしまうことも多いのです。どうして死んだあとの事を考えるのが怖いのでしょうか。それは僕たち私たちが罪人だからです。罪人は神さまのお怒りを受けなければならないからです。それをうすうす気づいている、だから死ぬのは怖いのです。

さて、今日の暗証聖句には「イエスは、……すべての点で兄弟たちと同じようにならなければならなかったのです」とあります。「兄弟たち」と言うのは、誰のことでしょうか。先生の事、皆さんのことです。イエスさまは、僕たち私たちの兄弟となるために、血と肉を、人間の体を備えてくださったのです。皆には、兄弟がいますか。兄弟は好きですか。お友達と兄弟とどっちが好きですか。もちろんどっちも好きでしょう。でも、喧嘩するのは、どっちが多いかな。やっぱり兄弟でしょう。この中には、友達とものすごい喧嘩をしまして、「もう友達なんかじゃない、友達やー

めた」と言ってしまうと、悲しい経験をしたお友達もいるかもしれません。仲直りできたら良いですね。それなら、妹とものすごい喧嘩して、もう「あんたなんか、妹じゃない。お姉さんやーめた」と言ってしまうと本当にそれっきり兄弟じゃなくなってしまうお友達はいますか。一人もいないでしょう。兄弟は、やめたくてもやめられません。イエスさまがもしも神の御子であるだけなら、私たちの神さまではあるけれど、僕たちの兄弟であるとは言えません。しかし、イエスさまは本当に私たちと同じ人間となってくださったことによって、僕たち私たちの兄弟となってくださったのです。つまりイエスさまはあなたの一番上のお兄さんになってくださったのです。

もしも、僕たち私たちが自分勝手なことばかりしてこのお兄さんとなってくださったイエスさまを怒らせることがあったら、イエスさまはどうおっしゃるでしょうか。「もう、がまんできない。あなたたちは好き勝手にしたらよいです。でもその代わり、もうあなたのお兄さんはやーめた」とおっしゃるかな。違います。イエスさまは今までもそうでしたように、これからもずっとずっと僕たち私たちのお兄さんでありつづけてくださるのです。

お兄さんのイエスさまは、僕たち私たちがとても良い子で、立派な子で、誰からも褒められるそ

のような立派な弟、妹だから、お兄さんになってくださったわけではありません。このお兄さんは、僕たち私たちが弱くても、見すばらしくても、孤独でも、悲しくても、怖くて泣いてしまう時でも、どんなにつらく大変な時でも、一緒にいてくれるお兄さんです。そしてお救いくださる神さまです。イエスさまは、神さまの独り子なのに、死ぬ時の姿にまでなってくださいました。だから、先生はこのイエスさまの前にかっこつけなくても平気だってわかります。安心してイエスさまを信じることが出来ます。だって、先生がどんなにかっこ悪くなくても、イエスさまは「もうあなたが弟だなんて恥ずかしい、もう弟ではありません」などと絶対言われません。だって、十字架で殺されて死ぬくらいかっこ悪いことはないでしょう。先生だけではありません。イエスさまはあなたの事も、同じように見ていてくださいます。今の僕たち私たちのそのまま、今のままで、イエスさまは本当の兄弟となってくださったのです。このイエスさまを心から信じたいと思いませんか。そうだったら、今日も、皆で、このイエスさまをお手えくださった天のお父さま、そしてイエスさまに心から感謝しましょう。イエスさまを信じることが神さまへの感謝です。皆のお友達にも、このイエスさまのことを伝えてあげてください。来週新しいお友達と一緒に来れますように。

今週の暗唱聖句

それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

ヘブライ人への手紙 2章 17節

〈目標〉

イエス様は決して私たちを見捨てない友、お兄さんであることを知る。「真の神」「真の人」という言葉そのものを覚える。

〈展開例〉

(先週の工作を使うなどして、マリアさんのところに天使が来たことを思い出す)

マリアさんの赤ちゃんは誰だったか覚えてますか？ そう、イエス様でした。イエス様は本当は神様だから、冠をかぶって輝いている、そういうお方です。けれどもイエス様は、立派な冠や輝きを捨てて私たちと同じ人間になって下さいました。そうして、イエス様は私たちの一番上のお兄さんになって下さいました。イエス様は私たちが元気がない時も、喧嘩してしまった時も一人ぼっちで怖かったり、悲しくて涙がいっぱい出る時も、いつもいつもずっと一緒に居てくれるお兄さんなのです。先生も皆も人間だからいつかは死んでしまいます。みんなお口を手の前に持ってきて息をふーっと吐いてごらん？ 風が出てくるね。死んでしまうと、息も止まってしまいます。そして目も見えないし耳も聞こえないし、お話も

出来なくなってしまう。今はどつくんどつくんって赤い血が体の中に流れているけれど、血もびたっと止まってしまいます。ちょっと怖いね。でもイエス様は死んでからも、一緒に居て下さいます。そして今も一緒に居て下さいます。だから、とっても安心です。

〈お祈り〉

天のお父様、イエス様が今もこれからもずっと一緒に居て下さることを教えてくださいありがとうございます。まだイエス様のことを知らないお友達も一緒に教会に来ることが出来ますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈工作〉ジャンプウサギ

用意する物

引出し式の空き箱、

リング型の磁石 4 個 (2 個は穴あきを用意)、

ストロー(磁石の穴に通るもの)、色画用紙、

定規、はさみ、カッター、セロハンテープ、

両面テープ、ゴム系接着剤、油性ペン

※ 123 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

序 ・ 私たちと同じ血と肉（肉体）を備えて、私達の兄弟（おにいさん）となってくださいました。

本 ・ イエスさまは、血を流し、肉を裂かれ、苦しみを受けた後、死を通られました。

結 ・ ご自分の死によって、死を滅ぼし（死に勝利して）、私達を死の恐ろしさから、救い出してくださいました。

* 人間の死を経験するため、私たちと同じ人間とならねばならなかったのです。

〈やってみよう〉

- 橋をかけよう -

材料 ・ アイスキャンデーの棒（10～13本）
・ セロハンテープ
・ 小さいダンボール箱2つ

作り方

- ・ ダンボール箱2つを、1メートルくらい離して置く。
- ・ 箱から箱まで、みんなで協力して、アイス棒をセロハンテープでつなげていく。
- ・ 橋がつながったら、教師が横木を橋ののせて十字架のようにする。

* 私たちが天の御国に入れるように、おにいさんであるイエスさまが、橋となってくださったんだね！

伝言板

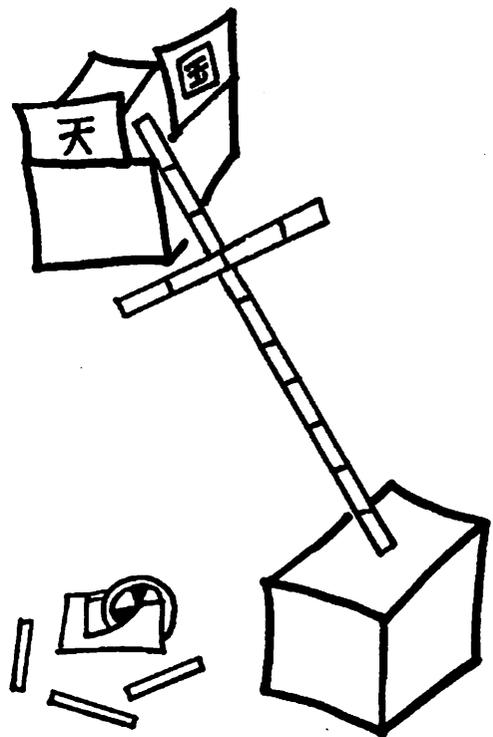
死ぬって、恐いな・・・と悩んでいるお友だちはいませんか。イエスさまは、死を滅ぼしてくださいました！

なんと、グッド・ニュース!!!

もう少し寒くなると、夜、こたつに入ったままウトウト寝てしまったことってないかな。朝、目が覚めたら、ちゃんと自分の布団で寝ていた・・・という経験あるよね。夜、お母さんが「オヤオヤ、この子は・・・」とかなんとか言いながら、布団に運んでくれたんだよね。

神さまの子どもの私たちも、天のみ国に移していただけるんだよ。

こんなグッド・ニュースお友だちに、教えてあげよう！



〈目的〉

主イエスは、罪以外は私たちと同じになってくださったことを覚える。

〈指導上の心得〉

主イエスがなぜ、私たちを救いえたのかを心にしっかりと押さえて語る。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主イエスは、なぜ贖いの御業を為すことができたのか？（主は、神様だから完全な人間として、完全に律法を守ることができ、また人間として私たちの代表となることができるお方である）
- ・主イエスは神の御子、神御自身であるにもかかわらず、私たちと同じ人間なのか？（血と肉とを備え完全な人となられた。）
- ・どのような点で私たちと違うのか？（神様に罪が有るか無いか）

〈ワーク〉

1. イエス様は、僕たちと同じ人間ですか？
 - a) いいえ。イエス様は神様だから違います。
 - b) はい。罪以外はまったく私たちと同じ人間です。
2. イエス様はなぜ、私たちの罪のあがないを為すことができたのでしょうか？答えを考えて書いてみよう！
3. 次の暗号を解いて、イエス様について覚えましょう。

「たしまいさだくてつか架にかじうゆじてつなりにわが身の罪のちたしたわ、てっさだくてつなに間んにじ同とちたしたわにめたるさ下てえ与をいくすにちたしたわにのなまさみかの真はまさすえい」

答え 1. b) 3. 逆から読んでみましょう。

〈目標〉

イエスさまの愛の深さを知る。

〈指導上の心得〉

リコーダー演奏は、事前に上手な子供にお願いしておいて当日演奏してもらおうと良い。讃美歌121番は、よく歌われている讃美歌であるが、主イエスのご生涯とそのあがないの御業がわかりやすい言葉で、簡潔にまとめられている。あらためて歌詞を味わいたい。これを機会に愛唱讃美歌のひとつとしよう。

〈展開例〉

- (1)リコーダー演奏：讃美歌121番「まぶねの中に」（子どもまたは教師が演奏する）
- (2)歌詞を味わう：歌詞を模造紙に書いて、黒板等に貼る。特に1番と2番。難しい言葉「馬槽」（飼葉おけ）、「憂い」（心配）、「つぶさにな

めし」（こまかいところまで体験する）、「こころくさきし」（友を心配する）など、説明が必要。聖書記事を思い出しながら、具体的に主イエスのご生涯をふりかえり、主イエスがどのように、私たちと同じさまになられたか、見ていこう。

- (3)リコーダーに合わせてみんなで歌う（歌詞をかみしめながら）。またリコーダーの二重奏や、ギターと合わせるなどして演奏を楽しもう。
- (4)カテキズム暗唱：問22（先週と同様の方法で）

〈祈り〉

本当に罪深い、わたしたちを愛し、いつまでも一緒にいたいと愛してくださる、主イエスさまの愛に心から感謝いたします。

〈目標〉

なぜ、あがない主は神であると同時に人でなければならぬのかを学び、主イエスの苦しみが私のためであることを確認する。

〈展開例〉

先週、子なる神様であるイエス様が、私たちの罪の身代わりになるために、マリヤの胎を通して人としてこの世に来てくださったことを学びました。まことの神様が私たちと同じ肉体を持ってこの世に来られたことは、本当に不思議な事です。

○人でなければならない理由

イエス様は、私たちの罪を十字架の上で償うために、私たちと同じ人間としてこの世に来られました。なぜ、イエス様は人とならなければならなかったのでしょうか。

私たち人間の罪を償うのは、私たちの仲間であることが必要です。私たち人間が神様に対して犯した罪、神様に従うように造られたのに、神様の方を向こうとしないで勝手な事をした罪は、人間が償わなければなりません。コリント一 15:21にあるように、人が招いた罪の結果である死は、人によって打ち破られねばならないのです。

他の動物などをいけにえとして人間の身代わりにならうとしても、それでは人間の罪は償えません。イエス様が来られる前は、神様は羊などの動物を供え物として捧げるようにお命じになっていましたが、それは、「このように、だれかがお前たちの身代わりに、いけにえとして捧げられなければならない」という予告でした。ですから、羊を捧げる事は一度で終りになるわけではなく、繰り返し繰り返し行なわれなければならない、それを見る人々は、「この羊のように、私たちの身代わりになる人が来られるのだ」ということを心に刻んだのです。

○神様でなければならない理由

人間こそが人間の罪を赦していただくために償いをしなければならないのですが、私たち人間にはその力がありません（詩篇 49:8）。私たちがいくら神様にあやまったとしても、罪のとりこになっている私たちには罪の責任を負うことはでき

ません。罪の責任を負うこと、神様の罰をうけることに、罪ある人間には、とてもじゃないけれど耐えることができないのです。罪ある人間の不完全な償いでは、神様が私たちを赦すことは出来ないのです。そして、神様に造られたものの冠である人間が耐えることができないのですから、他の造られたものが耐えることができないのは当然です。つまり、私たちの罪を償うには、私たちの仲間である人間であって、しかも罪のない、人間以上の存在が必要なのです。人間以上の存在、造られたものの冠以上の存在とは何でしょうか。それは神様しかありません。

○それはだれのため

人間であって神様でもある方。そんな人は、今までの歴史の中で一人しかいなかったし、これからもでてきません。それがイエス様です。

イエス様は完全な人間でした。だから、十字架にかかれる前には、心に大きな悲しみをおぼえられたし、十字架の上では苦しみ悶えられたのです。それは、神様のままでいたら味わわなくてもいいものですが、イエス様はあえて、それを味わう道を選ばれたのです。それは、ほかならない私を（君を）罪から救ってくださるためでした。

イザヤ 43:4 に、「わたしの目には、あなたは価値高く、貴い」と書かれています。もちろんイエス様は、たくさんイエス様を信じる人々の救いのためにこの世に来られました。しかし、そのたくさんイエス様を信じる人の中で、私は（君は）決して一番小さな者にたらない者ではありません。私も、アブラハムやベトロと同じように価値ある一人として、イエス様は認めてくださるので

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、イエス様がまことの神様でありながらまことの人でもあられたということの意味を学びました。私たちには何の力もありませんけれど、あなたが私を選んでくださって、大切にしてくださいをおぼえて感謝します。

テキスト

マタイによる福音書1章18～25節

夢の中で天使の御告げを受けたヨセフの話です。縁を切ろうと決心していたヨセフが「妻を迎え入れ」たのには、天使による御告げがあったからでした。

(1) ヨセフの決心

ユダヤでの婚約は二人の証人立ち会いのもとで誓いがなされて結ばれます。実際の夫婦生活はそれから一年後くらいから始められたようですが、それでも婚約は法律上での立派な夫婦であることを意味しています。そこで婚約していたヨセフは既に「夫」であり、マリアは「妻」です。婚約の解消も離縁（「縁を切ろう」）と呼ばれます。

婚約期間とはいえ、ヨセフもマリアも既に夫婦ですから、「身ごもっていることが明らかになった」のには、ヨセフもさぞ驚いたことだろうと想像できます。「明らかになった」とは「判明する」とか「発見する」という意味で、その事実を知ったヨセフの驚きが表現されています。この驚きに普通なら一人の心にとどめることができずに「表ざた」にしてしまうところですが、ヨセフは「ひそかに縁を切ろうと決心し」ました。それをマタイでは「夫ヨセフは正しい人であったので」と説明しています。そういう心をもったヨセフですから、人知れずに縁を切ろうという「決心」も決して軽々しいものではないことが想像できます。

(2) 天使

この驚くべき出来事をヨセフに理解させ、その決心を思いとどませたのは、夢に現れた天使の御告げでした。

この天使の御告げと預言者の引用から三点のことが語られます。まず一つは「マリアの胎の子は聖霊によって宿った」ものであること。二つ目にその子は「イエスと名付け」られること、なぜなら「この子は自分の民を罪から救うからである。」そして三つ目に「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現

するためであった。」つまり神の約束とご計画によるものだという事です。「自分の民を罪から救う」ことにおいて「インマヌエル」「神は我々と共におられる」という出来事が実現します。マリアの身ごもりに驚き、この出来事を一人心に秘めて決心をしていたヨセフに、「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」と呼びかける天使の御告げは、さぞ深い平安を与えたのではないのでしょうか？「妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった」のはこの呼びかけによるものです。この出来事においてまさに「神は我々と共におられる」が実現しています。

(3) 罪から救うから

「イエス」という名は「主は救い」という意味ですが、その救いとは「罪から救う」という救いです。マタイではこの「イエス」と名付けられた子の誕生とその子による「罪からの救い」は「預言者を通して言われていたこと」の実現だと説明します。「言われていたこと」すなわち神様の約束を指しています。つまり、子の誕生とその子による罪からの救いは神様の約束でした。そしてそのことにおいて「インマヌエル」「神は我々と共におられる」が実現します。

「自分の民」と呼ばれるイスラエルにとって、神はいつも「主は救い」でした。しかし同時に旧約の歴史は「栄光はイスラエルを去った」（サムエル上4章22節）と言わざるを得ない歴史で、「彼は父の心を子に、子の心を父に向けさせる」（マラキ3章24節）必要を痛感してきました。イエスの誕生と罪からの救いにより、ようやく「神は我々と共におられる」ことが真実な意味で実現します。

カテキズム

子どもカテキズム 問23

ハイデルベルク信仰問答問 29, 34

子どもカテキズム

問23 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、

キリストとはお働きを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。

このお方が私たちの主として与えられました。

ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

神は永遠からの選びによって恵みの契約につらなることをよしとされた民たちを、罪と死から救い、永遠の命をお与えになるために、恵みの契約の仲立ちとしてひとり子イエス・キリストをお遣わしになりました。このお方こそ選びの民の唯一のあがない主です。

「主イエス・キリスト」とは単なる固有名詞ではなく、この名自体がこのお方のご人格と御業とを最も簡潔に説明しています。この名を正しく呼ぶこと自体が讚美であり、感謝であり、信仰告白です。この名を真の信頼をもって呼ぶなら、その時、人は救われます。また、この名を呼んで生きることこそ、恵みの契約の成員であること、永遠の選びにあずかっていることのアかしです。

〈主〉

「主」とは、所有者、支配者といった意味を表します。

旧約聖書においては、「主」は唯一のまことの神のみに用いられる称号（「主称号」）であり、これが被造物に対して用いられることは偶像礼拝としてきびしく禁じられていました。イエス・キリストがこの「主」という称号、御父と等しい称号で呼ばれることそのものが、このお方の神性の証明です。このお方こそすべての造られた者の所有者、支配者なのです。イエス・キリストは、三位一体の子なる神、まことの神であられ、天地創造の御業にも参与なさった以上、このお方は創造者としてすべての被造物の上に所有権を持ちたもうのであり、また支配者でありたもうのです。

なお、「主」とは旧約のヘブライ語では「ヤハウェ」で、これは出エジプト記3章14節で神がモーセに「わたしはある」とお答えになったときの「ある」（「ハーヤー」）に由来する語であると言われています。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』（ヨハネ8:58）

〈イエス〉

「イエス」というお名前はヘブライ語「ヨシュア」のギリシャ語読みで、意味は「神は救い」「主は救い」です。御使いが、ヨセフにイエス・キリストの御降誕を告げたおりに、彼とマリアとの間に生まれてくる男の子にこの名を付けることを命じました（マタイ1:21）。このように、両親ではなく、父なる神御自身がこの名をお付けになった事実は重要です。

そして、主イエスは、この御名のとおりの御業をなさいました。御自分の民を十字架のあがないによって救うあがない主となられたからです。

旧約の時代にあつては、「ヨシュア」という名そのものはごくありふれた名であつたようです。しかし、そのことにも私たちは神の御業のくすしさを覚え、感謝をささげざるを得ません。なぜなら主イエスが平凡な名を持ち、ナザレの大工の息子として育てられたことは、このお方が私たちと同じになられたこと、まさに私たちと一つになられたことの反映であるからです。言は肉となられた（ヨハネ1:14）のです。

マタイによる福音書1章18～25節

子どもカテキズム 問23

「その名はイエス・主は救い」

〔単元のねらい〕

日曜学校は、契約の子の礼拝生活の中心である。と共に、地域の子どものための伝道と教育の場でもある。未信者の子弟に何を伝えるのか。もちろん、「生きておられる」主イエス・キリスト（二性一人格）である。生けるお方の御名を、実際に子どもらに呼ばせること（お祈り）が我々の最大の目標と言っても過言ではない。「イエスさま」とお名前をお呼びする子らには、生ける主イエスが教師を越えて直に働きかけてくださる。分級では、祈りを祈らせるように励まし、一緒に祈りたい。既に祈り始めている契約の子らは、「イエスさま」とお呼びする時の喜び、慕わしさが、先週より今週と、日ごとに富ましめられるように育てたい。その為に、我々の「主イエス」をお呼びする声色に主イエスへの愛がこもるように。

教会の集いのなかには、幼稚園に行く前の2歳や3歳のお友達が集う楽しい集会があります。みんなそれぞれに、可愛い、素敵な名前がつけられています。先生は隣の部屋にいますから、その子達の元気な声が聞こえてきます。最初に日曜学校の先生が、「〇〇ちゃん」と呼びます。すると、元気良く、「ハイ」とお返事がかえってきます。ちっちゃなお友達も、自分の名前が呼ばれると、手を挙げて「ハイ」と嬉しそうにお返事できるのです。自分の名前を呼ばれて、ハイとお返事する時のお友達たちの声はとても嬉しそうです。自信まんまんです。どうして、お返事できるのでしょうか。だって、自分の名前だからですよ。自分の名前を呼ばれて、知らん顔はできないよね。

それなら、僕たち私たちのイエスさまのお名前をお呼びしたら、イエスさまは知らんぶりなさるのでしょうか。もしも皆が、心からイエスさまを信じ、イエスさまを愛して「イエスさま」「天にいらっしゃるイエスさま」とお呼びしたら、イエスさまが知らん顔をなさることなど考えられません。絶対にあり得ないことです。

先生の名前を知っていますか。名前には、多くの場合、お父さんやお母さんがこうなって欲しい、こうあってほしいという願いを込めて付けます。名前には意味が込められているのです。でも、この中でこんなお友達はあるのでしょうか。神さまから、名前を付けられた人です。一人もいませんね。

でもイエスさまは、神さまから名前をつけて頂いたお方です。天使は、お母さんのマリアさんの婚約者のヨセフさんに「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」と告げたのです。それなら、イエスという名前はそれこそ、世界でたった一人このイエスさまだけしか持っていない、それはそれは立派で、特別で、誰もつけないようなお名前なのではないでしょうか。実はそうではありません。イスラエルの男の人のなかでは、ありふれた名前だったのです。イエスという名前は、自分の子どもが神さまから祝福されるように、神さまの恵みを豊かに受けるようにと、神さまを心から信じるイスラエルの人は、しばしば男の子にこのイエスという名前を付けたのです。先週のお話を覚えているかな。真の人となられたイエスさまは僕たち私たちのお兄さんになってくださったことを学びましたね。そのようなイエスさまですから、ごく普通のお名前を持っておられるのです。

ただし、その当時イエスという男の子はたくさんいましたが、私たちのイエスさまと他のイエスさん、イエス君とは全く違います。神さまから遣わされた天使が、「イエスと付けなさい」と命じたのです。そして、その理由として、「この子は自分の民を罪から救うからである」と告げたからです。つまりもともと、イエスと言う名前には、罪から救う人、救い主という意味が込められてい

るのです。そして、イエスというお名前通りに、私たちが罪から救って下さることがお出来になるのは、カテキズム問22にあるとおり、「真の神であり真の人であり続けてくださる二性一人格」のイエスさまだけです。

どうやって私たちのイエスさまは僕たちを罪から救ってくださるのでしょうか。それは、イエスさまが十字架について、あなたの身代わりになって死んでくださって、そして三日目におよみがえりになられたことによってです。僕たち私たちは、神さまに愛され、神さまによってお父さんお母さんを通して命を与えられて生まれました。けれども、そんな神さまのことを信じなかったり、神さまを愛さなかったり、感謝して従おうとしなかったり、いいえ、むしろ神さまに逆らって、悪い行いをしてしまいます。嘘をついたこともあります。お友だちに意地悪をして悲しませたこともあります。人の物を盗んだ事もあります。僕たちは何でも知っておられる神さま、心の中までも見ておられる神さまから叱られても、決して、文句は言えません。「神さま、僕はそんな悪いことはしていません。僕の心のなかがいとも真っ白できれいな心です。嘘をついたことは一度もありません。」そんな風に天のお父さまに言えるお友だちはいるのでしょうか。一人もいないと思います。

だから、天のお父さまは、神の御子、真の神様の独り子を、イエスというお名前を持った人間とならせ、本当にイエスという名前通りに、イエスさまの十字架を信じる人の罪を赦し、罪の受ける神様からの刑罰、神様のお怒りから救ってくださったのです。

イエスさまを、私の罪を赦してくださる救い主と信じて、声に出して呼んでみて下さい。そうすれば、本当にイエスさまが今も生きておられ、一緒にいてくださるお友だち、お兄さん、救い主であられることが分かります。

天のお父さまは今、一人一人の名前を呼んで、教会に来るようにお招きくださいました。天のお父さまは、僕たち私たちの名前をご存じです。今更「天のお父さま、僕の名前は〇〇です。」なんて言う必要はありません。天のお父さまは、もう、僕たち私たちに、イエスさまを救い主として与えてくださっています。ですから、「イエスさま」と信じてお呼びすれば、その人は必ず、救われます。神さまの子どもとされます。「信じる私たちは、主の日にキリストの教会に来て礼拝を捧げ、毎日神様にお祈りするのです」(問3)。今週も毎日、「イエスさま」と声に出して、イエスさまを呼んで下さい。独りぼっちで家にいなければならぬ時はチャンスです。声に出してお呼びするのです。

今週の暗唱聖句

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。

マタイによる福音書1章21節

〈目標〉

私たちをいつも呼んで下さるイエス様に、毎日お返事（お祈り）する大切さを知る。

〈展開例〉

今から、みんなの名前を呼ぶから、お顔を見てお返事して下さい。

皆、素敵なお名前だね。今は先生が皆の名前を呼びましたが、実は先生の他に、今日も皆の名前をやさしく呼んでいて下さる方が居ます。先生のことでも呼んでいて下さいます。誰でしょう？ そう、それは天のお父様です。今日も、私たちの天のお父様は皆のことを呼んで、こうして教会に集めて下さいました。神様は皆が教会に集まっていること、とても嬉しく思っていて下さいます。教会に来るってことは、神様に「はい」とお返事することなのです。でも、毎日教会には来れないね。お家にいたり、幼稚園や保育園に行くと神様のことを忘れてしまうかもしれません。でも、神様は私たちが忘れてしまっても毎日毎日、「〇〇ちゃん」「〇〇くん」って呼んでいて下さいます。返事が返ってくると、とても喜んで下さいます。神様へ

のお返事は、お祈りです。お祈りすると、神様が毎日呼んでいて下さること、一緒に居て下さることがわかって、皆も嬉しくなります。だから、毎日、「イエス様」ってお祈りしようね。そして、また次の日曜日にも神様が呼んでいて下さる教会に集まろうね。

〈お祈り〉

天のお父様、毎日呼んで下さる神様に毎日お返事できますようにお守りください。来週もみんな元気に教会に集まれますようにして下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈歌〉『友よ歌おう』21番「三つの約束」

〈工作〉お祈りカード

用意する物

色画用紙、ひも（首にかけられるもの）、シール（一人に七つ）、のり、はさみ、色鉛筆、クレヨン、ペン、色紙など

※ 124 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

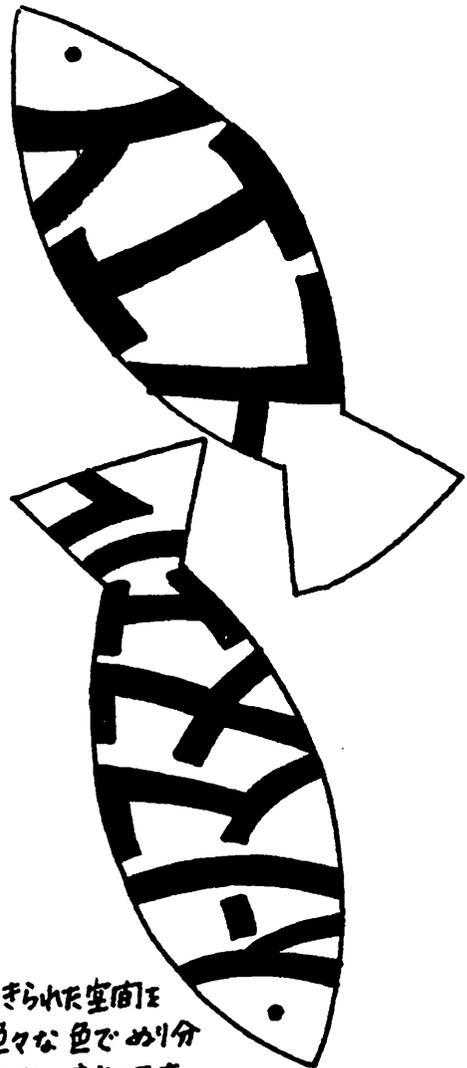
- 序 ・ヨセフの系図（マタイ 1:1～16）を見てみよう。知ってる名前はいくつあるかな。
- 本 ・主の天使が、ヨセフの夢に現れてイザヤの預言（イザヤ 7:14）を告げました。
ヨセフは、旧約聖書を読んでいたもので、天使の命じたことを受け入れました。
- 結 ・イエスさまの誕生と、罪からの救いにより、「神は我々と共におられる」（インマヌエル）ことが、神の真実として実現しました。ヨセフの信仰と従順が神さまのご計画に用いられたのです。

〈やってみよう〉

- さかなのしおり -

材料 ・画用紙

・色鉛筆（マーカーペン）



しぎら紙の空間を
色々な色でめり分
けると、きれいです。

伝言板

『あしたは遠足なので、お天気にしてください』とお祈りしたのに、雨が降っちゃった！

あーあ、神さまは、わたしのお祈りをきいてくださらない……」と、文句を言ったことがありませんか？（恥ずかしいことですが、私も二度か三度あるかな……。でも、すぐに謝りました。自分勝手、自分中心の思いでいっぱいでしたって）

お祈りどおりにならない時、思いどおりにいかない時、文句を言ったり、お祈りすることをやめてしまったりしないで、神さまにおゆだねしませんか。すこし時間がかかる時もあるけど、必ず、神さまが一番よい時に、一番よいことをして下さいます。

ヨセフにとっても、初めは、神さまに文句の一つも言いたい気分だったかもしれません。でも、言いませんでした。

「インマヌエル」（神はわれわれと共におられる）の神さまは、真実なお方ですから、これからは安心して信頼してゆきましょう。

〈目的〉

私たちが主イエスとお呼びする意味をしっかりと覚えさせる。

〈指導上の心得〉

主の名前に意味があることを教師自身も確認しつつ、主の名に親しみをもちつつ語ろう。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・子どもたちの名前に、両親がどのような思いを込めて付けたか聞いてみる。(知っている子も知らない子もいると思うが、どのこの名前にも意味や思いが込められていることを教える)
- ・主イエスという名前にも意味があることをもう一度確認する。
- ・主のお名前を呼ぶときに、その主の名の意味を思い起こしながら喜んで呼ぶこと、また、主はその呼び声に答えてくださることを教える。

〈ワーク〉

1. イエス様のお名前は誰が付けたのでしょうか
 - a) ヨセフとマリアが考えた。
 - b) 神様がヨセフとマリアにお命じになった。
2. イエスというお名前にはどのような意味があるのかな？ 書いてみよう。
イエス＝
3. 私たちがまじめに「イエス様」とお呼びするとき、イエス様は答えてくださるでしょうか？
 - a) 必ず答えてくださる
 - b) 何も聞こえないから答えて下さらない
4. マタイ 1:21 を書いて、先生と一緒に覚えよう。

答え 1. b 2. カテキズム問 23 を参照 3. a

〈目標〉

主イエス・キリストの名の意味を知る

〈指導上の心得〉

‘ヤハウエ’、‘キュリオス’、‘ロード’のカードは、それぞれ原語表記の方がよい。ヘブル語の各単語が右から読むところが面白い。牧師に教えてもらおう。

〈展開例〉

- (1)主：(‘ヤハウエ’ ‘キュリオス’ ‘ロード’ と書いたカードを示して) これらは、みな同じ意味の言葉です。‘ヤハウエ’ はヘブル語、‘キュリオス’ はギリシヤ語、‘ロード’ は英語。これらはみな日本語に訳すと「主」という言葉になります。「主」は「このお方を主とする」という信仰告白の言葉です。「全てのものを統治するお方」という意味があります。ですからこ

の名を人間につけてはいけません。また天使にもつけてはいけません。もし人間や天使に「主」とつけたら、それは偶像礼拝です。わたしたちが主とお呼びできるのは、まことの神であるイエスさま以外にはおられません。

- (2)「イエス」と「キリスト」の意味：(カテキズム問 23 で確認)
- (3)カテキズム暗唱：問 23 を画用紙に書き(色分けするとよい)、はさみで 20 ピースくらいに切り、パズルにする。
- (4)さんび：「主われを愛す」

〈祈り〉

まことの神様、私たちの救いのために、まことの神、救い主、イエスさまをお与えくださって、ありがとうございます。このお方に従って、よき行いができますように。

〈目標〉

イエス様が「子なる神様」であることによって私たちに与えられる恵みを知り、「イエス」と名付けられた経緯から、イエス様が約束された救い主であることを学ぶ。

〈展開例〉

私たちが礼拝の時に告白する「使徒信条」には、「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず」という言葉があります。この言葉について、今週と来週の2回にわたって考えましょう。

○神の子となる恵み

前にも学んだように、イエス様は私たちと同じようにお母さんのお腹から生まれた人であって、しかも「子なる神様」でもあられました。そのことによって、イエス様は私たちの身代わりとなって私たちの罪をつぐなうことができたのです。

さて、「子なる神様」が私たちの兄弟となってくださったことによって、私たちも「神の子」と呼んでいただけるようになりました。ガラテヤの信徒への手紙 3:26 を見てみましょう。イエス様は子なる神様です。そのイエス様が私たちの身代わりになってくださったことによって、神様は私たちをイエス様と同じ「子ども」として認めてくださるのです。ですから、すべての人間が神様の子どもなのではありません。イエス様を自分の救い主と信じる人だけが、神様の子と認められるのです(ヨハネ 1:12)。

では、私たちは神の子と呼ばれることによって、どんな恵みをいただけるのでしょうか。

まず、第一に、子どもである私たちはお父さんである神様から必要な物をいただけるということです(ルカ 11:11-13)。実際のお父さんも、子どもに良いもの=成長に必要な物をくれます。それは、子どもの欲しがるものを何でもくれるということではありません。親は考えて、健やかに成長するために必要な物をくれるのです。同じように神様は私のお父さんですから、私たちの体も心もたましいも健やかに育つのに必要な、一番良いものをくださるのです。

第二に、子どもは親の財産を受け継ぐことがで

きるということです(ペトロ 1:4)。私たちは天国で神様のみ国を継ぐことができるのです。天国での永遠の命、神様と共にある平和で満ち足りた日々。これはけっしてなくなることがないものですが、それを受け継ぐことができるのです。

そして、この世の生活の中では、子どもである私たちは、親である神様に守られ、必要な物が与えられ、悪いことをした時にはおこられ、それでも、親が子どもを見離すことがないように、けし見捨てられることがないのです。

○イエスという名

さて、このような神の子となる恵みがいただけるのは、繰り返しますが、イエス様が私たちの身代わりになってくださったからです。それによって、私たちは自分に何の良いところも無く、かえって罪を犯す存在であるにもかかわらず、罪なきものとされるのです。それだからこそ、私たちはイエス様を「救い主」「私の主」と呼ぶのです。

さて、「主イエス・キリスト」と呼ぶ時、「イエス」というのは、子なる神様が肉体をとってこの世に来られた時の名前ですが、この名前にも意味があります。この名前は、地上の両親であるヨセフとマリヤが自分で考えて付けた名前ではありません。ヨセフとマリヤは御使いの指示で「イエス」という名前を付けたのです(マタイ 1:21)。

イエスという名前はもともとヘブル語で、「主は救いである」という意味でした。つまり、イエス様は、生まれる前から救い主である事が約束されていた方なのです。イエス様は、普通の人が努力して偉い先生になって救い主になったのではなく、最初から約束された救い主なのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、こうして私があなたのことを「お父さん」とよぶことができるのは、その名のおり約束された救い主であるイエス様のためであることを学びました。どうか、私たちがこれからも、イエス様の救いを信じて、あなたの子どもである恵みをいっぱいいただけますように。

テキスト

マタイによる福音書 16章 13 ~ 20 節

「わたしを何者だと言うのか」というイエスの問いかけに、ペトロが「あなたはメシア、生ける神の子です。」と答え、それを聞いたイエスが「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」と宣言されたお話です。

(1) イエスの問いかけ

「『人々は、人の子のことを何者だと言っているか』とお尋ねになった。」このイエスの問いかけは、人の評判のことを気にしての問いかけではなく、マタイでは 16 章からファリサイ派とサドカイ派のことを記して、5 節 10 節「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種に注意しなさい。」という注意の後に、この弟子たちへの問いかけをしているところから、弟子たちへの教育、すなわちわたしイエスを正しく理解させる意味があったようです。それで 21 節では「このときから、イエスは」ご自分の受難と復活を「打ち明け始められた」と、事の次第を記しています。

「弟子たちに」と記しているように、問いかけは教会に対してのもので、答えるペトロも弟子たちの代表としての答えです。そして立派な答えはするものの、イエスがメシアとしての道を打ち明け始められるとペトロがいさめ始めたように、弟子たちはイエスによってイエスをメシアと告白するように導かれるものの、その深い意味をまだまだ理解しているわけではありません。それを理解するのは受難と復活の後のことであり、集まって祈り、「わたしが話したことをことごとく思い起こさせてください」(ヨハネ 14 章 26 節) 聖霊を受けてからのことだと福音書や使徒言行録は記しています。

イエスを正しく理解し告白するには、イエスからの問いかけによる導きを受けなければなりませんし、また人々の評判とは違って「あなたはわたしを何者だと言うのか」というあなた自身の答えでなければいけません。そしてご自分のことを「打ち明け始められ」るイエスの教えに聞き、祈って

聖霊の導きを受けなければいけません。ですから「あなたはメシア、生ける神の子です。」という告白もイエス様が言うには「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」という父なる神の啓示によるものです。

(2) シモン・ペトロの告白

ペトロの告白は人々の告白とは明らかに違ったものでした。「洗礼者ヨハネ」とは 14 章 2 節で領主ヘロデが言ったもので、これはヨハネを殺したことによって出てきたもののようです。「エリヤ」は紀元前 9 世紀の北イスラエル王国の預言者で、生きながら火の車と馬にさらわれて昇天した人物です。預言者マラキは主来臨の先駆けとしてエリヤを遣わすと預言していました。(マラキ 4 章 5 節)「エレミヤ」は紀元前 7 ~ 6 世紀の南ユダ王国の預言者です。その最後がエジプトに連れ去られてよく分かっていない人物です。要するに人々の評判は様々ではあっても「預言者の一人」というような理解だったようです。

それに比べるとペトロの告白は全く異例のものです。すなわち預言者でも先駆者でもなく「メシア、生ける神の子」そのものだ！という告白です。

(3) 父の啓示

旧約の預言書によれば「主の日」とは神がご自身を顕現される日のことを指します。メシアはその神の顕現そのものです。「生ける」とは「死せる」異教の神々に対する表現で、人間の手で動かさなければ移動することもできない偶像に対し、動きと働きかけがあること、人を救うことができることを意味します。イエスは私たちを導き、私たちに働きかけ、私たちを救う「メシア」であり、まさに「天の父」がわたしたちに表してくださった「生ける神の子」なのです。

「シモン・バルヨナ、あなたは幸いです。」

カテキズム 子どもカテキズム 問23
ハイデルベルク信仰問答 問31,33

ハイデルベルク信仰問答 問31

問31 なぜこの方は「キリスト」すなわち「油注がれた者」と呼ばれるのですか。

答 なぜなら、この方は父なる神から次のように任職され、聖霊によって油注がれたからです。すなわち、わたしたちの最高の預言者また教師として、わたしたちの贖いに関する神の隠された熟慮と御意志とを、余すところなくわたしたちに啓示し、わたしたちの唯一の大祭司として、御自分の体による唯一の犠牲によってわたしたちを贖い、御父の御前でわたしたちのために絶えず執り成し、わたしたちの永遠の王として、御自分の言葉と霊とによってわたしたちを治め、獲得なさった贖いのもとにわたしたちを守り保ってくださいます。

〈神さまから油を注がれた方〉

「キリスト」とは、主イエス・キリストの名字や姓ではありません。「油を注がれた者」という意味のヘブル語「メシア」のギリシア語訳です。

旧約時代のイスラエルにおいて、預言者と祭司と王は、主なる神がお立てになる特別な職務であり、神によって聖別されることが必要でした。そのため、聖別のしるしとして、頭に香油を注がれて、預言者と祭司と王の職務に任命されました。油を注がれるとは、神の御霊がその人とどまり、神の特別な賜物がその人に与えられることを表すしるしです。「メシア」「キリスト」は、神によって立てられた特別な職務を表す言葉です。

〈真実のメシアなるお方、キリスト〉

主イエスは、神の特別な職務を果たすために、三位一体の神によって地上に遣わされました。主イエスは、神の御子であり、神と等しいお方、まことの神であるお方です。そのお方がへりくだってまことの人となり、罪なき生涯を歩み、「キリスト」の職務を成し遂げてくださいました。この主イエスこそ、旧約の預言者たちとは比べることができない、完全な真実の「油注がれた者」であり、まったく「メシア」「キリスト」です。

主イエスは公生涯のはじめに洗礼をお受けになりました。その時に、神の霊が鳩のように主イエスの上に降り、また天から「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声がしました（マタイ 3:16-17）。この出来事が、主イエスが神

の御子であること、また「メシア」「キリスト」であることのしるしです。この方こそが、真実のキリストなるお方です。

ペトロをはじめとする弟子たちには、この「主イエスこそキリストである」という信仰を告白することが、神の恵みとして与えられました（マタイ 16:16）。この告白に立たせられるということこそが、神の恵みであり、救いです。この信仰告白は、主イエス・キリストの人格と御業に基づいています。このキリストの上に、またこの信仰告白の上に、キリストの教会が建てられるのです。

〈キリストの職務〉

「油を注がれた者」キリストの職務について、旧約の伝統にならって、預言者と祭司と王の職務から考えることができます。子どもカテキズム問25～27は、この側面から、主イエス・キリストの御業について告白しています。イエス・キリストが預言者と祭司と王であるとは、言葉を替えると「イエス・キリストこそ主である」ということにほかなりません。イエス・キリストは、まことの神にしてまことの人であり、私たちに神を示し、御自身を捧げて私たちの罪を償い、執り成してください、また私たちを神の恵みのもとに治めてくださるお方です。このお方が、私たちの主として与えられています。このことを心から喜び、感謝するのです。この方のほかに、私たちの救いは与えられていません。ただこの方お一人が、私たちの「キリスト」「救い主」なのです。

マタイによる福音書 16章 13 ~ 20節

子どもカテキズム 問 23

「キリスト・油注がれたお方」

〔単元のねらい〕

日曜学校の礼拝式には、主イエス・キリストが臨在しておられる。信仰を告白し、洗礼を受け、聖餐を受領している教師たちがいるからである。臨在のキリストは、子どもらに働いておられる。説教はこのお方を証する。キリストの働き通路として用いられる。主キリストはこの朝も、あの時のようにその愛する子らに尋ねてくださる。それは既に、救いへの招きであり、愛の告知にほかならない。使徒ペトロに与えられた信仰の恵み、そのキリスト告白の物語の中から、「キリスト」の意味、イエス・キリストを主と告白する幸い、救いと信仰生活へと招きたい。我々の課題は、我々と共に、「イエス・キリスト」「主イエス・キリスト」と、子どもらが喜びと感謝を持って賛美し、そう呼ぶ通りの信仰へと導き育てることである。

主イエスさまは、お弟子さんたちと伝道の旅を続けておられました。フィリポ・カイサリア地方に行ったときのことで。イエスさまはお弟子さんたちに、「人々は、わたしのことをどのような人だと言っていますか」とお尋ねになられました。弟子たちは、人々がイエスさまに向かって、あれこれ言うのを聞いておりました。「洗礼者ヨハネです」と言う人もいました。洗礼者ヨハネさんはイエスさまに洗礼を授けた人ですね。でも殺されてしまっていました。ですから、ある人はこのイエスさまのなさることを見て、ヨハネさんの生まれ変わりかもしれないとか噂をしていました。また、ある人はこう言いました。「あの方は昔に有名なあのエリヤだ。死なないで天に昇って行ったエリヤが、今もう一度、私たちのところにやってこられたのだ。」またある人は「あの方は預言者のエレミヤさんだ。」また他のある人は、「あの方は、神さまが立ててくださった預言者の一人だ。」要するにイエスさまは立派な人、神さまから特別に選ばれた、神さまの言葉を語る素晴らしい人だということです。

イエスさまはじつとお弟子さんたちがあれこれ言うのを聞いておられました。そして、お弟子さんたちが言いおわると、お弟子さんたちを見回しました。そして、おごそかな顔つきでゆっくりとこのように尋ねられました。「人々が私について何と言っているのか分かりました。それなら、聞

きます。あなたがたはこの私のことを誰だと言うのですか。どの様な人だと言うのですか。」

皆は、日曜学校に来はじめてもう何年になりますか。今年になって来てくれたお友達もいますね。とっても嬉しいです。これからクリスマスの準備なども始まります。1年のお友達も、もう2年、3年と通ってくれているお友達も、生まれた時から、教会にいるお友達も、本当に今日一緒に神さまを礼拝できて嬉しいです。イエスさまのお弟子さんたちは、この時、お弟子さんになってまだ数年しかたっていません。そうすると、僕たち私たちが、この時のお弟子さんよりイエスさまのことを良く知っているかもしれません。つまり、イエスさまは、今朝、一人ひとりに質問して下さいます。「○○ちゃん。あなたはわたしの事を何と言いますか。」今、考えてください。何とお答えすることが、イエスさまに喜んでいただけるのでしょうか。どのようにおこたすることが正しいお答えになるのでしょうか。

さて、お弟子さんの中で、シモン・ペトロが誰よりも先に答えました。ペトロの本当の名前はシモンです。ペトロは岩という意味の「あだ名」なのです。ペトロさんは、イエスさまの目を見つめて、「イエスさま、あなたはメシア（ギリシャ語で言うとキリスト）です。あなたは生きておられる神の子です」と言いました。すると、どうでしょ

う。イエスさまのお顔は、本当に喜びに満たされました。そして、すぐにペトロさんに言いました。「おめでとう、良かったね。あなたは幸いな人です。私がキリスト、神さまの子だということは、誰にでも分かることではありません。ただ、わたしの天のお父さまに教えてもらわなければ分からないのです。それが、分かったということは、ペトロ、あなたが賢いからではありませんよ。天のお父さまのおかげです。本当に良かったね。」

キリストという言葉は、実は名字ではありません。イエスさまのイエスはお名前です。キリストとはお働きを表す称号、ただ神さまだけから、ただお一人に与えられるタイトルなのです。ボクシングのチャンピオンっているでしょう。チャンピオンは一人だけですよね。キリストとは、神さまがお立てくださった特別の、ただお一人の救い主という意味なのです。だから、イエス・キリストと言うのは、イエスが名前でキリストが名字ではありません。救い主という名前をもっておられるイエスさまは、キリスト、神さまが救い主として立ててくださったただお一人のお方です、という意味なのです。だから、僕たち私たちが「イエス・キリスト」と言うときには、イエスさまを賛美し、イエスさまを信じ喜んでいるという事になります。

先生のお祈りの時に、皆は気づいているかな。「主イエス・キリスト」って言うでしょう。イエスさまはキリストです、そして主ですという意味です。主と言うのは、私の神さま、ただお一人の神さま、ご主人さまです、という意味です。ですから、先生は心を込めて、喜びと感謝をもって、主イエス・キリストとお呼びするのです。そうすると本当に嬉しいのです。なぜって、イエスさまが心から喜んでくださるからです。「〇〇、おめでとう、良かったね、本当に嬉しいよ。あなたは幸せですね。」こうイエスさまがおっしゃってくださることが分かるからです。先生も、天のお父さまに教えて貰ったのです。イエスさまが誰かは、神さまに教えてもらうのです。教えてもらって信じた人は、誰でも、神さまの子どもとされた人です。救われて天国に入れる人です。だから、イエスさまはお顔をくしゃくしゃにして、僕たち私たちが「主イエス・キリスト」とお呼びするのを、つまり、僕たち私たちが救われて神さまの子とされる事を喜んでくださるのです。

今朝、イエスさまは「〇〇ちゃん、あなたは、わたしのことを何と呼びますか。」一人ひとりに質問してくださいます。「あなたはイエスさま」だけではなく、「主イエス・キリスト」と信じて呼べたら、先生も本当に嬉しくなりません。

今週の暗唱聖句

シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタイによる福音書 16章 16節

〈目標〉

ペテロさんの様に「イエス様は、私達の主イエス・キリスト」と告白できるように。

〈展開例〉

イエス様は、大きくなって、神様のことを伝える旅を続けていらっしゃいました。今日のお話にはイエス様の他に誰が出てきたかな？ そう、お弟子さん達です。イエス様は、ペテロさんに「あなたは私のことを何と呼びますか？」と聞きました。ペテロさんは「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。その答えをイエス様は、とても喜んで褒めてくださいました。「あなたは、私達を罪の暗闇から救って下さる方、神様からだ一人お名前を頂いた神の子です」と言う意味です。皆も知ってるよね。イエス様は、私たちの悪い心を白くして下さる（10/4 工作「字のない本」を用いるとわかりやすい）ために、十字架にかかって死んで下さり、3日目によみがえって下さったのです。今もイエス様はペテロさんに聞いたように、私達に聞いています。「○○ちゃん○○くん、あなたは私を何と呼びますか？」なんて書いてあるかな？（大きな紙に書くなどして、皆で読む）「私達の主イエス・キリスト」イエス様は私達がこうお呼びするのを本当に喜んで下さいます。だから、皆でお呼びしようね。

（視覚教材を使って、一人一人に問いかけてみるのも良い）

そして、お呼びする時には、イエス様ってどんなお方だったかな？って思い出してみようね。

〈お祈り〉

天のお父様、イエス様は私達のただ一人の救い主です。いつも私達の心をお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈視覚教材〉紙袋人形

用意する物

無地の紙袋、

はさみ、

色鉛筆、

クレヨンなど

〈視覚教材〉

紙袋人形



セツ。土は、
ふく3の底に
下は、3に3に
はる。

@ふく3に手E1142
10クハクサセ。

〈工作〉元氣にお返事「ハーイ」うさびよん

用意する物

色画用紙、ストロー二種類（太、細）、

はさみ、セロテープ、色鉛筆、クレヨンなど

※ 125 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

序 ・イエスさまは、フィリポ・カイサリア地方
に行ったとき、弟子たちに「わたしは何者
と思うか」と、お尋ねになりました。

本 ・シモン・ペトロは「あなたはメシア、生ける
神の子です。」と信仰告白をしました。
・イエスさまは、そのような信仰告白の上に、
キリストの教会が建てられることをお話し
になりました。

結 ・「わたしたちが救われるべき名は、天下に
この名のほか、人間には与えられていない
のです。」(使徒言行録 4:12)

- * イエスさまこそ、まことの救い主であることを、弟子たちに教えてくださいました。
- ** 天のお父さまに教えてもらわなければ、信仰告白をすることはできません。教えていただいて信じた人は、神さまの子とされたのです。「あなたは幸いです」と、イエスさまはとて喜んでくださいます。

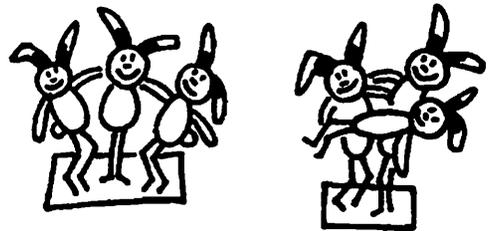
〈やってみよう〉

- 岩の上に立つゲーム -

材料 ・新聞紙 (2 ~ 3 枚)

ルール

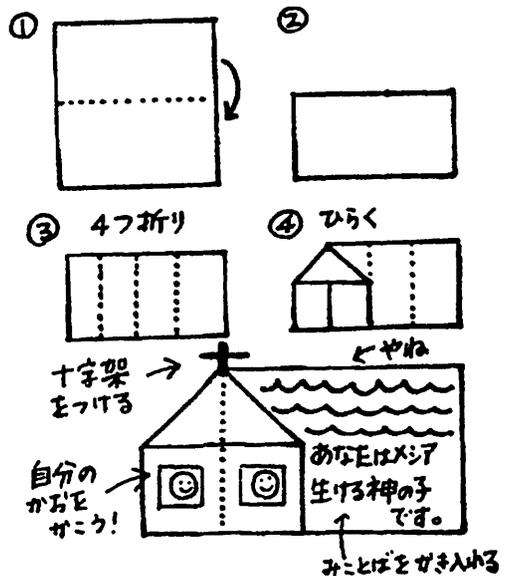
- ・3人ずつのグループに分かれます。
- ・新聞紙一枚を床に広げて、その上に三人が乗ります。
- ・ゲームリーダーが五回手をたたく間は乗ってなければなりません。
- ・次に、新聞紙を半分、そのまた半分と小さくしていき、最後まで三人が乗り続けたチームの勝ちです。おぶつても、片足を宙に浮かせてもかまいません。三人が協力して、工夫して乗っかり続けましょう!!



伝言板

「小さい頃から教会に行ってるから、イエスさまが救い主なる神さまってことは、知っているけど・・・」というお友だち、いますか？
その人は幸いですね!!
永遠の命を、いただくためには、何かまだ別の方法も、あるように思うかもしれません。しかし、聖霊に満たされ力を受けたペトロは喜びにあふれて(むかしは、弱虫だったのにネ)、
「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです!」と証ししています。これからも、自信をもって、みんなに教えてあげてください。

- 折り紙 - 「教会」



〈目的〉

キリストとは称号であり、名前ではないことを教え、子どもたちがキリストと呼ぶときそのお働きを思い起こすことができるようにする。

〈指導上の心得〉

主イエス・キリストと言うとき、教師自身がその呼び名の意味をしっかりと捕らえて教える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・名字と名前のお話を少しして、それぞれに名字と名前があることを確認する。
- ・今は氏名があるが、昔は名だけであった話をし、昔はどのようにそれぞれの人が呼ばれていたのかを一緒に考える。(住んでいる地名や職業)
- ・イエス様の呼び名イエス・キリストについて確認し、キリストが職名であること、また、その意味について確認する。

〈ワーク〉

1. キリストという呼び名はどのような意味でしょう？ 考えて書いてみよう。
2. この呼び名は、だれか他の人に付けられることはありますか？
 - a) あるよ！
 - b) イエス様以外には付けられることがない！
3. マタイによる福音書 16:16 を書いて覚えよう。来週まで覚えていられるかな？

答え 1. カテキズム問 23 を参照 2. b

〈目標〉

イエスさまを、まことの神、救い主と告白しない教会は、まことの教会ではないことを心に刻み付ける。

〈指導上の心得〉

教会は建物ではなく、キリストの体なる一人一人の信者であることを覚えよう。

〈展開例〉

(1) まことの教会

イエスさまは岩の上に教会を建てるとおっしゃいました。「岩」とはペトロが答えた信仰告白の言葉「あなたはメシア、生ける神の子です」、つまりイエスさまを示しています。わたしたちもペトロと同じ信仰を告白するなら、まことの教会となることができるのです。

(2) 工作：「マッチ箱の教会」

- ① マッチ箱(マッチ棒入り)を一人1箱用意する。
 - ② マッチの火薬部分をはさみなどで切り落とす。
 - ③ マッチ箱は、色紙で包み、ペトロの信仰告白の言葉「あなたはメシア、生ける神の子です」を書く。
 - ④ マッチ箱の中に発泡スチロール片を入れる。
 - ⑤ マッチ棒をマッチ箱に立てて立方体、三角柱などをボンドを使ってかたちづくり、屋根の上には十字架をたてて、教会をつくる。
 - ⑥ カラーセロファンなどでマッチ棒の枠を覆って飾りつける。
- (3) カテキズム問 23 の暗唱

〈祈り〉

天の父なる神様、わたしたちの教会がにせもの教会にならないように、イエスさまを、主イエス・キリストと告白し続ける教会としてください。

〈目標〉

王・預言者・祭司という、「キリスト」＝「油注がれた者」の三職について簡単に説明し、主がどのように私たちの救いのために働いてくださるかを学ぶ。

〈展開例〉

先週、「イエス・キリスト」という名前のうち、イエスというのは「主は救い」という意味であることを学びました。では、キリストというのはどういう意味なのでしょう。

○「油注がれた者」

「キリスト」というのは、イエス様の苗字ではありません。キリストとは、イエス様の役割を示す言葉、たとえば「○○先生」と呼ぶ時の「先生」にあたるような言葉です。

「キリスト」とは「油注がれた者」という意味です。昔のイスラエルでは、神様に仕える特別な仕事につくときには、その人の頭に油を注ぐというしきたりがありました。これはその人が神様に選ばれて神様に仕えるというしるしでした。この様に油を注がれたのは、預言者、祭司、王、という三つの仕事につく人でした。イエス様は、ご自身が子なる神様であると同時に、神様に選ばれて神様のための特別な役割、預言者、祭司、王、としての役割をしてくださるのです。

○「預言者」

まず、一つ注意しなければならないことは、私たちが良く耳にする「予言」と「預言」は違うということです。「予言」というのはこれから将来に起こることを前もって語る（予告する）ことです。それに対して、「預言」というのは「言葉を預かる」という意味なのです。だれから言葉を預かるのでしょうか？ それは神様です。預言者というのは、神様の言葉を預かって人々に伝える役目をする人です。旧約聖書の時代には、イザヤとかエレミヤとかサムエルとか、いろいろな預言者が神様によって選ばれ、神様の言葉をイスラエルの人々に伝えました。イエス様は最高の預言者として、神様の御心を私たちに教えてくださいます（ヘブライ 1:1-2）。それは、神様がどのようにし

て私たちを救おうとしておられるか、ということでした。「イエス様の十字架によって」と、神様はイエス様をとおして教えてくださるのです。

○「祭司」

祭司というのは、昔のイスラエルの神殿で、神様に犠牲をささげ、人々の罪のゆるしを願う役割の人でした。しかし、前にもお話しましたが、人間の罪は他の動物の犠牲によっては赦されることがありません。また、犠牲をささげる祭司自身も罪ある人間ですから、とても他の人々の罪の真のゆるしを祈ることなどできないのです。

イエス様は、ご自分の体を十字架にかけて犠牲とし、私たちの罪がゆるされるようにしてくださいました。人間の祭司の行なうことは不完全なものですから、繰り返し繰り返し犠牲をささげなければなりませんでしたが、罪の無い完全な犠牲であったイエス様は、ただ一度、ご自身をささげられ、私たちの罪が真にゆるされるようにして下さったのです（ヘブライ 10:11-14）。

○「王」

王様とは、どういう役割をする人でしょうか。国を治め、国民を守る働きをする人です。

イエス様は、イスラエルの王であるダビデの家系にお生まれになりました。それだけではなく、真に力ある方として私たちを御言葉をもって教え支配し、ご自身が身代わりとなって救ってくださった私たちが天国への道からそれてしまわないように、守ってくださるのです（ルカ 1:31-33）。

○「あなたこそ、生ける神の子キリストです」

イエス様に「あなたは私のことを何というのか」とたずねられたペトロは、すばらしく簡潔で的確な答えをしました（マタイ 16:16）。この短い言葉の中に、イエス様が私のためにしてくださるすばらしい恵みがいっぱい詰まっています。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、キリスト、イエス様が私のためにどんな勤めをして下さるかを学びました。どうか、私がイエス様のことを受け入れ、「生ける神の子キリストです」と答えられるように導いてください。

テキスト

マタイによる福音書 27章 45 ~ 50節

イエスが十字架上で息を引き取る最後の姿を描く場面です。「なぜわたしをお見捨てになったのですか」というイエスの悲痛な叫びと、居合わせた人々の「エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」という無知な発言とが、十字架での姿を一層さわだたせています。

(1) イエスの死

十字架上でのイエスの言葉と叫びを福音書は7つ記しています。(マタイ 27章 46節、ルカ 23章 34節、43節、46節、ヨハネ 19章 26 ~ 27節、28節、30節) そのうち特にマタイは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という悲痛な叫びを記して十字架の意味を読者に伝えようとしています。

「昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた」日中の暗黒は、神の裁きと御怒りの現れであり、神の介入による暗黒を示しています。この暗黒に呼応するかのようにイエスも「エリ、エリ、レマサバクタニ」すなわち「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と「大声で叫ばれ」ました。この言葉は詩編 22編 1節のみ言葉ですが、イエスの十字架とそれを取り巻く暗黒、大声での叫びから考えてみても、これは引用とか詩編を歌っていたというのではなく、まさにイエスの実感としての叫び声だと理解すべきです。イエスにとって神は「アッパ父よ」であります。この十字架上では罪に対する怒りとどのろいを注ぐ審判者なのです。罪なきイエスが神から罪人と見なされて神の怒りとどのろいを一身に受けておられるのです。

イエスは私たちと同様に人となりをとって人生を歩まれ、死をも同様に体験されましたが、その死が普通の死ではなく十字架という刑罰の死であることに注意しなければいけません。刑罰の死で

ある以上そこで罪が裁かれたのです。その裁きの結果十字架という刑罰がくだっているのです。もちろんこの刑罰は私たちの罪に対するものであり、イエスの十字架上の叫びと死は私たちのあがないの死であります。

「キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。」(コリント二 5章 20 ~ 21節)

(2) 居合わせた人々

福音書は十字架でのイエスの死を描くのにおよそ三つの事柄を描きます。一つはイエスの7つの言葉、二つに息を引き取る前後それを見ていた人々の様々な反応、そして三つ目に死に伴って神殿の垂れ幕が裂けるなどの様々な象徴的な出来事です。福音書によって共通するものもありますが、それぞれの観点から十字架でのイエスの死の意味を記しているのです。

マタイでは二つ目の人々の反応に「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」という無知な人々の姿を丁寧に描いています。「エリヤ」の登場は、終末的御国到来の希望を意味します。「酔いぶどう酒」を飲ませようとしたのは、今ひととき息をもたせて、このエリヤによる御国到来を見ようとしたのです。この人々はイエスの死に際に「救いに来る」という希望を寄せていたわけです。50節「しかし、(その希望はむなしく終わって) イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた」のです。ここでは人々の無知を描くと同時に、イエスこそ息を引き取ることによって私たちを「救いに来」た方であることを示したいのでしよう。

カテキズム

子どもカテキズム 問24

ウェストミンスター小教理問答 問27

子どもカテキズム

問24 主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

ハイデルベルク信仰問答

問43 十字架上でキリストの犠牲と死から、私たちはさらにどのような益を受けますか。

答 この方の御力によって、私たちの古い自分がこの方と共に十字架につけられ、死んで、葬られる、ということです。それによって、肉の邪悪な欲望がもはや私たちを支配することなく、かえって私たちは自分自身を感謝のいけにえとしてこの方へ献げるようになるのです。

〈神の御子のへりくだり〉

主イエス・キリストは、私たちに救いを与えてくださったお方です。この救い主の働き、職務を理解する枠組みとして、「二状態三職論」があります(4月1日のカテキズム研究を参照)。二状態とは救い主の「へりくだりと高挙」であり、三職論とは「預言者と祭司と王」の職務です。神の御子イエス・キリストは、へりくだりと高挙の状態において、預言者と祭司と王の職務を成し遂げられ、今も神の右に座して働いておられます。

〈へりくだりの頂点、十字架〉

私たちの救いは、神と人との間の隔ての壁が仲保者によって取り除かれることによって、成り立ちます。この仲保者として、三位一体の神の第二位格である神の御子が、いと高き神の御元から地上へと遣わされ、人間の肉をとって人となりました。このお方は、神の御子であるにもかかわらず、へりくだって人間の姿を取り、その人間性は罪を除いては罪人である私たちの弱い人間性と何ら変わるところがありませんでした。父なる神に徹底的に服従され、御父の御心にかなうお方でした。神であり、人であるお方です。こうして、罪人の罪を取り除く仲保者が与えられました。

このへりくだりのクライマックスが、十字架の御業です。キリストは、十字架の死に至るまで、

徹底的にへりくだってくださいました。

〈罪人のしもべ、私たちの身代わり〉

このへりくだりは、キリストが罪人のしもべであるということです。キリストは、罪人のしもべとして御自身をささげて、十字架の死を引き受けてくださいました。私たちの身代わりとして、罪の償いを成し遂げてくださいました。私たち罪人に代わってすべての罪を担って死んでくださいました。このキリストの十字架の御業によって、私たちは贖われました。このキリストの御業によって、神の義と愛が明らかにされました。罪を裁き、しかし罪人を愛して罪から救い出す三位一体の神の義と愛です(ヨハネ4:9-10)。

〈キリストと共に十字架に死ぬ〉

キリストは、この十字架の御業によって、神の救いを私たちに提供してくださいました。今、私たちは、キリストの霊である聖霊を与えられて、キリストと一つにされ、キリストの体とされています。すなわち、古い自分がキリストと共に十字架に死んだのです。私たちの罪もキリストと共に十字架につけられて葬られました。こうして、私たちは、罪と死の支配から解き放たれ、罪の奴隷からキリストの奴隷へと変えられたのです。私たちは、キリストと一つであり、神の子どもとされているのです。

マタイによる福音書 27章 45～50節

子どもカテキズム 問24

「十字架につけられた主」

〔単元のねらい〕

問22～24は、問1～3と同じように、二回にわたって扱っている。問い1～4はカテキズムの基礎であり、繰り返し、唱えることが大切であろう。キリスト教は言うまでもなく生けるキリストが中心。そうであれば、この単元は、カテキズムの頂上とも言えよう。日曜学校の業は、予らに臨在（生きておられる）のキリストに出会わせる業である。その意味で、礼拝式こそはその営みの中核、心臓である。そこに、説教奉仕者の光栄があり、それ故に、たゆまぬ研鑽が求められよう。説教者の姿勢は、今朝の礼拝式が予らにとって最後の説教であるかもしれないという切迫感、緊張感をもってキリストを指さすこと。また同時に、毎週毎週の礼拝式に働かれる聖霊と次週の説教者に期待し、信頼する姿勢も求められている。二律背反するが、どちらも必要不可欠である。

今日は問24を皆で読みました。問24には、「主イエス・キリストは私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか」とあります。主イエス・キリストさまは、僕たち私たちのために、どのようなお働きをしてくださったのでしょうか。

これまで、私たちは、イエスさまがどんなことをしてくださったか、聖書から学んできましたね。先週は、シモン・ペトロがイエスさまに、「あなたこそキリスト、神の子です」と信仰を告白したことを学びました。その前には、イエスさまが罪を犯した女の人を赦してあげたことも学びました。生まれたときから目の見えない人を癒してあげた物語。ザアカイさんとのお話。ゲラサに住む悪霊に疲れた男の人を癒してあげたお話。教えれば、もっともっと沢山あります。それなのに、問24の答えはこうです。「主イエス・キリストは私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に、永遠のいのちによみがえられました。」

奇跡を行ったとか、病人を癒してあげたとか、素晴らしいお話をしてくださったとか、イエスさまはたくさんたくさん、お働きになられました。でも、一番大切なこと、一言でイエスさまのお働きを言うならば、十字架について死んでくださったこと、三日目にお甦りになってくださったこと、この二つです。

いま読んだ聖書箇所は、イエスさまが十字架にかけられた、その時の物語です。イエスさまは朝の9時に十字架の木の上に、吊るされました。手の平にはクギ、足にもクギを打たれました。そして、そのまま木は垂直に立てられたのです。お昼の12時になりました。あたりは暗くなってしまいました。真っ黒な雲が太陽を隠してしまったのです。そのような暗い状態が3時まで続きました。

そして、3時ごろ、イエスさまは大声で叫びました。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」聖書のなかにあるイエスさまの肉声です。これを聞いたお弟子さん、マタイさんは、決して決して忘れられない、声だったのでしょう。これまでギリシャ語で書いていたのに、この言葉だけは、イエスさまが話されたアラム語（ヘブライ語）で記録しました。これは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

先生は、このイエスさまの叫び声を初めて知ったとき、本当にびっくりしました。つまり、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」というのは、イエスさまが十字架の上にひとりぼっちになって、天のお父さまに文句を言っておられるのかと考えてしまったからです。十字架の木にずっとはりつけられたままで、ちっとも助けてくださらないので、イエスさまが「何故、こんなにあなたに従って生きたのに、見捨てられるのでしょうか。話が違います。もう神さま

を信じません」と言っているように誤解したから
です。

愛する皆さん。この「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という叫び声は、イエスさまが天のお父さまに文句を言っておられるのではありません。その正反対なのです。実は、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という言葉は、旧約聖書の詩編第 22 編の詩の中に同じ言葉があります。実はこの 22 編というのは、神さまを心の底から賛美する賛美歌なのです。イエスさまは、十字架の上で、この 22 編全部をお読みになることは出来ませんでした。でも、聖書をよく知っている人なら、この言葉が詩編 22 編の言葉であると分かるのです。つまり、イエスさまは最後の最後まで、天のお父さまを賛美して、信じ抜いて死んで行かれたのです。それは、僕たち私たちの罪の身代わりになって、神さまの刑罰を受けるためです。もしも、イエスさまが天のお父さまをののしったり、信じることを止められたら、その時には、イエスさまも罪人になってしまいます。もう僕たち私たちの罪の身代わりになって死ぬことはできません。イエスさまは、最後の最後まで信仰の勝利者として死んでくださったのです。本当にキリスト、救い主として、神さまからの恐ろしい罰である死を受け入れてくださったのです。それは、あなたの罪を赦し、あなたに永遠の命を与えるため、あなたを神さまの

子どもとするためです。

先生は、ずっと昔、日曜学校でこんな質問を受けたことがあります。「先生、イエスさまは神さまなんですよ。だったら、三日後に復活することも分かってるんだよね。なんだかずるいな。」とてもびっくりしました。でも、皆にぜひ知ってもらいたいです。イエスさまは本当の人間とられました。死んでくださるためです。あなたの罪を全部背負われたイエスさまは、聖い神さま、天のお父さまは、本当にイエスさまが罪人であると認めて、手加減することなく、減ぼしてしまわれたのです。イエスさまは、本当に天のお父さまに捨てられてしまったのです。永遠の初めからいつも一緒にいて、交わりをしておられた天のお父さまと御子なる神さまイエスさまとが、離れてしまったのです。イエスさまにとってこんなに恐ろしいことはありません。先生には、この十字架の上で味あわれたイエスさまのお苦しみ、イエスさまが受けられた恐ろしさは想像もつきません。

それは、すべて先生のため、あなたのためです。イエスさまがあなたの代わりに捨てられたのですから。このイエスさまを信じる人は、神さまに捨てられることは決して決してありません。三日目にイエスさまは天のお父さまによって、墓の中からおよみがえりになられたのですから。

信じる僕たち私たちは永遠に神さまと一緒に生きることが出来ます。今日も先生と一緒に愛するイエスさま、主イエス・キリストとお呼びし、お祈りしましょう。

今週の暗唱聖句

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

マタイによる福音書 27 章 46 節

〈目標〉

いのちを捨ててまで私達のことを思っていてくださるイエス様を知る。

〈展開例〉

今日は、ちょっとびっくりするようなお話ししました。イエス様はどうなってしまったのでしょうか？ そう、十字架につけられて死んでしまいました。

死んでしまうと人はどうになってしまうのでしょうか？ 息が出来なくなって目も見えなくなって、耳も聞こえなくなって、血も止まってしまって、お話も出来なくなってしまいます。しかもイエス様は、痛くて苦しい十字架にかけられて殺されたのです。何も悪いことはしていないのにです。どうしてでしょうか？ どうして何も悪いことをしていないのに十字架にかけられたのでしょうか？

それは、私達の代わりに罪の罰を受けるためでした。本当は私達が受けなければならない罰を、一人で背負って下さったのです。そうしなければ、私達が神様と一緒に居られないし、天国へも行けないからです。イエス様はそのために本当に死ん

で、まったく神様と離れたまっくらなところまで行かれました。そうして、私達に神様への道を下さったのです。イエス様はそれから3日目によみがえって下さいました。そして今は天の父なる神様の右にいて、私達のことをいつもお祈りして下さいます。これが、イエス様が私達にして下さった事です。

〈お祈り〉

天の父なる神様、私達のために十字架にかかって死んでくださったイエス様を忘れないようにお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈歌〉『ブレイズワールド』

13番「両手いっぱいのお愛」

〈工作〉ありがとう神様（おじぎする人形）

用意する物

厚紙、色画用紙、

はさみ、ペン、両面テープ、色鉛筆など

※ 126 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・人々の罪が、イエスさまを十字架へと押し上げました。
- 本 ・十字架上のイエスさまは、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と、大声で叫ばれ、息を引き取られました。
- ・人間の「死の孤独と恐ろしさ」をその身に完全に受けられたのです。
- 結 ・詩篇 22:2 ~ を分級の先生に読んでもらいましょう。
- 「子孫は神に仕え、主のこゝろを来るべき代に語り伝え、成し遂げてくださった恵みの御業を民の末に告げ知らせるでしょう」(22:28)の御言葉で閉じられています。
- ・イエスさまは、十字架の上から、私たちの救いをはっきりとご覧になっておられたのです。

伝言板

あなたは、あこがれのサッカー選手や野球選手・・・歌手、アニメの主人公がいますか？

あこがれの人は、いつもカッコよくステキでいてほしいよね。

イエスさまが、人々の病気を直してあげたり、権威をもって、神の国についてお話をされた時には、人々は大勢イエスさまの後をつけて来ました。しかし、イエスさまがたくさんムチを打たれ十字架におかかりになったお姿は、人々の目には、どう映ったのでしょうか？ がっかりしたのでしょうか。

弟子たちは恐くなって逃げだしました。イエスさまに、ひどい悪口を言う人もいました。

しかし事の成り行きを見ていた見張りの人々は、「本当にこの人は神の子だった」と言いました。

みなさんは、どう思いますか。

イエスさまは、はずかしめを喜んでその身に受けて下さいました。あなたのために・・・。

〈やってみよう〉

- ならべかえゲーム -

- ・紙に、マタイ 27:46 の御言を書いて正しく並べかえましょう。

三時ごろ	イエスは	大声で	レマ
------	------	-----	----

エリ	エリ	お見すてに	わが神
----	----	-------	-----

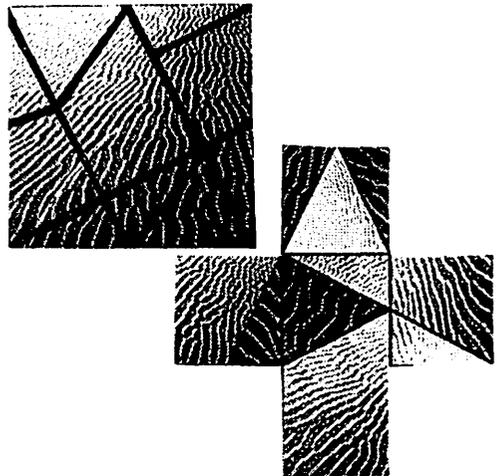
いみである。	という	わたしを
--------	-----	------

サバクタニ	わが神	なぜ	これは
-------	-----	----	-----

なったのですか	さげられた
---------	-------

- 十字架パズル -

- 作り方 コピーしたものを、厚紙に貼って、切りわけ、十字架の形を作って下さい。



〈目的〉

主イエスが私たちのために謙ってください、十字架の恥をも受けて下さったことを教える。

〈指導上の心得〉

主イエスの業が、徹底した謙りの業であったことを教師自身も再び覚えるつもりで、良く噛みしめながら教える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・聖書の中で、主イエス・キリストが人々にどのようなことをなさってこられたと記されているかを生徒と共に話し合う。
- ・その主が十字架にかけられた事実を共に話す。
(十字架の恥と苦しみを中心に話す)
- ・主が神御自身であるにもかかわらず、徹底的に謙り私たちの罪のために十字架に架かって下さったのであることを最後に伝える。

〈ワーク〉

1. イエス様は神様として、高い状態のままでおられましたか？
 - a) はい。
 - b) いいえ。イエス様は高い状態のままではなく、人間の姿となって、私たちと住んで下さいました。
2. イエス様は、一番低い状態として十字架に架けられましたが、それは誰のためでしたか？
3. マタイ福音書 27:46 を書いて覚えましょう。

答え 1. b 2. わたしの(罪の)ため

〈目標〉

イエスさまの十字架の犠牲の尊さを覚える。

〈指導上の心得〉

自分の羊に愛着を持てるように。尊い犠牲の意味を体験しよう。

〈展開例〉

- (1)羊さがしゲーム：①かわいい羊の絵を書いたカードを用意する。②子供たちに好きなカードを選ばせ、それぞれに自分の好きな名前をつけてもらう。みんなは羊飼いになる。③一人部屋の外に出る。残った人で、部屋の外に出た人の羊カードを部屋のどこかに隠す。④部屋の外に出た人は、迷子になった自分の羊(カード)を探す。
- (2)罪のためのいけにえ：わたしは羊飼いの隊長です。さて、こんどの安息日には、罪のためのいけにえを捧げなければならない。〇〇くん(ちゃん)、今度は君のところの羊を捧げる番

だ。さあその羊を神にささげなさい……。さて、大好きな羊ちゃんをあなたは捧げることができますか。昔のイスラエルの人々は皆そのようにしてきました。なぜならそれが神さまの律法だったのです。そして、大好きな羊がほふられて、祭壇にその血が注がれるのを見るたびに、自分の力ではどうにもならない罪の力を知り、犠牲の尊さをかみしめたのです。でも今はそのような犠牲を捧げる必要はありません。なぜなら主イエス・キリストが、私たちの身代わりとして十字架の上で死んで下さったからです。

(3)カテキズム暗唱：問 24 を 30 枚くらいに分割し、カード化して、本文を見ないで正しい順に並べ変えてみよう。

〈祈り〉

大好きなイエスさま。わたしの罪の救いのために、あなたの尊いお体を、捧げていただきましたことを感謝いたします。

11月11日「なぜ私をお見捨てになったのですか」中学科 分級教案

〈目標〉

十字架上のキリストの苦しみの大きさを知り、その大きな苦しみは本来「私」が受けるべきものであったことを確認する。

〈展開例〉

子なる神であるイエス様にとっては、この地上に来られて人間として味わわなければならない痛みや苦しみというものは、本来味わわなくてもよかったはずのものでした。本来味わう必要の無い苦しみを受けることは、より大きな苦しみであるに違いありません。しかし、イエス様は、私たちが罪から救うために、あえてその苦しみを味わう道を選ばれたのです。

○十字架上での叫び

そして、イエス様は十字架で苦しみのピークを迎えられます。その苦しみの大きさはイエス様が死の直前に十字架上で叫ばれた言葉に表されています。「わが神、わが神。なぜ私をお見捨てになったのですか」(マタイ 27:46)。イエス様のこの言葉は、長い間、私にとって謎でした。神であるイエス様がなぜこんな弱音を吐いたのだろうか。神様がイエス様を見捨てたりするはずがないのに。君たちはどう思いますか？

イエス様は十字架上で、本当に神様に見捨てられたのです。それが、イエス様が受けた最大の苦しみです。イエス様は無実の罪で十字架につけられましたが、無実の罪で死刑にされた人というのはイエス様以外にもたくさんいるにちがいありません。また、十字架というのは大変苦しい死刑の方法なのだそうですが、十字架にかけられたのもイエス様だけではありません。

○神様に見捨てられる

ヨハネ 10:28 を見てみましょう。神様に選ばれた「イエス様の羊」である私たちは、決して「滅びることが無い」のです。つまり、どんな罪人であっても、一度救われた者は、滅びることも、神様から見捨てられることもないと、聖書に約束されているのです。どんなにこの世で大きな苦しみに会おうとも、神様が共にいてくださって最後に天国に招いてくださるなら、天国での永遠の命が

与えられるのです。反対に、この世でどんなに多くの財産を持ち、おもしろおかしく暮らすことができて、それを死後の世界にもっていくことはできません。最後に神様に見捨てられて地獄で永遠の炎に焼かれることほどおそろしいことはないのです。

イエス様はご自分には何一つ罪は無いのに、この時、十字架の上で神様に見捨てられる苦しみと絶望を味わわれたのです。それがどんなに恐ろしいことか、私には想像がつかないくらいです。何一つ良いことのできない私でさえ、神様はけして見捨てないと約束されたのに、イエス様は神様に見捨てられたのです。

○なぜ？ だれのせい？

イエス様は「なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれました。なぜ？それは他でもない、私の(あなたの)せいなのです。神様に見捨てられなければならないのは、本来、罪人である私の(あなたの)はずでした。それは、もともと私が(あなたが)味わわなければならない恐怖と絶望でした。それを、私に(あなたに)代わってイエス様が味わってくださったのです。

イザヤ 43:4 を見てみましょう。神様は、私のことを「価高く、貴い」と言ってくださいます。その私のために「身代わりの人」を与えてくださると約束してください。この約束によって、イエス様は、確かに十字架にかかって、神様に見捨てられるという大きな苦しみを受けられました。それは、私の身代わりになって私の受けるべき恐怖と絶望を確かに受けてくださったということです。この恐怖と絶望の十字架によってこそ、私の救いは確かなものとされるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、イエス様が十字架の上で神様に見捨てられるという大きな苦しみを味わわれたことを学びました。それは、罪の中にある私の受けるべきものでしたが、イエス様は私の代わりに受けてくださいました。イエス様の大きな苦しみが、この私の救いのためであることを信じていることができるようにしてください。

テキスト

使徒言行録1章6～11節

復活したイエスによって再び使徒たちが集められて「聖霊」による「力を受け」て「わたしの証人となる」ことが教えられます。そしてそのただ中でイエスは天にあげられ、天使たちによって再臨が予告されます。

(1) 「私の証人となる」

復活したイエスの顕現と「神の国」(3節)についての教えが使徒たちを再び集めます。同時にこの「神の国について話された」ことと「約束されたものを持ちなさい・・・まもなく・・・授けられる」という指示が使徒たちに「イスラエルのために国を建て直してくださるのは、このときですか」という待望を持たせたようです。

イエスの答えはこの問いかけのすべてを否定されたものではありません。「お定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。」しかし「建て直し」は確かに始まり、あなたがたが「力を受け」て「わたしの証人となる」ことによっておこなわれます。それも「イスラエルのために」というものではなく「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また、地の果てに至るまで」の全世界的な領域でおこなわれます。

このみ国の「建て直し」は神の主権と力でおこなわれます。その「時や時期」はわたしたちの「知るところではない」にしても、それは「父がご自分の権威をもってお定めになっ」ています。その領域も「エルサレムばかりでなく」「地の果てに至るまで」の領域が主張されます。「建て直し」は「証人」(証し)という形でおこなわれますが、その証しも「わたし(イエスの)証人」であるとされます。そしてその証人となるのも「聖霊が降り」「力を受け」てであるとされます。まさ

に神の主権と力によってこそ、神の国が建て直されるのです。

(2) イエスの昇天

「イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」今までイエスの復活の顕現は、その場に突然現れたり見えなくなったりしました。ですからこのようなイエスの可視的な昇天には当然意味があり、「話し終わ」ってから昇天されたことを考えると昇天はその話と関連しているのでしょうか。すなわち神の主権と力によっておこなわれる神の国の「建て直し」はイエスの「昇天」によって開始されることを示したいのです。昇天によってイエスには「地の果て」のみならず、私たちの手の届かない「天」をも、すなわちすべての被造世界がイエスの下に置かれます。まさに「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」(マタイ28章18節)ことが昇天によって示されています。(エフェソ1章21～22節参照)

(3) イエスの再臨

「白い服を着た二人の人」は復活のときに現れた天使を指すのでしよう。(ヨハネ20章12節)昇天に加えて「天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」再臨が教えられます。昇天によってすべてを超越し、すべてを手中に収められます。そしてそのイエスの昇天によって、主権と力の現れである神の国の建て直しが始まるとするならば、「同じ有様で、またおいでになる」のは、その神の国の完成を指しているのでしよう。

カテキズム

子どもカテキズム 問24

ウェストミンスター小教理問答 問28

子どもカテキズム

問24 主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

ハイデルベルク信仰問答

問45 キリストの「よみがえり」は、私たちにとってどのような益をもたらしますか。

答 第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうして、御自身の死によって私たちのために獲得された義に私たちをあずからせてくださる、ということ。
第二に、その御力によって私たちが今や新しい命に生き返らされている、ということ。
第三に、私たちにとって、キリストのよみがえりは私たちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である、ということです。

〈高く挙げられたキリスト〉

主イエス・キリストは、へりくだって十字架の死を耐え忍ばれ、葬られて、三日ののち、復活されました。そして、40日間、弟子たちをお教えたのち、天に上げられ、栄光をお受けになりました。キリストは、今もお御父の右に座して、この世界を統べ治めておられます。十字架の低さから、天の栄光へ。下から上への方向性です。これが高擧です。

この高擧の中心が、キリストの復活です。キリストは、罪人の罪を担って死んでくださいましたが、決して死で終わりませんでした。キリストは死と滅びに打ち勝たれました。御父もキリストを死と滅びの世界から高く引き上げて、神の栄光をお与えになりました。キリストは十字架のキリストですが、それは罪と死に打ち勝った復活のキリスト、勝利のキリストです。

〈讃美され、礼拝されるべきお方〉

この高く挙げられたキリストが、真理の御霊、慰め主、弁護者として、御自身の霊を私たちにお送りくださいました。私たちの内に聖霊が住んでくださって、私たちはキリストの体とされ、キリストに喜びと慰めを見出す者とされました。それ故に、私たちは、高擧のキリストを仰いで、三位

一体の神を讃美し、礼拝します。「こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです」(フィリピ2:10)。

〈初穂としてのキリストの復活〉

キリストの復活は、単なる肉の体の生き返りではありません。栄光の体へのよみがえりです。朽ちる体から、朽ちることのない霊的な体へと新たにされたのです。このことはとても大切です。

また、キリストの復活は、私たちの初穂としての復活です。キリストの恵みがキリストを信じる者すべてに与えられます。ですから、キリストと共に十字架に死んだ者は、キリストと共に復活させられます。いや、すでに私たちは神の子とされ、復活の命に生かされています。肉体においては、私たちの体はなお朽ちる体です。しかし、霊において私たちはすでに罪と死から解き放たれ、復活の命に生かされ、勝利しています。私たちの肉体の死の時には、罪と完全に死別し、永遠の命へと、朽ちない体へと変えられることが約束されています。その約束を確信して、私たちは、すでにこの地上において、新しい霊的な命に生かされ、神の御心に従う者として喜びの内に歩むのです。

使徒言行録1章6～11節

子どもカテキズム 問24

「よみがえられ、昇天した主」

〔単元のねらい〕

十字架の主は、よみがえられた。よみがえらされた主イエスは昇天された。そして、かつてのように今もなお、天において全力を注いで私共の救いとその完成のために働いておられる。説教の課題は十字架・復活の主イエス・キリストが、今、どこにおられるのかを明確にすることである。つまり、説教はイエス・キリストの物語ではない。(もちろん、福音書は、昔のイエスの物語を語る。しかし、それは、単なる昔話ではない。現代の読者であり礼拝説教聴聞者である我々に、今、聖霊においてなされているイエス・キリストの訪問の御業を説き明かすためである。) 説教者は、自分になされている救いの御業を聖書から読み取ることが許され、求められている。ここでも、説教する者自身を慰める、イエス・キリストの救いのお働きを、喜びと感謝を持って子どもらの前に立ち、証しよう。

イエスさまのお誕生、それがクリスマスでしたね。今から2001年前に神の独り子のイエスさまはマリアさんからお生まれになりました。そして、数々の御働きによってイエスさまが神の子であり、救い主であられることを示してくださいました。神さまの教えをお話くださいました。そして、最後にもっとも大切なお働きの十字架についてくださいました。さて、そのあとイエスさまは、どうなさったのですか。天のお父さまは、イエスさまをお墓の中からよみがえらせて下さいました。天のお父さまは、イエスさまの十字架の御業は僕たち私たちを救うことができるということを、イエスさまをよみがえらせることによって、示してくださいました。

それなら、よみがえりになったイエスさまは、その後、どうなさったのでしょうか。イエスさまは、40日間、復活のお姿を多くのお弟子さんたちにお見せになられました。そして、昔のように、神さまのお話を一生懸命してくださいました。でも、不思議なことがあります。イエスさまは、以前のように、お姿をいつもお弟子さんたちに現してはくさいませんでした。ある時には、イエスさまのお姿が見えます。するとまたある時には見えなくなっていました。いったいどうして、そんな事をなさったのでしょうか。皆だったら、いつも、お姿を現してくださる方が良いと思いませんか。でも、理由があります。イエスさまには

お考えがありました。とても大切なことを、今のうちに教えたかったのです。それは、イエスさまはいつまでも地上にはいるわけではないからです。40日の後には、天のお父さまの所に戻って、僕たち私たちのために、新しいお働きをしなければならぬのです。そうすると、もうイエスさまのお姿はこの目では見えなくなってしまいます。見えなくなってしまうたら、また、お弟子さんたちはがっかりして弱ってしまうのでしょうか。それが、イエスさまの深い思いやりなのです。イエスさまは、40日の間、お姿を現したり、わざと隠したりされました。それは、イエスさまのお姿が目に見えなくなった時の練習なのです。そうしているうちに、お弟子さんたちは、だんだん分かってきたはずですよ。「そうだ、イエスさまのお姿が見えなくても、イエスさまは遠くに行ってしまうのではない。僕たち私たちのお話を聞いておられる。僕たち私たちの間に、いつだって一緒に確かにいてくださる。だから、大丈夫。だから、イエスさまがいてくださることを忘れてはダメだ。たとえイエスさまのお姿が見えなくなっても、イエスさまが悲しむような事はしないようにするんだ……。」

そして、遂に、40日目になりました。イエスさまは、お弟子さんたちに最後の説教をしました。「あなたがのところにもう間もなく、聖霊なる神さまが来られます。あなた方は聖霊を受けます。」

すると、見ているに、イエスさまは神さまの栄光に包まれて天に昇って行かれました。そうなりますと、イエスさまは今、どこにおられるのですか。そうです。天のお父さまの右に座しておられます。それなら、イエスさまは天において何をなさっているのでしょうか。もう、地上のお働きをなし終わったのですから、もうゆっくり休んでおられるのでしょうか。

いいえ違います。イエスさまは今、全力を注いで働いておられます。休んでおられません。それなら、どんなお働きをしておられるのでしょうか。イエスさまはいつでも僕たち私たちの事をお考えくださいます。だからいつでも、イエスさまは僕たち私たちのために働かれるのです。つまり、それは僕たち私たちの救いのためです。

皆は、どうやって教会に来ましたか。お友達に誘われたのでしょうか。お父さん、お母さんがキリスト者で生まれる前から教会に来ていたお友達もいるでしょう。ひとりひとりのことをイエスさまが一生懸命、父なる神さまにお祈りしてくださいました。天のお父さまは喜んで、聖霊なる神さまを僕たち私たちに与えてくださいました。だから、今日も、この教会にいるのです。もしも、イエスさまが天で、そのようなお働きをしておられなかったら、今、僕たち私たちはここで礼拝を捧げることなどできないのです。それより何より、教

会は今、ここにはないはず。イエスさまが、力を注いで僕たち私たちのために、救うために、祝福するために、信仰を養うために、働いておられるのです。イエスさまは天のお父さまの右の座につかれて、あれから今日の今日まで、働いて下さっておられるのです。もしも、このイエスさまが働きを止められたら、世界は崩れ、生命は減ってしまいます。もしも、イエスさまが天に戻られなければ、日本にいる僕たち私たちは、イエスさまにお話ができなくなります。イスラエルに行かなければだめです。イエスさまが天にのぼられたことは、僕たち私たちにとって、寂しくなるから、悲しいことではなく、むしろ正反対です。天におられるから、イエスさまはいつも一緒にいてくださることがおできになるのです。

この目では見れません。この耳では聞こえません。けれども、信じる僕たち私たちには、イエスさまはちゃんと一緒にいてくださいます。天で僕たち私たちを見ていて下さいます。助けて下さいます。お祈りを聞いてくださいます。それなら、僕たち私たちは、信仰の目を覚ましていたいのです。日曜日だけ神さまのことを思うというのではおかしいのです。イエスさまは毎日、あなたのことを思っておられ、お祈りしてごらんと呼んでおられます。

今週の暗唱聖句

こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。

使徒言行録 1章 9節

〈目標〉

十字架にかかり、死んで3日目によみがえって下されたイエス様が、今、何をしておられるのかを知る。

〈展開例〉

みんな、イエス様って聞いて思い出すことありますか？

(今までの視覚教材などを使ってヒントをだす)

今日は、よみがえられたイエス様のお話でした。よみがえられたイエス様はお弟子さん達の前で天に上げられて行きました。そして、どうとう雲に包まれて見えなくなりました。イエス様は天のお父様のところに行かれたのです。

そこで何をしたらいいのでしょうか？
イエス様は、〇〇ちゃんのために、〇〇君のため

にお祈りして下さるのです。そして、私達が神様のこと良くわかって、神様を信じて出来るように、助けて下さる聖霊を送って下さっています。

〈お祈り〉

天の父なる神様、今もイエス様が私達のためにお祈りして下さっていることありがとうございます。お弟子さん達の様に、私達もイエス様のことを、お友達に紹介することが出来ますように助けてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈工作〉イエス様はどこに？

用意する物

画用紙、定規、はさみ、カッター、ペンなど
※ 127ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・40日の間、復活のお姿をお弟子さんに現わして、神の国について話されました。
- 本 ・「あなたがたの上に聖霊がくだると、あなたがたは力を受ける。そして、わたしの証人となる」と、お約束してくださった後、イエスさまは、弟子たちが見ているうちに、天に昇って行かれました。
- 結 ・「天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」(使徒言行録1:11)
- ・今もなお、イエスさまは天において、僕達、私達の救いのために、お働きを続けておられます。そして、もう一度、栄光のお姿でおいでになることを約束してくださいました。

伝言板

イエスさまは、40日間、復活のお姿を、多くのお弟子さんにお見せになりました。でも不思議なことがありました。ある時には見えなくなったり、突然お姿を現したり……。

それは、イエスさまが天にお戻りになったときの練習でした。イエスさまのお姿が見えない時でも、いつも共にいることを弟子たちに知らせるためでした。

皆で礼拝している時だけではなく、寝ている間も、学校にいる時も、家にいる時も、イエスさまの愛の眼差しは、いつもあなたに、注がれています。それは、嬉しいことですか？ それとも、窮屈なことですか？ 授業参観に、お父さんや、お母さんが来てくれて、後ろから見てくれるのはうれしいよね。(用があつて来れない時には、何だかさみしい気がしたっけ)

どんな時でも見守っていて下さるイエスさまを喜ぶことができますように。

〈やってみよう〉

-昇っていくイエスさま-

材料 画用紙、色ペン、タコ糸、ストロー、セロハンテープ

作り方

- ・画用紙に、イエスさま(10センチメートルくらい)を描いて、切り抜く。
- ・ストローを3センチくらいの長さで2本切る。絵の描いていない裏側に、この2本のストローをハの字にセロハンテープでとめる。
- ・タコ糸を2メートル位の長さに切って、ストローにタコ糸をとおす。
- ・タコ糸をフックなどに引っかけて、タコ糸を交互に引っ張ると、ひとりでのぼっていきます。



〈目的〉

主は甦られたあと昇天なさり、再び栄光の座に着かれたことを覚えさせる。

〈指導上の心得〉

主は再び栄光の座に着かれ、今も栄光の状態、私たちのためにお働きくださっている確信を持って語る。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主が死なれ葬られた後、どのようなになったのかを話し合う。(三日目に甦られたことの確認)
- ・主が甦られたことは何を意味するか。
- ・主が甦られ、40日間この世におられた後、どうなったか。(天に昇られて最初に持っておられた栄光の座に着かれたことを確認)
- ・この主は今も生きて私たちのために働いて下さっていることを確認する。

〈ワーク〉

1. イエス様は死んで三日目にどうなりましたか
 - a) 消えて無くなった。
 - b) 何も起こらなかった。
 - c) 甦られてお弟子たちに現れた。
2. イエス様が甦られて40日後、何が起こったでしょうか？ 考えて書いてみよう。
3. イエス様は天に昇られ、神様の右の座に着いたあと、どうしておられるのでしょうか？
 - a) 何もしておられない！
 - b) 私たちのために全力で働いておられる
4. 使徒言行録 1:9 を書いて覚えましょう。

答え 1. c 2. 使徒 1:9,10 を参照 3. b

〈目標〉

まことの神のもとで憩う安心を体験したい。

〈指導上の心得〉

下記(1)について、偽りの声に聞き従ったらどんな悲惨な結果が待っているか、質問ごとに説明するとよい。

〈展開例〉

- (1)クイズ「羊飼いの声を聞き分けよう」:(羊の絵に割りばしをつけたものを人数分用意する)
みなさんは羊です。みなさんが大好きな羊飼いです。イエスさまの声だと思ったら、羊カードをあげて「メー、メー」と言ってください。イエスさまの声でないと思ったら、何も言わないでください。Q1.「わたしは世の終わりまで、あなたがたと共にいる」。Q2.「最も大切なおきては、まず自分自身を愛しなさいである」。Q3.「わたしの言葉をそのとおりに行えない人は天国へいきません」。Q4.「わたしを信じる者は罪

ゆるされる」。Q5.「闇の中を歩きなさい」。Q6.「わたしは神ではない」。

- (2)空缶積みゲーム:カンジュースの空缶を10缶用意する。それぞれの缶の側面を、色折り紙で巻く。巻いた折り紙の上から、問24の「私たちは」「罪」「ゆるされて」「神と」「共に」「共に」「永遠に」「生きる」「祝福に」「生かされて」「います」をそれぞれ缶に記す。また余白に好きな絵を書く。これらの缶を順番どおりに、10個積み上げることができるか、チャレンジしてみる。ゲームし終わったら、母子室のおもちゃに提供しよう。

- (3)カテキズム問24 暗唱

〈祈り〉

天におられ、今も生きて私たちのために働いておられる、私たちの羊飼い、主イエスさま。あなたの声に聴きしたがって、これからも光の中を歩んでいくことができますように。

〈目標〉

私たちの罪のために死んでくださったイエス様がよみがえられ、天に昇られたことによって、私たちも同じように天の国での永遠の命に招かれていることを学ぶ。

〈展開例〉

イエス様は私たちの身代わりになって、十字架の上で神様に見捨てられるという絶望的な苦しみを受け、もともとは私が受けるはずだった罪の罰としての死をお受けになりました。イエス様は本当に死んでしまったのです。

○三日目のよみがえり

しかし、イエス様は「死にっぱなし」だったわけではありません。聖書には、イエス様は三日目の朝によみがえられた、と書いてあります。死んだ人がよみがえったなんて、なかなか信じられないことです。イエス様のお弟子さんたちも、よみがえられたことをすぐには信じられませんでした。イエス様は、そんな弟子たちに、確かにご自分が身体を持ってよみがえられたことを示されたのです（ヨハネ 20:19-29）。

イエス様がよみがえられたことは、とても大きな奇跡です。そして、私たちにとって大変大切なことです。イエス様は私たちの罪の罰として絶望的な死をお迎えになったのですが、そこから永遠の死には向かわず、よみがえられたのは、イエス様が神様の命令を完全に守ったのだということが認められ、神様に受け入れられたということです。イエス様は神様に受け入れられて、いつまでも神様と一緒にいることができる「永遠の命」へとよみがえられたのです。そのイエス様が私たちの身代わりになられたのです。ですから、私たちも神様に「罪のないもの」と見ていただいて、永遠の命へとよみがえることができるという約束が、ここにあります。

○天に昇られる

よみがえられたイエス様は、そのまま以前と同じように弟子たちと神様の御言葉を伝える働きを続けられたわけではありません。イエス様は、弟子たちのもとを離れ、天に昇っていかれたと聖書

には書かれています（マルコ 16:19-20）。イエス様が天に帰られたのは、イエス様の地上ですべきお仕事をすべて成し遂げてくださったからです。イエス様が地上に来られたのは、これまでに何度もお話ししたことです。私たちの身代わりとなって私たちの受けるはずだった罰を負い、私たちを永遠の命へと導いてくださるためです。このお働きを完全に果たされて、主イエスは天に昇られました。

イエス様は、「私の仕事は終わったから天に帰ってのんびりするよ。後は君たちしっかりね」と、私たちを放って天に昇られたのではありません。イエス様が天に昇られたのは、天において私たちのためにして下さるお働きがあるからです。ヨハネ 14:2-3 を見てみましょう。イエス様が天に昇られたことによって、私たちも同じように天の神様の御国へと行くことができるという約束のしるしがここにはあります（エフェソ 2:4-6）。そして、もう一つ、ローマ 8:34 を見てみましょう。イエス様は、天で神様の右の席について、私たちのために「とりなし」てくださっているのです。イエス様を信じて罪を赦していただいても、この地上にある限り私たちは罪と無関係でいることはできません。人のことをうらやんで憎く思ったり、神様のことより自分のことの方がずっと大切だったりします。そんな時、イエス様がこう言ってくださるのです。「私が、あの者の身代わりになって十字架にかかりました。どうか、私の十字架の故に、あの者の罪を赦してやってください」と執り成してくださるのです。今も、イエス様は、天において、私たちのために、執り成し続けてくださっています。

〈祈り〉

天の父なる神様。イエス様がよみがえられ天に昇られたことによって、イエス様に身代わりになっていただいた私たちも同じように天の神様のところで永遠の命をいただけるということを学びました。どうか、私たちが、イエス様の十字架と復活を思うことで、永遠の命へのたしかかな希望を持つ事ができますように。

テキスト

マタイによる福音書7章24～29節

「砂地」と「岩」を土台とするたとえ話が語られます。これは「わたしのこれらの言葉を聞いて行う者」のたとえです。このたとえ話は先に5章から始まる山上の垂訓の最後のお話で、28～29節でこの一連のイエスの教えに対する群衆の驚きを記してまとめています。

(1) 土台の譬え話

「狭い門から入りなさい。」そのために一つには15節「偽預言者に警戒しなさい。」と教えられ、他方積極的に砂地と岩を土台として家を建てる人のたとえ話をして「わたしのこれらの言葉を聞いて行う者」とはどのような者なのかを説明されます。そして「岩の上に自分の家を建てた」人を「賢い」と表現されてその賢さを勧めています。

「偽預言者」が「羊の皮を身にまとって」（15節）おり、またイエスから「不法を働く者ども」と呼ばれる人たちが『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うように、表面上は立派な姿を見せているように、「砂の上に家を建てた愚かな人」も表面上は「賢い人」と何も変わらないことに注意が必要です。「賢い人」も「愚かな人」もどちらも「家」はちゃんと建っています。また土台も「岩の上」と「砂の上」の違いはあっても、据えられているのです。二人の人に襲ってくる災いも同じです。（25と27節「雨が降り、川があふれ、風が吹いて、その家に襲いかかると」）違うのはその土台が揺るぎない「岩」という土台なのか、それとも「砂地」なのかという点と、その襲いかかった後の有様です。特に「砂の上」の家のほうは「その倒れ方がひどかった。」

「これらの言葉を聞いて行う者」「これらの言葉を聞くだけで行わない者」と言われると、その

土台とは実践の有無のように理解しがちですが、実践なら「不法を働く者ども」（23節）も22節で言うように実績があります。それに「砂の上に家を建てた者」は決して怠慢な者ではなく、「賢い人」と同様にちゃんと「家」は建てています。ですからここで問われているのは実践の有無ではありません。ルカと同じ箇所（ルカ6章46～49節）では一方を「地面を深く掘り下げ」て「岩の上に土台を置いて」と表現し、他方を「土台なしに地面に家を」と表現しています。ですからこのたとえ話の真意は、真実に揺るぎない「岩」という土台が見いだせるまで地面を深く掘り下げているのか？そしてその「岩」を見いだしたら、そこにこそ土台を据え、その土台に家を建てるという業を結びつけているかどうか？ということなのです。「聞いて行う」と「聞くだけで行わない」とは、イエスという「岩」に自分の業をしっかりと結びつける努力をしているのか、そうでないのかという比較です。自分の業とその成果はどちらも表面上は同じようにできているのです。

コリント一3章10～15節参照。

(2) 権威あるイエス言葉

これらの一連のイエスの教えを聞いた群衆は「非常に驚いた」と記されています。それは「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」律法学者は律法の教えを説く者たちです。確かに律法には権威があります。神の御言葉だからです。その説き明かしにもその御旨に忠実である限りで権威があります。しかし、イエスは教える人物そのものが「権威ある者」としてお教えになったのです。律法と並びうる者、いいえ、イエスは「言葉は神と共にあった。言葉は神であった。」とヨハネが紹介するように神の言葉そのものなのです。

カテキズム

子どもカテキズム 問25

ウェストミンスター小教理問答 問24

子どもカテキズム

問25 イエスさまの預言者としてのお働きは何ですか。

答 神さまの御言葉を教えてくださることです。イエスさまは、今も、教会を通して、聖書と聖霊なる神さまによって私たちに語りかけてくださいます。ですから、私たちは心をこめて御言葉を聴きます。

ウェストミンスター小教理問答

問24 キリストは、預言者の職務を、どのように果たされますか。

答 キリストは、私たちの救いのために、神の御旨を、その御言葉と御霊をもって、明らかにしてくださることにより、預言者の職務を果たされます。

〈三職論の意義〉

キリストの職務は油注がれた者の職務です(11月4日カテキズム研究)。ですから、預言者と祭司と王の職務から考えることができます。しかし、主イエス・キリストは神と人との仲保者であり、私たちの全存在の救い主であり、ですから、キリストの御業は預言者と祭司と王の三つの職務に要約されて、それで完結するものではありません。三つの職務から考えるのは、旧約の伝統を踏まえるため、また私たちの理解を助けるためです。

〈預言者の職務〉

預言者とは、イスラエルの民の中から立てられて、神の御言葉を取り次ぐ神のしもべです。神の御言葉を取り次ぐのですから、まず第一に神に聴く人です。そして、神の御言葉を預かって民に向かって語ります。ですから、「予言者」ではなく「預言者」です。預言者には、主なる神に忠実であることが求められます。

〈真の預言者なるキリスト〉

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」(ヘブライ 1:1-2)。旧約のイスラエルにおいて、モーセやサムエル、エリヤなど多くの預言者が立てられました。しかし、神は、御自身の御子を遣わして、御子によってお語りになりました。また、「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」(ヨハネ 1:1)

とあります。この「言」とは、肉をとって人となられる以前の、先在のキリストです。「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(ヨハネ 1:18)。ですから、この言なるキリストが神と神の御心を啓示します。主イエス・キリストは、神の言葉そのものであるお方です。ですから、キリストの預言者職は独特無比です。すなわち、神の代理者としての預言者ではなく、神御自身であるお方がへりくだって神と人との仲保し、神と神の御心をお示しくださるのです。これがキリストの預言者職であり、真の預言者なのです。

〈今も語っておられるキリスト〉

キリストは、地上において神の御心をお示しになりました。とりわけ、御自身の人格と御業を明らかにされました。十字架と復活の御業です。そして、キリストは高く挙げられて、御自身の霊である聖霊を弟子たちに送り、教会を建て上げました。キリストは、聖霊によって使徒たちと教会に新約の言葉を書き記させ、旧約と一つにして、聖書正典を結集させました。書き記された神の言葉である聖書もキリストの御業です。そして、今、私たちは、御霊の働きによって、この聖書から生ける神の御言葉を聴きます。御言葉と御霊によって、生けるキリストと出会い、信仰が与えられます。キリストは、今もなお、教会の礼拝の説教を通して、私たちに語りかけておられます。キリストが説教者を用いて語っておられるのです。

マタイによる福音書7章24～29節

子どもカテキズム 問25

「語りかけてくださる主」

〔単元のねらい〕

生ける神は、黙してはおられない。神は、今日もご自身の御言葉をご自身の民に語りかけておられる。神は教会に、ご自身の記された御言葉である聖書を与え、救いに必要な十全な知識を記された。神の啓示はそこで完結した。しかし、それは黙すためではない。神は、聖書を通して語り続けておられる。教会は、聖霊の支配のもとで、この語られる神のお働きによって創設され、神の「語り」を継承している。それが説教（証）である。ここでは、預言者イエスのお働きを、説教によって説くことになる。子どもの礼拝式においてこそ中心は説教である（なぜなら、聖礼典の執行はないから）。であれば、子どもの説教も、あくまでも御言葉の説き明かしであらねばならない。子どもに先立って、良く聴き取るキリスト者（教師）でありたい。聴きとった喜び、伝えたい衝動をもって立ちたい。子どもたちに主イエスの物語、主イエスの言葉（福音）を聴く喜びを分かちたい。

イエスさまは、神さまの言葉を人々に教えてくださいました。大勢の人々が、イエスさまの回りに集まって来ました。イエスさまが活躍された2000年前のユダヤでは、神さまの言葉、聖書を教える先生達も大勢おりました。多くの人達は、イエスさまのことを、初めはそのような偉い聖書の先生のお一人だと考えていました。でも、普通の先生たちは、会堂の中で聖書のお話をしましたが、イエスさまは会堂だけではなく、おもてに出て、神さまの御言葉をお話くださいました。

ある日のことです。大勢の人々がイエスさまについて来ました。それをご覧になると、イエスさまは山に登られました。お弟子さんたちは、イエスさまの側に集まりました。イエスさまはお座りになられて、お話を始められたのです。「空の鳥をみてごらん。あなたがたのように種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めることもしないのに、あなたがたの天のお父は鳥を養って下さるでしょう。あなたがたの天のお父さまは、あなたがたを鳥よりも大切にしてください。愛しておられます。野の花を見てご覧下さい。綺麗でしょう。こんな野の花でも、あなたがたの天のお父さまは綺麗にしてくださいます。だったら、あなたがたの神さまは、あなたのことをもっとも大切にしてくださいます。だから安心して、生きて行きなさい。大丈夫です。明日のことは、神さまが

お守り下さいます。」イエスさまは毎日毎日、お弟子さんたちに、人々に、神さまの言葉を、聖書の言葉を語り続けられました。聞いていた人々は、とても驚きました。ユダヤの人なら誰だって、立派な聖書の先生のお話を聞いていました。ところが、イエスさまはそのような先生の教え方、話し方とは全く違っていたからです。

先生は、教会の牧師です。牧師さんというのは、聖書のお話をする人です。今しているように、皆に喜んで、聖書のお話、それを説教と言うのですが、説教をします。神さまの御言葉を教会の中で、ある時には、教会の外でお話します。でも、それは、イエスさまが神さまの御言葉をお話される様子とは、全然違います。先生は、一生懸命、「イスさまはこれこれこのようなお方です。イエスさまはこんなに素晴らしい神さまです」と紹介します。でも、イエスさまは、ご自分が神さまなのです。だから、神さまの権威をもって、語られるのです。だから、今まで、何度も聖書のお話を聞いていた大勢の人々がびっくりしたのです。「イエスさまのお話はどの先生のお話より自信に満ちあふれている。」

聖書には、旧約聖書と新約聖書があるのでしたね。旧約聖書には、イエスさまが地上に来られる前の事が書かれてあるのです。天のお父さま

は、その時代には、預言者という人をお立てになって、神さまの御言葉を語らせました。人々は、預言者を通して神さまの御心、お考えを知らされました。でも、天のお父さまは、今の時代には、イエスさまを通して語られました。聖書の中に、イエスさまは「生命のことば」「ことばであられる神さま」というような表現があります。イエスさまは、ことばを語りかけてくださるのですが、イエスさまご自身が神さまのことばなのです。とても不思議な言い方ですが。

そのイエスさまが語られた御言葉は聖書、特に福音書に記されています。だから、僕たち私たちは、礼拝で特に福音書を読んでいます。でも、聖書の中には、手紙もあります。これは、イエスさまのお弟子さんたちが書いたのです。でも、お弟子さんたちは勝手に書いたではありません。イエスさまの霊、聖霊に導いていただいて書いたのです。イエスさまは、天に昇られた後も、お弟子さんを通して語られました。そのことばが聖書なのです。

それなら、今も、イエスさまはお弟子さんに聖書を書かせられるのでしょうか。違います。今は、イエスさまは皆の手に持っている聖書に記されたイエスさまの御言葉を通して、毎日毎日、僕たち私たちに話しかけておられます。先生も毎日毎日その御声を聴きます。それは、聖書を読むっていう事です。聖書を読むと、神さまが生きておられ

ることが分かります。それは、聖書の中からイエスさまの御声が心に響いて来るからです。

ここ〇〇に僕たち私たちの〇〇教会があります。この教会は、イエスさまがここに住んでいる大勢の人々に、語ろう、神さまの御心を伝えようと、イエスさまがお考えになられて、始まりました。だから、教会が一番大切にしているのは、何かが分かります。それは、今、皆と捧げている礼拝式です。なぜなら、礼拝式では、必ず聖書が読まれます。そして必ず、聖書のお話、説教を致します。それは、イエスさまが僕たち私たちを心から愛して下さいるので、その愛を伝えようとなさっておられるからです。今、先生のお話を皆で聴いています。聴くこと、これがイエスさまへの、神さまへの礼拝そのものです。心を込めて、イエスさまはこの教会を通して、聖書と聖霊の神さまのお働きによって、僕たち私たち一人ひとりに、語りかけてくださっておられます。だから僕たち私たちも心を込めて、聴きましょう。聖書を持っているお友達は、暗証聖句の箇所や、聖書朗読の箇所に赤線を引っ張ってください。そして、今日から始まる一週間の中で読みなおして下さい。

そして、説教の後で必ず、お祈りするでしょう、それは、神さまへの私たちからのお返事です。返事を忘れないようにしましょう。お祈りすることです。今週も、お祈りしましょう。

今週の暗唱聖句

この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。

ヘブライ人への手紙1章2節a

〈目標〉

神様は今も、教会で聖書の言葉を通して（先生の聖書のお話しを通して）一人一人に語りかけて下さることを知る。

〈展開例〉

今日は、イエス様がまだ天に昇られる前、十字架にかかれる前のお話しでした。イエス様は皆によくわかるように、たとえ話をたくさんして下さいました。今日はどんなお話しでしたか？

そうだね、岩の上に家を建てた人と、砂の上に家を建てた人のお話しでした。岩の上の家は、雨がたくさん降って川からお水があふれ、風が吹いてその人のお家を襲っても、倒れませんでした。岩の上に家を建てた人はどんな人のことだったかな？ 神様の言葉を良く聞く人のことでした。

今は皆、イエス様のお話しどこで聞くことができますか？ 一番良く聞くのは教会だよ。先生がお話しして下さいます。

イエス様のお話しは何に書いてあるでしょう？

これは何でしょう？

（実際に聖書を見せる）

聖書です。私達のことを大切に思っていて下さる神様は私達に聖書を下さったのです。そして、今もこの聖書の中の言葉、お話しを通して話しかけて下さっています。皆はまだ聞いたことの無いお話しも、たくさんたくさんあるから、これからも一生懸命、聖書のお話しを聞いて神様のお声をしっかり聞こうね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、教会でお話しして下さいる神様の言葉を、良く聴くことが出来るようにして下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉 聖書はどこに？

用意する物

画用紙、定規、カッター、ペンなど

※ 128 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・ イエスさまは、会堂の中だけではなく、野原や丘、湖のほとりで人々に、神さまの御言葉をお話してくださいました。
- 本 ・ 御言葉を聞いても、心に留めようとしない、悔い改めない人々にならないように、と教えられました。
- 結 ・ イエスさまは、聖書に記された御言葉を通して、毎日毎日、私たちに話しかけておられるのです。

* 「地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて」(ルカ 6:48) 家を建てなさいと譬えを用いて語られました。心の奥深くに、御言葉を留めて、その御言葉を土台として、御言葉を行う子どもになれますように。

伝言板

わたしたちは、一日3回、食事をします。昔の人も、イエスさまも、一日3回、食事をしたでしょう。人間の体は日に3度食事をするように造られているからです。朝一日分の量をまとめて食べても、やっぱり12時頃には、不思議ですがお腹がすいてきます。食事はただ食べるだけではなく、いっしょに食事をする人とのコミュニケーションを楽しむ時間でもあります。ですから、イエスさまは、好んで、人々と一緒に食事をしました。

イエスさまは「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と言いました。毎日食事をするので、私たちは元気で健康にしています。しかし、食物だけで生きるのではなく、神の口から出る言葉は、私たちの心にとって、とても大切な栄養です。永遠の命のための食物です。主の日の礼拝の御言葉をしっかりと聞いて、心に蓄えてくださいネ。

〈やってみよう〉

- ゲーム「イエスさまが言いました」 -
- ・ 例えば、先生が「右の手をあげてください」と言ったら、みんなはそのとおりにします。ただし、「イエスさまが言いました」と言ってから指示を出した場合だけ、そのようにしてください。

例/ 「イエスさまが言いました」
「立ってください」
(立ちます)
「座ってください」
(座ってはいけません)
「イエスさまが言いました」
「目を閉じて、座ってください」
(目を閉じて座ります)
「目をあけてください」
(まだ目をあけてはいけません)

..... など
* あまり間を空けずに指示をすると、楽しい。指示を出す人を変えてやってみよう。

〈工作〉

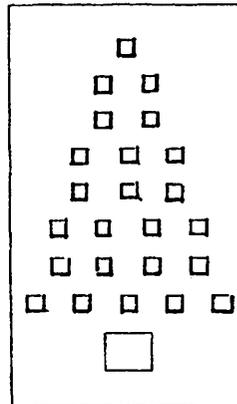
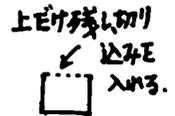
- アドベントカレンダー作り -

* 12/1 ~ 12/25 まで*

材料 赤、緑のハツ切の色画用紙を人数分
色々なシール、カッター-ナイフなど

作り方

- ・ 緑紙に25日分の窓にカッター-
- ナイフで切りこみを入れる。



- ・ 赤紙の上に、緑紙を貼る。(のり付けは周囲のみ)
- ・ 窓の下に、様々なシール(または、★やクリスマスシール)をはります。

〈目的〉

主イエス・キリストが今も私たちに語りかけてくださっていることを覚えさせる。

〈指導上の心得〉

主が今も生きて語りかけてくださる事実を確信を持って語る。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・生徒に預言者って聞いたことがあるかを聞き、聖書の語る預言者が、どのような働きをしたのかを教える。
- ・イエス様も預言者として、神様のお言葉を人々に伝える働きをなさったことを教える。
- ・イエス様は今、天におられるが、私たちに聖書と説教を通して御言を伝えてくださっていることを教える。そして、そのことを通して今もなお生きて働いてくださっている事実を覚える。

〈ワーク〉

1. 預言者の働きはどれでしょう
 - a) 未来のことを予測して人に伝えること
 - b) 神様の御言葉を人々に伝えること
2. 下の文はイエス様の預言者としてのお働きについて書いてあります。あっているものには○を、間違っているものには×を付けましょう。
 - a) イエス様は聖書の時代の人たちに神様のお言葉を伝えました。
 - b) イエス様は私たちから遠く離れておられ、神様の御言葉を伝えていません。
 - c) イエス様は今も生きておられる方で、今も私たちに聖書と説教を通して神様の御言葉を伝えて下さっています。
3. ヘブライ書 1:2 の前半を書いて覚えよう。

答え 1. b 2. aとcが○

〈目標〉

岩を土台とすることの意味を知る。

〈指導上の心得〉

11月4日の工作で、イエスさまをまことの神、救い主と告白する人は、まことの教会となることができると学んだ。今回は、この意味をさらにほりさげたい。

〈展開例〉

(1) 「ワークシート」(3択問題)

Q1. 岩とは何を示していますか。A1.自分の力、A2.イエスさま、A3.悪魔の力。答A2。

Q2. 岩の上に家をたてるとはどういう意味ですか。A1.イエスさまがまことの神、救い主であると信じること、A2.律法を守ること、A3.天使を主と呼ぶこと。答A1。

Q3. 砂の上に家を建てるとはどういう意味ですか。A1.御言葉を聞かないこと、A2.イエスさま

によりたのむこと、A3.神は一人しかいないと信じること。答A1。

Q4. 私たちは、いつになったら聖書の勉強を卒業できますか。A1.中学生まで、A2.大学生まで、A3.大人になっても卒業できない。答A3。

Q5. 岩の上に家をたてることによって、もたらされる祝福は何ですか。A1.御言葉を行う力が与えられる、A2.律法が与えられる、A3.病気をしなくても済む。答A1。

(2) 暗唱カテキズム問25：いつものように分割

カードを用意するが、間違った言葉も5枚くらい入れておき、正しい言葉を選び、順番に並べることができるかどうか挑戦してみる。

〈祈り〉

私たちの救い主、イエス・キリストの父なる御神。今も私たちを、聖書を通して導いてくださいますことを感謝いたします。

〈目標〉

キリストの預言者職についてさらに詳しく学び、神様の御心は常に主イエス・キリストを通じて私たちに示されている事を確認する。

〈展開例〉

少し前に、イエス様の「油注がれた者」キリストとしての三つの働きについてお話ししました。今日は、そのうちの「預言者」としての働きについて、もう少し考えることにしましょう。

○神様の言葉である主イエス

前にもお話ししましたが、「預言者」というのは神様の言葉を預かって人々に伝える働きをする人です。旧約聖書の時代には、モーセやサムエルやイザヤやエリヤなどのたくさんの預言者が、神様の言葉を人々に伝えました。しかし、神の子であるイエス様がこの世に来られた新約聖書の時代には、イエス様ご自身が神様の言葉を私たちに教えてくださいます（ヘブライ 1:1-2）。

イエス様が他の預言者たちと違うところは、単に神様の言葉を預かるということではなく、ご自身が子なる神様であり、ご自分が神様の言葉そのものであるということです（ヨハネ 1:1-18）。「イエス様が神の言葉そのものである」ということは、なんとなく理解しにくいことではあります。どういふことなのか、もう少し考えてみましょう。

そもそも「言葉」というものはどういうものなのでしょうか？ 言葉とはいろいろなものごとを人に確実に伝えるために用いられるものです。絵などによってもいろいろなものごとを人に伝えることはできます。しかし、その場合は、絵を見てどう感じるか、その絵がどんな風に見えるか、というようなところで、人の感覚や感情に訴える面が大きく、人によって受け取り方が違うというようなことがあります。それに対して、言葉は人の知識や知恵の部分に働いて、多くの人に共通した理解を与える事ができるものなのです。

ですから、イエス様が「神様の言葉」であるということは、イエス様を見ると、あるいはイエス様のお話されることを聞くと、神様の事について多くの人に共通した理解を与える事ができるとい

うことです。先ほどのヨハネ 1:18、「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」という言葉は、イエス様こそが神様のことを人々にはつきりとお示しになる方＝「神様の言葉」であるということを示しています。つまり、イエス様は神様の御心をだれにもまさって人々に明らかにしてくださる「最高の預言者」なのです。

○今も語られる主イエス

イエス様が神様のことをだれにでもわかるように示して下さる「最高の預言者」であるとしたら、イエス様が天に昇られてもう地上におられない現代では、私たちは神様の御言葉をだれから聞けば良いのでしょうか。私たちには、神様の御言葉をはつきりと理解する道は閉ざされているのでしょうか。

けしてそんなことはありません。子なる神様、主イエス・キリストが働かれるのは、イエス様が人としてこの地上におられた時だけではありません。ヨハネ 1:1 にあるように、言葉＝主イエスは、この世の初めから神様と共におられ、旧約の預言者たちに神様の言葉を語らせたのも主イエス・キリストの霊である聖霊です（ペトロ 1:11）。そして、天に昇られた後も、主イエス・キリストは、聖霊なる神様の働きによって、神様の御言葉を私たちに語ってくださいます（ヨハネ 14:26）。

その働きは、聖書の時代だけではなく、現代にまで続いています。教会の礼拝の時に牧師先生が聖書のお話しをしてくださいますが、それは牧師先生が自分の考えをお話ししているのではなく、牧師先生に聖霊なる神様が働いて神様の言葉である天におられるイエス様の力によって神様の言葉である聖書を説明してくださるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。イエス様が私たちに神様の御言葉を伝えてくださる「最高の預言者」であること、そして、イエス様は天に昇られた今でも預言者として働いていてくださることを学びました。どうか、イエス様をおぼえて、礼拝のお話を神様の言葉として聞くことができますように。

テキスト

イザヤ書8章23b節～9章6節

旧約からメシヤ誕生に関する神様の約束を語る箇所です。「死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。」というドラマチックな舞台を読者は神様の約束に見ることができます。

この約束の箇所で、9章5～6節はルカ1章32節の天使ガブリエルの告知に引用されます。また、8章23b節～9章1節はマタイ4章15～16節のイエスのガリラヤ伝道開始に実現したと説明されています。

(1) 闇の中を歩む民

「先にセブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けた」とは、列王記下15章29節に記されているアッシリアの王ティグラト・ピレセルによる北ガリラヤ地方の捕囚を指しています。(前737～8年)このときからガリラヤ地方はイスラエルの住む場所ではなく異邦人が住むところとなりました。「後には・・・栄光を受ける。」と記されるように、先の辱めと全く反対に後の栄光が語られます。人間的には考えられない神業として、神の約束の実現は意外などんでん返しによって驚くべき姿で現れます。

この地の人々は「闇の中に歩む民」「死の陰の地に住む者」として描かれています。ここでいう「闇の中に歩む」とは真の神を知らない宗教的な暗黒とその営みを指すのでしょうか。ですからそれを「死の陰の地に住む者」と言い換えているのです。そこに人が住み、人々の「歩み」があったとしても、そこには神への感謝と喜びがなく、「生」も感じ取ることができない「命」を失った死者同然の「歩み」でしかないのです。

(2) 大いなる光

このような絶望的な人生を営む人々の上に光が

輝きます。「光が輝き」「大いなる光を見」るとは「死の陰の地」が指す深い絶望感に対比して、「深い喜びと大きな楽しみ」をもった豊かな希望を指しています。この希望に備えられている喜びは「刈り入れ」のようであり、「戦利品を分け合っ
て楽しむよう」であると表現される喜びです。手をかけて丹念に育ててきたものの刈り入れは格別なものです。力を出し切った戦いの勝利も「やった!」という達成感があります。それがまさに「戦利品」であり、「分け合っ
て楽しむ」喜びなのです。

(3) ひとりのみどりご

さてこのような格別な喜びをもった「光」すなわち希望がどのようにして与えられるのかというと、それは三つあるとイザヤ書は記します。一つは「ミディアンの日のように」(士師記8章)今味わっているアッシリアの「鞭」「虐げ」が取り除かれること。二つ目に「兵士の靴」「血にまみれた軍服」が象徴する戦いの放棄が実現すること。(イザヤ書2章4節参照)そして最後に「ひとりのみどりご」が誕生し、彼の統治による平和が実現するからだと説明します。この「ひとりの男の子」という言い方は明らかに新しい王の誕生とその即位を指しています。ただこの記述が他の王誕生の記述と違うのは、「力ある神」と唱えられる点です。旧約では「王」が「神」そのものと呼ばれる例はわずかです。生まれてくるメシヤは「力ある神」そのものなのです。

そして、この神の約束はわたしたちの熱意ではなく、「万軍の主の熱意がこれを成し遂げる」から確実に実現します。新約の教会はこれがイエスにあつて実現したことを証しています。

イザヤ書8章23節b～9章6節

「預言された救い主・待望する信仰」

〔単元のねらい〕

待降節を迎えた。分級では、降誕祭の様々な準備をすることが中心となる教会もあろう。分級において、子どもに御言葉を教えることは言うまでもなく大切である。しかし、子どもらと楽しく降誕祭の準備をすることも、子どもとの良いコミュニケーションをとるチャンスともなり、子どもにも良い思い出を残せるであろう。それは、分級がめざしていることと重なるはずである。しかし、それだけに改めて待降節の礼拝式での子どもの礼拝式（説教）が大切となろう。主イエス・キリストの降誕は預言によって示されていた。預言が成就したことを子どもに伝えたい。また、神の約束の真実さと神の恵みは「成就」以前にもあることを伝えて、子どもらへの神への信頼を深める時としたい。

今からおよそ2700年前、イエスさまがお生まれになられる700年前に、イザヤという預言者がおりました。イザヤさんは、神さまを信じているユダの国の人々に神さまの言葉を告げた人です。その頃、イスラエルの国は北の国、南の国というように、二つの国に分かれてしまっていました。神さまに対する不信仰が原因です。しかも、イザヤさんが生きていた時には北イスラエル王国は外国（アッシリア）に滅ぼされてしまいました。そして、イザヤさんが活躍した南ユダ王国も外国（バビロニア）に滅ぼされようとしていました。国がなくなってしまうかもしれないという大変な時でした。ですから、イザヤさんは「神さまの方に心を向けなさい。不信仰や、偶像礼拝を悔い改めなさい。そうでなければますますあなた方は神さまの怒りを受けることになります。唯一の真の私たちの神さまに立ち返りなさい」と、神さまの言葉を一生懸命語りつづけました。

このイザヤさんは、実は、イエスさまの事も神さまから教えて頂いていました。その一つが、今日の暗証聖句です。「ひとりのみどりごが私たちのために生まれました。一人の男の子が私たちに与えられた。」これは、誰の事を指して言っているのでしょうか。きっと、一番最初にイザヤさんのお話を聞いた人には良く分からなかったかもしれません。でも、今の僕たち私たちに分かるのではないですか。「ひとりのみどりご」と言うのは、ひとりの赤ちゃんと言うことです。つまり、「一人の男の子の赤ちゃんが、僕たち私たちのために

与えられた」と言ったのです。ちょっとおかしな言い方ですね。「与えられた」と言うのは、昔の事のような言い方ですけれど、実は将来の事なのです。でも、将来、必ず生まれるから、生まれた、と言っているのです。

神さまは、イスラエルの人々に、約束されたのです。この約束を信じるなら、どんな辛い事があっても、がんばれる、諦めずに神さまを信じ、神さまに従い通すことができる、そのような約束です。でも、その約束は、イザヤさんが生きていた時には実現しませんでした。それから700年後にならなければなりません。700年って想像できますか。皆は、まだ7年とか10年とかしか生きていないでしょう。だから、全然分からないかもしれません。今から、700年前の日本はどんな国だったでしょうか。中学生なら、分かりますね。室町時代と言います。もう、大昔ですね。でも、神さまは、約束を破られません。神さまは真実なお方です。嘘をつかれません。神さまが仰ったことは、必ず、その通りになります。

そして、イエスさまは、この神さまの約束どおり、本当にお生まれになりました。私たちのために生まれました。僕たち私たちに救うために、神さまの子どもとするために天のお父さまはイエスさまを私たちに与えてくださいました。この神さまからのお告げ、預言は、本当になりましたね。イエスさまのお誕生は、もうずつとずつと前から、神さまがお決めになっておられたのです。それを信じる人を励ましてくださるために前もって教え

ておられたのです。

イエスさまはどのようなお方なのか、イザヤさんに告げられたことは、4つのお名前で、表すことができるというものでした。それは、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」です。神さまの約束によって生まれるイエスさまは、「驚くべき指導者」、今までどこにもいないような指導者、リーダーです。不思議な、驚くべき指導者として、イスラエルを、神さまの民を導く人です。今は、イエスさまは世界中の教会を導いておられます。

クリスマスは、偶然ではありません。神さまの約束の成就、実現です。700年も後だったけれど、本当に起こったのです。ところが6節には、このイエスさまが建ててくださる国は、どこしえに、永遠に続く約束されています。しかし、それはまだ実現していません。でも、イエスさまが再びこの地上に来てくださることによって、実現するのです。イエスさまの再臨は、聖書の中の大きな大きな約束です。神さまは約束を破られません。嘘をつきません。皆は、お友達と、「明日また一

緒に遊ぼうね」って約束したら、その約束を覚えているでしょうか。言った人は忘れるかな。言われた人はすぐに忘れてしまうかな。そうではないでしょう。大好きなお友達と大好きな遊びの約束だったら、早く明日にならないかなと思って待っているでしょう。

イエスさまは、必ずもう一度この地上に來られます。約束してくださったのです。あれから2000年たって、イエスさまがもう一度来てくださるという約束はどうなっているのでしょうか。まだ実現していません。でも、信じて良いのです。イエスさまのお約束だからです。絶対にお忘れになっていません。必ず、守って下さいます。心から信じてわくわくしながらその日を待ちましょう。そして、必ず、來られるイエスさまの前に、「あれ、本当に來られたのですか。忘れていました。ごめんなさい」ではなく、「イエスさま、ずっと待っていました。いつもイエスさまを思ってわくわくしながら、神さまのためにお友達のために勉強したり、遊んだりしていました。お祈りしていました。教会で皆で礼拝していました」と言えるようにしましょう。

今週の暗唱聖句

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。

ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。

権威が彼の肩にある。

その名は、「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と唱えられる。

イザヤ書9章5節

〈目標〉

神様は必ず約束を守られるお方であることを知る。クリスマスを楽しみに待つ。

〈展開例〉

今日は12月のはじめの日曜日。12月には何がありますか？ 皆のとっても楽しみにしているクリスマスが来ますね。

(アドベントカレンダーを見せる)

これはアドベントカレンダーと言います。クリスマスまでイエス様のことを思って過ごせるように、作りました。日曜日が来るたびに一つづつ扉を開けて行こうね。今日は12/2だから、ここを開いてみましょう。

何が見えましたか？ これは今日のお話しの絵です。イエス様が生まれる700年も前にイザヤさんという人が神様のお約束を人々にお話していたのでした。皆、楽しいことや嬉しいことは、少しでも早く来て欲しいよね。早く来ないかな一つと思います。聖書の中の人達は700年もクリスマス、イエス様がお生まれになるのを待っていたのですね。だから、その中にはイエス様のお生まれになるのを見ないで死んでしまった人達もいました。でも、神様は決して約束を破ったのではありませんでした。皆も知っているように、本当にイエス様はお生まれになったのです。

実は、神様は私達にもう一つのことを約束して下さっています。それは、もう一度イエス様が来

てくださるというお約束です。

皆、手をつないでごらん。これはね、私達の約束です。手を離してごらん。離れてしまいます。

今度は手首と手首で握手してみるよ。(先生が子ども一人ずつに順番にしてあげると良い)

手を離してごらん。

離れないね。(先生はしっかりと握ってあげる)

神様のお約束はこういうお約束です。必ず本当になるお約束なのです。だから、とても楽しみです。この神様のお約束を信じて待っていようね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、もうすぐクリスマスです。楽しいクリスマスを待つ様に、イエス様がもう一度来て下さることも信じて待つ子供にして下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈視覚教材〉アドベントカレンダー
用意する物

画用紙、色画用紙、のり、はさみ、カッター、定規、ペンなど

〈工作〉アドベントカレンダーを飾ろう
用意する物

色紙、ビーズ、モールなど

※129ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・ イエスさまのお誕生の700年前に、イザヤさんは、神さまの約束の御言葉を預言しました。
- 本 ・ 「みどりご」の誕生は、「闇の中を歩む民」「死の陰の地に住む者」の上に光を輝かせると預言されました。
- ・ イエスさまのそば近くに仕えたヨハネは、「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである」(ヨハネ 1:9)と証しました。
- 結 ・ 「万軍の主の熱意がこれをなし遂げる」(イザヤ 9:6)の御言葉どおり、時が満ちて御子が地上に誕生しました。

〈やってみよう〉

- クリスマス・ストーリーを演じよう -
降誕劇、ミュージカル調降誕劇、人形劇、指人形、紙芝居、ペープサート、影絵、スライド、ビデオ(ミニ映画)など
- * クラスの状況に合わせて選択して下さい。
* * スライドやビデオであれば、当日、病気で欠席者があっても困りません。

- ★登場人物/ヨセフ、マリア、天使、宿屋の主人、羊飼いや、博士など
- ★背景/町、野原、馬小屋など
- ★音響・音楽/クリスマスらしい曲を効果的に使いましょう。
- ★台本/聖書の御言葉を中心にします。セリフを覚えることで、暗唱聖句ができます。
- ★照明/暗幕などがあつたり、演じる時が夜であれば、ライトを効果的に使うと雰囲気ができます。工事用ライト、電気スタンドに色セロファンを貼ったり、OHPを使い、場面ごとに色を変えます。

伝言板

聖書の歴史は、壮大です。

イザヤさんが預言したのは、今から2700年前のこと。イエスさまの誕生と、神の国の支配を預言しました。しかしイエスさまが誕生されたのは、それから10年後? 100年後?? ...、いいえ、700年後でした! 「時が満ちて」すべての準備が整い、神の御子が地上に誕生したのです。全く預言どおりに.....

イエスさまが、もう一度、地上にお出でくださることを約束して下さい.....2000年が経ちました。700年の3倍の2100年くらいに、おいで下さるのでしょうか.....? いいえ、それはわかりません。その日が明日かもしれません。

今までどおりに、続けて礼拝をささげましょう。今までどおりに、「家族やお友だちが教会に来れますように」と祈っておさそいしましょう。今までどおりに、イエスさまのお手伝いが少しでもできますようにとお祈りしましょう。

これからも.....ずっと.....



12月2日 「約束の実現を待望する」 小学科中級 分級教案

〈目的〉

主の誕生が預言されていた事実を教え、神様が準備しておられた救い主であることを覚える。

〈指導上の心得〉

今日は主の誕生が預言されていたことを中心に、子どもたちに教える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主が預言者としての働きをなさったことを学んだが、預言者の働きとは何であったか。
- ・旧約時代に多くの預言者がいたことを話す。
- ・預言者たちの預言はどのようなものであったか。(イスラエル滅亡や補囚となることなど)
- ・その預言の中に、救い主が与えられる預言が含まれており、その姿はまさに主イエスのお姿であることを子どもたちに語り、約束の救い主が本当にこの世に来られたことを伝える。

〈ワーク〉

1. 神様は、預言によって約束されたことを、人間のように破ったりなさる方でしょうか？
考えて答えを書いてみましょう。
2. イエス様のお誕生は突然起こった出来事だったのでしょうか？
 - a) 神様の力で突然起こったことです。
 - b) 神様が、イエス様のお生まれになる700年も前から預言を通して約束しておられたことです。
3. イザヤ書9:5を書いて覚えましょう。覚えたら先生の前で、何も見ないで言えるかやってみましょう。

答え 1. 約束を必ず守ってくださる 2. b

12月2日 「約束の実現を待望する」 小学科上級 分級教案

〈目標〉

クリスマス待つ喜び、楽しみを味わう。

〈指導上の心得〉

待降節のこの時期、学びをお休みして、子供たちと協力して、クリスマスの備えをしていきたい。

〈展開例〉

「壁クリスマスツリーづくり」

- ①ダンボールでもみの木をつくる。縦目にして、もみの枝葉のかたちに切る。色画用紙か絵の具で緑色をつける。カラフルな色にしてもよい。切った枝葉を模造紙に貼る。
- ②飾りをつくる。リース、天使、プレゼント箱、星、聖書の登場人物などを色画用紙で作り、竹ひごにつけたり、ぶらさげる。
- ③できた飾りの竹ひごを、もみの枝葉の縦穴に差込む。

*葉を何枚か重ねて、差込口をふやす工夫もよい。

*今月の聖書箇所に出てくるもの(旧約聖書の巻き物、ヨセフ、マリア、天使、羊飼い、羊、星、飼い葉おけのイエスさまなど)を飾りとしてもよい。

*クリスマスに向けて、毎週すこしずつ飾りを作っていくのもよい。

*飾りに毎週の暗唱聖句を書いて、覚えていてもよい。

〈祈り〉

天の父なる神さま。クリスマスを持ち望む季節となりました。わたしたちも、共に楽しく、罪ゆるされた喜び満たされ、クリスマスを迎えたいと思います。いつもイエスさまを心にお迎えしていることができますように。

〈目標〉

イエス様が救い主であるのは偶然や御自身の修行によるのではなく、あらかじめ-歴史のはじめから-定められていたことであったことを、聖書の御言葉から学ぶ。

〈展開例〉

今日から、イエス様がお生まれになったことをお祝いするための準備の期間、アドベント（待降節）に入ります。アドベントカレンダーを作ったり、ツリーの準備をしたりしてクリスマス待ち望む時ですが、私たちのたましいも、聖書の御言葉によって養われて、救い主をお迎えする準備をいたしましょう。

○あらかじめ約束されていた救い主

私たちは、今、福音書に書かれたイエス様がお話しになった事やなされた事、十字架にかけられたありさまのことや、ペトロやヨハネ、パウロたちのようなイエス様のお弟子さんの書いた手紙など、新約聖書の御言葉から、イエス様こそが私たちの救い主であることを知ることができます。イエス様こそが、私たちのたった一人の救い主であることは、神様の御心に従って新約聖書を読む者にはきわめて明白なことです。では、イエス様はどのようにして救い主になられたのでしょうか。

仏教を始めたブツダ（シャカ）は、昔のインドの国の王子様でしたが、人生に悩んで王子の位も家族も捨てて苦しい修行を続けて「悟り」を得、教えを広め始めました。イエス様もそのように修行して救い主になったのでしょうか。そうではありません。イエス様はお生まれになる前から「救い主」であることが約束されていました（ルカ 1:26-38）。そのことは、マリヤとヨセフだけではなく、東の国の学者たちにも告げられていました（マタイ 2:1-2）。

また、ヨハネによる福音書 1:1-18 には、神の御子であるイエス様＝「ことば」がこの世の初めから神様と共におられ、時いたってこの世に人としてお生まれになったということが書かれています。イエス様は、最初から約束された「救い主」だったのでした。

○旧約聖書の預言

救い主が来られる事は、旧約聖書の最初から約束されています（創世記 3:15、原福音）。そして、イザヤ 43:4 には、私たちの救い主、私たちの身代わりになって下さる方が与えられるのは、神様が私たちのことを「価高く、貴い」と言ってくださるという、神様からの一方的な恵みであることが約束されています。

そして、その救い主がこのイエス様であることは、旧約聖書においても繰り返して書かれています。今日の礼拝でお話しを聞いたイザヤ書 8:23-9:6（特に 9:5,6）ももちろんそうですし、同じイザヤ書 7:14 には「わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ」という御言葉があり、おとめマリヤからイエス様がお生まれになることが預言されています。また、ミカ書 5:1 には「エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる」という御言葉があり、ベツレヘムに生まれるユダヤ人の王＝イエス様は、ヨハネによる福音書 1章の御言葉と同じく、永遠の昔からおられたということが語られています。

イエス様が来られる事は、このように旧約聖書に預言されていたことです。イエス様が来られる前の人々は、この旧約聖書の御言葉から救い主への希望を与えられ、信仰を育まれました。

私たちも、アドベントに入るにあたって、私たちがお迎えするイエス様は、歴史の最初から神様によって約束された救い主であることを、心に刻みたいと思います。

〈祈り〉

天の父なる神様。クリスマスを迎えるアドベントに入りました。どうか私たちが、イエス様が約束された私たちの救い主であることを確信して、希望を持ってクリスマスを楽しむことができるように、たましいの準備をさせてください。

テキスト マタイによる福音書1章18～25節
10月28日分聖書研究の再録です

夢の中で天使の御告げを受けたヨセフの話です。縁を切ろうと決心していたヨセフが「妻を迎え入れ」たのには、天使による御告げがあったからでした。

(1) ヨセフの決心

ユダヤでの婚約は二人の証人立ち会いのもとで誓いがなされて結ばれます。実際の夫婦生活はそれから一年後くらいから始められたようですが、それでも婚約は法律上での立派な夫婦であることを意味しています。そこで婚約していたヨセフは既に「夫」であり、マリアは「妻」です。婚約の解消も離縁（「縁を切ろう」）と呼ばれます。

婚約期間とはいえ、ヨセフもマリアも既に夫婦ですから、「身ごもっていることが明らかになった」のには、ヨセフもさぞ驚いたことだろうと想像できます。「明らかになった」とは「判明する」とか「発見する」という意味で、その事実を知ったヨセフの驚きが表現されています。この驚きに普通なら一人の心にとどめることができずに「表ざた」にしてしまうところですが、ヨセフは「ひそかに縁を切ろうと決心し」ました。それをマタイでは「夫ヨセフは正しい人であったので」と説明しています。そういう心をもったヨセフですから、人知れずに縁を切ろうという「決心」も決して軽々しいものではないことが想像できます。

(2) 天使

この驚くべき出来事をヨセフに理解させ、その決心を思いとどませたのは、夢に現れた天使の御告げでした。

この天使の御告げと預言者の引用から三点のことが語られます。まず一つは「マリアの胎の子は聖霊によって宿った」ものであること。二つ目にその子は「イエスと名付け」られること、なぜなら「この子は自分の民を罪から救うからである。」そして三つ目に「このすべてのことが起こったの

は、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。」つまり神の約束とご計画によるものだということです。「自分の民を罪から救う」ことにおいて「インマヌエル」「神は我々と共におられる」という出来事が実現します。マリアの身ごもりに驚き、この出来事を一人心に秘めて決心をしていたヨセフに、「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」と呼びかける天使の御告げは、さぞ深い平安を与えたのではないのでしょうか？「妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった」のはこの呼びかけによるものです。この出来事においてまさに「神は我々と共におられる」が実現しています。

(3) 罪から救うから

「イエス」という名は「主は救い」という意味ですが、その救いとは「罪から救う」という救いです。マタイではこの「イエス」と名付けられた子の誕生とその子による「罪からの救い」は「預言者を通して言われていたこと」の実現だと説明します。「言われていたこと」すなわち神様の約束を指しています。つまり、子の誕生とその子による罪からの救いは神様の約束でした。そしてそのことにおいて「インマヌエル」「神は我々と共におられる」が実現します。

「自分の民」と呼ばれるイスラエルにとって、神はいつも「主は救い」でした。しかし同時に旧約の歴史は「栄光はイスラエルを去った」（サムエル上4章22節）と言わざるを得ない歴史で、「彼は父の心を子に、子の心を父に向けさせる」（マラキ3章24節）必要を痛感してきました。イエスの誕生と罪からの救いにより、ようやく「神は我々と共におられる」ことが真実な意味で実現します。

マタイによる福音書1章18～25節

「成就したクリスマス・御言葉に信頼し、従う信仰」

〔単元のねらい〕

テキストは、10月28日に行った問23の箇所と重複している。イエス・キリストの誕生の次第を告げる物語である。ここでは、テキストを物語るなかで、暗唱聖句を中心にして、預言の成就、神の御言葉への信頼を訴える。しかし、説教者は、展開例を参照して頂きながら、自分自身が聴き取った御言葉、子どもらへ伝えたいメッセージを語って下されば良い。因みに筆者は、子どもカテキズム問56をここで意識している。

今、読んだ御言葉は、イエスさまのお誕生の時の様子を記したところです。イエスさまのお母さんとなる、マリアさんはヨセフさんと婚約、結婚の約束をしていました。ヨセフさんもマリアさんも、神さまを信じるとも信仰の厚い、立派な人たちでした。神さまを信じる二人は、神さまの戒めを心から大切にしていたのです。それは、結婚する前に、性の関係を持つことは神さまの前で許されていないのです。もちろん、この二人は、結婚の約束をしていましたが、まだその時が来ていませんでしたから、決して、そのような関係を持ちませんでした。

ところがある時、ヨセフさんは結婚する前なのに、マリアさんのおなかに赤ちゃんがいることを告げられたのです。どれほど、びっくりしたことでしょう。そして、悲しくなって、苦しんだことでしょう。誰でも考えることは、自分以外の誰かと、結婚してしまったのかということです。でも、違います。マリアさんは、そんな人ではありません。でも、ハッキリしているのは、マリアさんのおなかの中には赤ちゃんがいるということです。もしも、それが、人々に知られたら、マリアさんは石を投げつけられて殺されるかもしれません。そのような掟があったからです。でも、ヨセフさんは、マリアさんにそんな目に合わせたくありません。ですから、彼は、一度結婚した上で、マリアさんを離婚してしまえば、マリアさんは殺されなくて済むと思ったのです。そのようなことを考えていたヨセフさんの心の中はどれほど、悲しく辛かったです。

そのように考えているヨセフさんのところに、

神さまは天使を遣わして下さいました。それはヨセフさんが夢を見ている時でした。夢の中で天使は告げました。「心配しないで、マリアさんを妻として、迎えてあげなさい。マリアさんのおなかのなかには、赤ちゃんがいます。けれども、その赤ちゃんは、実は、聖霊なる神さまによって宿ったのです。マリアさんは男の子を産みます。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからです。イエスという名前は、そういう意味を持っています。罪からの救い主という意味なのです。」

ヨセフさんは眠りから覚めました。でも、夢のことはハッキリ覚えています。皆だったら、この夢に天使が現れたら、どうするでしょうか。ヨセフさんは、考えて、信じました。「これは、決して単なる夢ではないぞ、これは、神さまが夢の中で、教えてくださったのだ。」どうして、ヨセフさんは、そう考えられたのでしょうか。それは、ヨセフさんが寝ても覚めても、いつでも神さまに心を向けている人だったからです。だから、分かったのです。神さまの事を考えることも、お祈りすることもない人だったら、この時の天使のお告げを無視していたと思います。こうして、マリアさんはヨセフさんと結婚して、男の子が生まれるのを待ったのです。そして、生まれたときには、ヨセフさんが前から、言っていた通り、イエスと名付けたのです。こうして、神さまのご計画は、実現しました。

このすべてのことが起こったのは主なる神さまが預言者を通して言われていたことが実現するためでした。先週も、預言者イザヤさんのことが出

てきましたね。イザヤさんは、神さまからこのような言葉を預かっていました。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」つまり、イエスさまのお誕生の全ては、偶然のことではないのです。神さまは、クリスマスのことを前もって予告されたのです。神さまの言葉は、間違いなく実現するのです。

イザヤさんは、神さまの言葉、預言の力をこう言いました。イザヤ書 55 章 10 ~ 11 節「雨も雪も、ひとたび天から降れば むなくく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ 種巻く人には種を与え、食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、むなくくは、私のもとに戻らない。それは私の望むことをなし遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」雨が天から降ったら、それはかならず大地を潤します。種をまいたら芽が出ます。それによって豊作になります。雨が降れば必ずその結果が現れます。神さまが御言葉を語られたら、必ず、その通りになるのです。

神さまは天と地を神さまの御言葉によってお造りになされました。それが、神さまの御言葉の力なのです。聖書には、その神さまの御言葉が記されているのです。聖書には、僕たち私たちへの約束の言葉が記されています。戒めの言葉も記され

ています。全ては、預言者の人々を通して、神さまが僕たち私たちを救うために、信じて、従わせるために、語らせられたのです。ですから、僕たち私たちは、心から、聖書を読んで、神さまの言葉を聴きます。

もしも、ヨセフさんが、夢の中に現れた天使の言葉を聞き逃したり、従わなかったりしたら、一体、イエスさまはどうなっていたでしょうか。もちろん、神さまの言葉の力がそうさせたのです。でも、ヨセフさんやマリアさんは、イエスさまの救いのお働きのために、クリスマスになくてならない人達です。そして、僕たち私たちにも、今日、聖書から、神さまの言葉を語りかけられています。それなら、もしも僕たち私たちが、信じないで、従わないで、無視したら、どうなるのでしょうか。先生は、こう信じています。先生が聴いた神さまの言葉は、先生が聴いただけにしてはいけない。それは、神さまが先生を通して、他の人々に神さまの素晴らしさ、神さまの救いを伝えたり、分かち与えようとしておられることなのです。だから、心を込めて御言葉を聴いて、信じて、従いたいのです。僕たち私たちは、神さまからそのような素晴らしい言葉を与えられているのです。心から神さまのお言葉に従って、神さまの救いのお働きに用いられる子どもとして頂きましょう。

今週の暗唱聖句

このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して
言われていたことが実現するためであった。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

マタイによる福音書 1 章 22 - 23 節

〈目標〉

神様の御言葉を信じて従うとき、神様の約束が実現していることを見る(知る)ことが出来る事を知る。

〈展開例〉

(アドベントカレンダーの12/9を開く)

誰がいますか？ 今日のお話しに出てきた人です。ヨセフさんですね。

ヨセフさんは、まだ結婚もしていないのにマリアさんのおなかに赤ちゃんがいると知って、とても驚きました。けれども、そんなヨセフさんのところへ御使いが来て、「その子は神様の子です。イエスと名前をつけなさい」と告げました。本当にびっくりするような出来事でしたが、マリアさんもヨセフさんも神様を信じる人だったので、御使いの言うとおりにしました。そして、本当にイエス様がお生まれになるのです。

私達もマリアさんやヨセフさんの様にどんなにびっくりすることがあっても、神様の言われる事

を良く聞いて、信じる子になりたいですね。そうしていると、本当に神様が一緒にいて下さる事がわかって、とても嬉しくなるからね。

〈お祈り〉

天のお父様、ヨセフさんやマリアさんが神様の言葉を信じた様に、私達も神様の言うことを良く聞く子供にして下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈歌〉『ふくいん子どもさんびか』

39番「みことばきいて」

〈工作〉リース作り

用意する物

厚紙、色画用紙、リボン(大きめ)、

ひも(壁かけ用)、モール、ビーズなど、

キリ、ボンド、はさみ、カッター、ペンなど

※130ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・母マリアとヨセフは婚約していました。しかし、すでにマリアが身ごもっていることが明らかになり、ヨセフは悩みのなかになりました。
- 本 ・ある夜、天使はイザヤ書の御言葉をヨセフに告げました。いつも、神さまに心を向けていたヨセフは、天使の告げた言葉を信じて受け入れ、従う決心をしました。
- 結 ・ヨセフもマリアも、神さまにいつも心を向けていたので、神さまの語りかけ（御言葉）を聞きそこなうことがありませんでした。

* 神さまの語りかけをいつでも聴いている人は、神さまのお手伝いがすぐにできるのです。

伝言板

もしヨセフさんが、神さまの語りかけを聞き損ねたり、従わないで、マリアさんとの結婚を止めてしまったらどうなっていたでしょうか。

考えたことがありますか？

結婚をしていないのに、妊娠することは罪とされ、石打ちの刑でお腹の赤ちゃんと一緒に殺されたかもしれません。マリアさんだけ、ナザレの町から抜け出して、こっそり馬小屋で赤ちゃんを生んだとしたら、イザヤの預言どおりの「ダビデの家系」から、イエスさまは、お生まれにならなかったことになります（ヨセフはダビデの家系です）。

イエスさまは、無事、父ヨセフと母マリアの子として育てられ、すくすく大きくなりました。

降誕劇には、必ずヨセフとマリアが出てきます。イエスさまの救いのお働きに、ヨセフもマリアもなくてはならない人たちだからです。

素直な信仰が大切なのです。

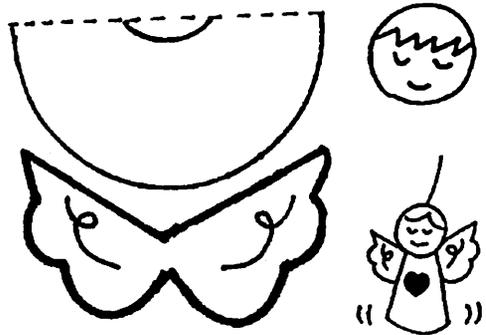
〈やってみよう〉

- 天使を作る -

材料 白画用紙、色ペン

作り方

- ・直径 20 センチ位の半円を作って、コーン形に巻く。
- ・丸い顔を付ける。
- ・顔のつけねに羽を貼る。
- ・糸を付けてツリーに飾る。



- クリスマス祝会へのおさそいカードを書く -
教会に誘いたい家族、友達にクリスマスカードを書きましょう。



〈目的〉

御言葉を信じたヨセフのように、神の御言葉を信じて待つ信仰を養う。

〈指導上の心得〉

主の御言葉は必ずなるのだとの確信を持って教える。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・ マリアが聖霊によって身ごもった事実を伝える (ルカ 1:26-38)
- ・ 次に、そのことで心配し悩んでいるヨセフに神の御使いが現れ、神様のご計画が告げられ、ヨセフにマリアと別れてはいけないことを教える
- ・ ヨセフは神の御使いの言葉を信じその事実を受け止め平安に待つことができた。その事実を通して、御言葉を信じて、神様の御言葉が本当になることを期待して待つことを教える。

〈ワーク〉

1. マリアさんのお腹に赤ちゃんがいると知ったヨセフさんはどうしようと思いましたか？
下の文章からあっているものを探してみよう。
a) マリアさんと縁を切った。
b) こっそりと縁を切ろうと考え悩んでいた。
c) どうでも良いと思って放っておいた。
2. ヨセフさんのところに表れた天使の言葉を聞いてヨセフさんはどうしたでしょうか？
() をうめて文章を作りましょう。
「ヨセフさんは、天使の言葉を聞いて () て、マリアさんと () しました。そして、天使の言葉に () って、子どもが生まれるのを信じて待ちました。」
3. マタイ福音書 1:22,23 を暗唱しましょう。

答え 1. b 2. 信じ、結婚、従

〈目標〉

貧しいが仲むつまじいヨセフとマリア夫婦の子として、メシア預言が成就した。この事実に関心と、愛と、きよさをおぼえたい。

〈指導上の心得〉

説教例にならない、問 56 を通して、きよい男女関係の祝福を対象年齢 (11,12 歳) にふさわしく語りたい。ただし、筆者の勉強不足ゆえ、本展開例に具体例は盛り込めませんでした。専門家のアドバイスに基き、よき導きができますように。

〈展開例〉「貼り絵」

12 色くらいの折り紙 (和紙仕様でもよい) を自由にちぎったり、破ったりして (はさみは使わない)、仲むつまじいヨセフとマリアの貼り絵を、全員で (人数が多い場合は、グループ分けして) 作ってみよう。顔の表情も、できればペンを使わず、紙だけで描いてみよう。絵の

下に御言葉「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名づけなさい。この子を自分の民を罪から救うからである」を書いて、クリスマスまで教会に飾ろう。

- * まず絵の簡単な輪郭を書き、どんな絵にするかイメージしよう。適当に教師も手伝おう。
- * 紙をちぎったり、破ったりする際に、思わぬかたちが生まれる。極端なおおきな腕でも、マリアを包み込むようなかんじがでてよい場合もある。なるべく、子供の発想を生かし、かたちにこだわらず、自由に生き生きとした描写を目標としよう。
- * 役割分担を決めて作っていこう。

〈祈り〉

天の父なる神様。正しい人ヨセフと、神に従順なマリア夫婦において約束を成就させてくださったことに感謝いたします。

〈目標〉

人の思いを越えて働かれる神様に従ったヨセフの信仰を学び、クリスマスを受け入れる備えをする。

〈展開例〉

聖書には、イエス様は聖霊の力で処女マリヤのお腹に宿りお生まれになったと書かれています(ルカ 1:26-38)。このことは私たちにとっても驚くべき奇跡ですが、一番驚いたのはいなすけであったヨセフでしょう。フィアンセが自分の知らないうちに妊娠していたというのですから。

○ヨセフの思い

結婚する前に妊娠するという事は、現代では残念ながらあまり珍しいことではないかもしれませんが、少し前までは日本でも大変なことでした。ましてや 2000 年前のイスラエルでは、とんでもないことでした。フィアンセがありながら、彼以外の男の子どもを身ごもったということになると、これは姦淫の罪です。これも現代では「不倫」とか言って何でもないことのように扱われていますが、とんでもないことです。ちなみに、「倫」というのは「人の道」=「人として当然守らなければならないこと」です。「不倫」というのは「人の道からはずれたこと」=「人として当然してはいけないこと」です。そのようなことを何でもないことであるかのように考えようとする現代は、人の道から外れた時代、神様の悲しまれる時代に違いありません。

さて、この時、ヨセフの取る事のできる道は三つあったと思います。第一は、「この女は私以外の男の子どもをみごもっている」と言って婚約を破棄することです。この場合、マリヤは姦淫の罪に問われる事になります。当時のイスラエルにおいて、姦淫の罪は「死」に値する罪でした。「石打ちの刑」と言って、罪人が絶命するまで人々が石を投げつけるという苦しみの長いむごたらしい死刑の方法です。ヨセフは愛するマリヤをそんな目に合わせることを望みませんでした。第二の道は、いったん結婚してすぐに離縁してしまうことです。そうすれば、世間はマリヤのお腹の子ども

はヨセフの子だと思ってしまうでしょうし、ヨセフも誰の子かわからない子どもの父親にならずに済みます。ヨセフは「正しい人」(マタイ 1:19)でしたから、フィアンセが姦淫の罪を犯したことを受け入れられなかったことでしょう。実際、ヨセフはこの道を取ろうと考えました(マタイ 1:19)。第三の道は、何事もなかったかのようにマリヤと結婚し、お腹の子を自分の子どもとして育てることです。しかし、「正しい人」ヨセフは姦淫の罪を受け入れることができなかつたでしょうし、他の男の子を自分の子どもとして育てる事はヨセフの男としてのプライドも許さなかつたでしょう。

○ヨセフの取った道

しかし、ヨセフが取ったのは第三の道でした。御使いの言葉(マタイ 1:20-21)を聞いてそれを信じ、マリヤとお腹の子どもを受け入れたのです。ヨセフは御使いの言葉を神様の御言葉と信じ、御言葉に従うことを、自分の正義感やプライドよりも優先させたのです。ヨセフには、神様は人の思いを越えて働かれるという思いがあつたのでしよう。彼は自分の思いよりも神様の御心に従うことを優先させたのです。

しかし、私たちは、神様の御言葉より、自分のプライドや利益などを優先して考えてしまいがちなものです。それは、神様を第一としようとしない、神様に従うより自分が一番でいたいという、私たちの持っている「罪」の結果です。その私たちの「罪」をゆるすためにイエス様は神様であるにもかかわらず自分を低くして人としてお生まれになったのです。私たちのために自分を低くされたイエス様のことを知っている私たちは、自分を一番にするのをやめたいと思います。ヨセフがそうしたように、神様の御心を自分の思いに優先させて、クリスマスを迎えましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、自分の思いよりも神様の御心を優先させてマリヤを受け入れたヨセフの信仰を学びました。私たちも、神様の御心を第一に考えていくことができますようにお助けください。

テキスト ルカによる福音書2章1～7節

住民登録の旅の途上、ベツレヘムで主イエスはお生まれになります。ヨセフと身ごもっていたマリアが泊まる場所がないために、生まれた子を飼い葉桶に寝かせるという降誕劇の大切な一幕です。

(1) イエス誕生の時代

ルカではイエス誕生の時代背景を非常に丁寧に記しています。「皇帝アウグストゥス」は前31～後14年在位のオクタヴィアヌスのことです。「全領土の住民に」勅令をだすほど「ローマの平和」が確立され始めました。「最初の住民登録」であるように今までにはなかった新しい時代の到来です。あらゆる国の住民が巨大な国家に組み込まれ、ローマの国家維持のために徴兵徴税の制度が開始されます。それは同時、その数には入れられない「地方」の野宿する「羊飼いたち」が忘れられる時代でもあります。

神様はご自分の計画に従って時を正確に用いられます。このような新興国新時代にイエスが誕生することは、新しい時代の到来という意味で全くふさわしいものですが、同時にこの世の国家元首と国家体制とは全く違う姿でメシヤとその御国が現れ、イエスによって到来する御国が浮き彫りにされて人々に示される時でした。

(2) イエスの誕生

何よりもそのイエスの生まれた姿こそ、イエスがメシヤと呼ばれる所以であり、イエスによってもたらされる国がこの世の一国ではなく、「神の国」と呼ばれる所以であります。

イエスはヨセフとマリアの旅の途上、ベツレヘムでお生まれになります。そこは「ダビデの王座とその王国」（イザヤ9章6節）を持つメシヤが生まれるのに、まことにふさわしい「ダビデの町」でしたが、生まれる「場所がなかった。」

イエスは私たちと同様にマリアから生まれることによって人となりをとられました。また、ダビデの王座に座す方でありながら「飼い葉桶」の中（あるいは「小屋」）に生まれます。このようなイエスこそこの世に「場所がない」者の友であります。（ヘブライ人への手紙11章16節参照）

この世の皇帝は徴兵徴税のために住民登録をさせますが、「わたし（イエス）は自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」（ヨハネ10章14節）、「イスラエルの失われた羊」（マタイ10章6節）を求め、「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。」（ヨハネ10章16節）

その登録をするために住民たちは「おのおの自分の町へ旅立つ」ていきますが、イエスは失われた羊を求めて「自分の町へ」ご自分から出向いて来られました。

後にイエスはピラトから尋問されたとき、「わたしの国は、この世には属していない。」と言われましたが、まさしくメシヤであるイエスとその御国はこの世に誕生したときからこの世とは決定的に異質な姿を現したのです。

生まれて飼い葉桶に寝ておられる主イエスの姿は、憐れみと恵みに満ちた真のメシヤの姿を明解に描いています。

ルカによる福音書2章1～7節

「飼い葉桶で生まれた主」

〔単元のねらい〕

待降節第三主日を迎えた。神の民は救い主を待ち望んでいたはずであるが、期待に反したあり方の救い主の到来を拒絶した。その反応は、十字架の予告であるかのようである。しかし、神はそのような不信仰、敵対する態度を示す神の民のためにも、御子を人間とならせて馬小屋で生まれさせ、飼い葉桶に寝かせられた。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して」(ヨハネの手紙一 4:10) くださった事実、つまり神の愛の勝利が御子の降誕である。「ここに愛があります」との喜びと確信とをもって、この物語を語りたい。主イエスは、子どもの心を馬小屋として宿って下さる。その主イエスに向かって心を開かせること。子どもたちが、自ら友達に向かって、「ここに愛があります」との喜びをもって降誕祭主日の日曜学校に、クリスマス集會に誘えるようにも励みたい。

今から 2001 年前、アウグストゥスがローマの皇帝であった時のことです。アウグストゥスは世界中にお触れを出しました。「それぞれ自分が生まれた町に帰りなさい。そして、自分が誰であるか、男か女か、家族がいるのかいないのか、登録をきなさい。」これは、ローマの王様が世界中から税金を納めさせるために出したものでした。

実は、ヨセフさんはその時、ガリラヤの町、ナザレに住んでいました。しかし、生まれたのは、ユダヤのベツレヘムでしたから、はるばる 100 キロ以上も遠い、ベツレヘムに戻って行きました。先々週も学びましたね。イエスさまは 700 年も前から、預言者イザヤによって、700 年も前から男の子の赤ちゃんとしてお生まれになることが預言されていました。そして実はイエスさまがどこでお生まれになれるのかは、預言者ミカという人によっておよそ 750 年前に予告されていたのです。その場所こそ、ベツレヘムです。神さまのお約束は不思議な方法で実現しました。このような神さまのお働きを摂理と言います。こうして、マリアさんのお腹のなかの赤ちゃんはもう大分大きくなっていましたが、一緒に連れて行くことになったのです。

さて、ベツレヘムに到着すると、マリアさんは産気づきました。ヨセフさんは、どんなに不安だったのでしょうか。初めて赤ちゃんを産む二人です。皆は、どこで生まれましたか。ほとんどのお友達

は病院でしょう。覚えている人はいないと思いますが、お父さんお母さんから、「○○ちゃんは○○病院でうまれたんだよ」と教えてもらっているでしょう。最近の産婦人科の病院はとても綺麗でホテルのようです。それなら、神の独り子のイエスさまなので、どんなに立派な所でお生まれになったのでしょうか。

ヨセフさんは、マリアが赤ちゃんが産まれそうで、苦しんでいるのを見て、びっくりしたと思います。「とにかく、早くきちんとした所で、産ませてあげたい。」と思ったに違いありません。ですから、必死になって宿屋を探しました。「ドン、部屋は空いていませんか。実は、妻が身重でもう産まれそうなのです。」「いやいや、あいにくだね。うちの所はもういっぱいだね。他を回ってくれませんか。」そうやって、何軒回っても、どこもことわられてしまいました。ヨセフさんは、マリアさんの苦しみを、もうこれ以上待ってられないと思いました。「ドン、妻が身重でもう産まれそうなのです。どんな部屋でも構いません。とにかく産む場所が必要なのです。助けて下さい。」宿屋の主人は、「あいにくだね。うちの所はもういっぱいだね。他を回ってくれ。」それでもヨセフさんは、食いが下がります。「お願いします。どこでも構いません。贅沢は言いません。」すると主人は冷たく言い放ちました。「空いているのは馬小屋だけさ。」

ヨセフさんは、マリアさんを抱えると、馬小屋

の中に入って行きました。そして、そこで、天と地の創造者なる神さまの独り子が人間となってお生まれ下さったのです。神さまの独り子だったら、本当は、世界で一番綺麗で、清潔で、あたたかい立派な宮殿でお生まれ下さるほうがふさわしいかもしれません。でも、天のお父さまは、イエスさまが人間としてほとんど一番産まれたくないような馬小屋、家畜小屋で生まれることをよしとされました。家畜は汚らしく不潔で、小屋は冷たく冷え切っています。そして、イエスさまは、飼葉桶つまり冷たい餌箱の中におかれまして。きれいな真っ白な衣ではなく、旅の汗が染みついた衣に包まれて、わらを布団として寝かされました。このような貧しいさまで、へりくだったさまで、お生まれ下さったのです。

さて、皆は、イエスさまは何故、そのような生まれ方をしたのだと思いますか。これも、偶然ではありません。このことも、神さまの摂理のお働きです。それは、イエスさまは僕たち私たちが味わうどんな辛いことも、全部経験するためです。多くの人達から、イエスさまは歓迎されていません。神さまがお造りくださった世界に、神さまの独り子が来られたのに、宿屋をあける人もいなかったのです。何という間違った世界でしょう。それにもかかわらず神さまは、僕たち私たちを愛

しておられるからです。イエスさまはそんな世界の人々をも愛しておられるのです。イエスさまに向かって、「あんたなんか、居場所がないよ、馬小屋にでも行ったら」と冷たく言い放った人にも、神さまは、愛を示して下さるのです。神さまの真剣な燃えるような深い愛は、「お前なんかあっちへ行け」という仕打ちに負けません。人間の罪の心より、神さまの愛のお心の方が強いのです。神さまの燃え上がる愛は人間の罪、冷たい心に勝っておられるのです。

イエスさまは、信じる私たちの心の中に、今、もう宿っていて下さいます。その心の中は美しく、綺麗でしょうか。むしろ汚れた心、悪い心かもしれません。しかし、イエスさまは心を開いて信じる人の心の中に喜んで宿って下さるのです。あの臭い汚い馬小屋も最初のクリスマスの日には、神さまの聖い光が放たれたと思います。だったら、僕たち私たちの心の中にイエスさまが宿って下さるのであれば、必ず心の中も綺麗にさせていただきます。来週はクリスマスです。心の中に宿って下さるイエスさまの事を、一人でも多くのお友達に伝えましょう。僕たち私たちと同じように、お友だちの心にもイエスさまは宿って下さいます。イエスさまのお誕生をお祝いする礼拝に、日曜学校に、クリスマスの集会に連れてきたいと思っています。

今週の暗唱聖句

初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。

宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

ルカによる福音書 2章 7節

〈目標〉

イエス様は、馬小屋でお生まれになった様に、私達の心にも宿って(住んで)下さる事を知る。

〈展開例〉

今日のアドベントカレンダーの絵は、どんな絵ですか？ 今日聞いたお話し絵ですね。

ヨセフさんとマリアさんは偉い王様の命令で遠いベツレヘムの町へ帰らなければなりません。ところが宿屋はどこもいっぱい泊まる場所がありません。とうとうヨセフさんとマリアさんが泊まったところは、どこだったかな？ そう、馬小屋、家畜小屋でした。馬小屋は動物達の家で、本当は人が泊まるようなところではありません。イエス様は、神様であられるのに綺麗な立派なお城のあたたかいベッドの上ではなく、臭くて汚い馬小屋の中でお生まれになり、冷たい飼い葉桶に寝かされたのです。それは全部、私達のためでした。

今、イエス様は、イエス様を信じる私達の心に

泊まって下さいます。それも、1日や2日ではありません。ずっとです。そして、私達の心のお部屋が、うそをついたり、わがまを言ったりして暗くなっている時も、イエス様はその心のお部屋に泊まって下さってお部屋をパッと明るく照らして下さいます。

〈お祈り〉

私達の主イエス様、今日も私達の心に住んで下さって心の中を明るく照らして下さいありがとうございます。いつもそのことを忘れないでいられますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

〈工作〉馬小屋に泊まられるイエスさま用意する物

大きめのお菓子箱、画用紙、はさみ、カッター、のり、ペンなど

※ 131 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・ マリアさんは、もうすぐ赤ちゃんが生まれそうです。人口調査のために旅にでたヨセフさんとマリアさんは、今晚、泊まる宿を探しました。
- 本 ・ どれも満員で、空いているのは馬小屋だけ。冷たい馬の餌箱の中に、イエスさまはお生まれになりました。
- 結 ・ 神さまがお造り下さった世界に神さまの独り子が来られたのに、宿屋を空ける人もいなかったのです。
- ・ しかし、クリスマスの出来事は、人間の罪深い冷たい心にも勝って、神さまの深い愛がこの世を包み、聖い暖かい光が照らされたことを私たちに教えてくれます。

伝言板

お父さんや、お母さんに嘘をついてしまったことがありますか。すぐに、「ごめんなさい」と言ってしまうよかったですのに、どうしても言えずに「嘘をついてない！」と、また嘘をついてしまったり……。悪かったテストを小さく小さくたんで机の中に隠したり、捨ててしまったりしたことはありませんか。「テスト返してもらった？」とお母さんに聞かれて、「知らないよ」とさらに嘘を重ねてしまったり……。悪い事と知っていても、お友だちの悪口を一緒になって言ってしまうたり……。

そんな時、心が苦しくなって暗い気持ちになるよね。心の中を誰にも見られたくない、と心の扉を固くしめます。誰にも知られたくないのですから……。悪い心は暗闇を好みます。でもイエスさまはそんな僕の心を訪ねたいとおっしゃいます。「扉を開けて、私を迎えてごらん」と、トン・トン……と扉を叩きます。「満員です」と断りますか？

〈やってみよう〉

- クリスマスキャロルを賛美しよう -
- ・ 歌詞の意味が理解しやすいものを選んで、心を合わせて賛美しましょう。
 - ・ 鈴やかスタネット、トライアングルなどの打楽器、鍵盤ハーモニカ、ハンドベルなど、曲に合う楽器を効果的に使うと、楽しくなります。
- 「うれしいうれしい」(『子どもさんびか』)、
「きよしこのよる」、
「もろびとこぞりて」、
「いざうたえ」
などなど

* クリスマスストーリーの劇などに挿入するのも楽しいでしょう。

- * * クリスマスイブに、街角で賛美したり、礼拝に来れないお年寄りのお宅の前で賛美できたらいいですね。
かわいい歌声を、神さまに用いていただきましょう。



12月16日

「神の愛の勝利」

小学科中級 分級教案

〈目的〉

最も低い状態でお生まれになった主イエスの姿を覚える。

〈指導上の心得〉

主が馬小屋でお生まれになった意味をじっくり味わいながら指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主イエスが馬小屋でお生まれになったことを教え、馬小屋で生まれた子がいるか聞き、子どもたちがどこで生まれたかを聞いてみる。
- ・主イエスは、なぜそのような汚いところで生まれなければならないのか(説教展開例参照)
- ・主イエスは、私たちが経験したことがないような非常に貧しくみすぼらしい状態でお生まれになったが、これも私たち人間と同じになられ、私たちが救うためであったことを教える。

〈ワーク〉

1. あなたが生まれたところはどこ？
病院？お家？
2. イエス様はどこでお生まれになりましたか？
3. イエス様はなぜ、その様な所でお生まれにならなければならないのでしょうか？
 - a) マリアとヨセフの泊まる場所が無かったため、たまたまそうなった。
 - b) 低い状態でお生まれになって、私たちが経験する全ての苦しみや、つらさを知るため。

答え 2. 馬小屋 3. b

12月16日

「神の愛の勝利」

小学科上級 分級教案

〈目標〉

貧しい中で、劣悪な環境の中で、お生まれになった救い主に、神の愛の勝利を見よう。

〈指導上の心得〉

飼い葉おけのしるしを心に刻み付けたい。

〈展開例〉

- (1) 「まぶねの中で」を歌う
10月21日に練習した曲である。リコーダーに合わせて歌おう。またハンドベルで演奏してもよい。クリスマスお祝い会のだしものにできるかも。
- (2) 「マグネット飼い葉おけ」
 - ① マグネットと工作板を人数分用意する。ホームセンターなどで、両面テープ付きマグネット(4個300円くらい)や木遊び用型板が販売されている。

② 型板に飼い葉おけを描く。事前に絵のサンプルを用意しておく。

③ 余白に、「神の愛の勝利！」と書く。

④ できた板のうらにマグネットを両面テープでつければできあがり。

〈祈り〉

まことの神様。わたしたちのために、お約束どおり、人となってくださって、本当にありがとうございます。あなたは深い、深い愛で、すべての敵を敵し、サタンに勝利してくださいました。あなたのお名前は、永遠にほめたたえられますように。

〈目標〉

子なる神様でありながら、飼い葉桶という極めて低いところにお生まれになったイエス様は、私たちのどんな低い苦しい状態をも受け入れ、包み込んでくださる救い主であることを学ぶ。

〈展開例〉

イエス様が馬小屋でお生まれになり、飼い葉桶の中に寝かされていた、というのは大変有名なお話です。クリスマスのありさまを描いた絵の中にも、馬小屋の中のヨセフとマリヤ、飼い葉桶の中で葉に包まれた赤ん坊のイエス様、そして、家族を見守るようにしている馬やロバ、といった構図のものがあります。このような絵は、なんとなくロマンティックな感じを与えるものですが、実際はどうだったのでしょうか。

○馬小屋という所

みなさんは馬小屋というものを見たことがあるのでしょうか。写真やテレビでなら見たことがあるという人が多いかもしれませんね。でも、写真やテレビは臭いがしませんね。実際の馬小屋というのは、馬の排泄物の臭いのたちこめた、決してロマンティックとはいえない人が寝泊りする所としては最低の場所なのです。

イエス様がお生まれになったのは、そのような所でした。イエス様は子なる神様であり、マタイ1:1-16のイエス様の系図にあるようにユダヤの有名な王であったダビデ王の血筋でした。本来ならば、大きな宮殿の絹のふとんの上に寝かされているのがふさわしい方なのです。しかし、イエス様は、人が生まれる場所としては最低と思われる馬小屋の中でお生まれになり、飼い葉桶の中に寝かされていたのです。

○ご自分を低くされて

以前(10月14日)にも学んだように、イエス様は子なる神様であるにもかかわらず、ご自分を低くされて、神様に仕えるために造られた人間と同じ身分になることを選びました。それは、私たちの罪を引き受けて、私たちの身代わりとして十字架にかけられ、私たちを天国へと導くためでした。

そして、イエス様は人として来られるにあたって、馬小屋という最低の所にお生まれになったのです。それは、私たち人間のどんな低い苦しい状態も受け入れてくださるためでした。

私たちの救い主は、高い所から「救われたかったら私の所まで昇っておいで」と言うような方ではありません。逆に、私たちがうごめいている低くてみじめな状態にまで降りてきて下さって、私たちを天に向かって押し上げてくださるような方なのです。言い方を換えれば、私たちは救われるために自分の力でイエス様の所へ昇って行くのではなく、イエス様が私たちを受け入れ包み込んで天国へと導いて下さるのです。自分の力では神様の前で何の良いこともできない私たちは、イエス様の力でしか救いに導かれる事はないのです。

○イエス様を拒むこの世

宿を探すヨセフとマリヤに「馬小屋でも良かったら」と言った宿屋の主人というのは、決して親切心から馬小屋を貸したのではないでしょう。少しでも親切心というものがあつたなら、今にも赤ちゃんが生まれそうなマリヤを衛生面でもとても赤ちゃんを産むような所では無い馬小屋に案内はしなかったでしょう。

イエス様は、お生まれになる時からこの世に拒まれていたのです。ヨハネ1:11にあるように、ことば=イエス様は、自分の民の所に来て、民は受け入れようとしなかったのです。生まれながらの私たちも、イエス様を拒もうとするものです。しかし、神様は私たちをこの世の中から選び、こうして教会に来れるようにしてくださいました。私たちはすでに、イエス様を受け入れることができるようにされているのです。その恵みに感謝して来週のコリントのクリスマスを喜んで迎えましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様。イエス様が馬小屋にお生まれになったのは、私たちのどんな低くて惨めな状態も受け入れてくださるためであることを学びました。私たちが、そのイエス様を信頼し、恵みに感謝してクリスマスを迎えることができるようにしてください。

テキスト ルカによる福音書2章8～21節

ベツレヘムにおけるイエスの誕生に続き、野宿している羊飼いたちにその誕生の告知がなされる誕生物語の後半です。「主の栄光が周りを照らす」中での荘厳な天使の告知と、それを受ける野宿の「羊飼いたち」が対照的に描き出されています。

(1) 羊飼いたち

イエスの誕生には様々な人々が登場しますが、ルカではイエスの誕生直後、まずこの「大きな喜び」が告げられるのは「その地方」の「羊飼いたち」でした。人々が「登録をせよとの勅令」で「おのおの自分の町へ旅立つ」中、「羊飼いたち」は「野宿」をし「夜通し羊の群れの番をしていた」のです。この人々は明らかにその教には入れられていない人々なのです。場所がなく、飼葉桶に寝ているメシヤの誕生告知はもっとも喜びを覚える人々に伝えられたのでしょう。

同時にこの「羊飼いたち」が福音の伝達者として選ばれます。彼らは「その光景を見て、・・・この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。」のです。これを聞いた人たちは「不思議」と思うほど、なにがしかの導きを覚え、マリアは「出来事をすべて心に納めて、思い巡らすほど深い意味をそこに感じ、また伝える本人たちも「見聞きしたことがすべて天使の話したとおり」なので「神をあげ、賛美」せずにはおれない内容だったのです。

(2) 天使の御告げ

さてその「羊飼いたち」への天使の御告げはマ

リアやヨセフと違って、非常に荘厳な形で行われました。第一に「主の栄光が周りを照ら」します。これはサウロの回心の出来事を想起させます。超自然的な神の介入です。

第二にこれは「民全体に与えられる大きな喜び」です。一個人の救いではありません。神の民全体のものです。大きな喜びとは「救い主」誕生のことですが、「この方こそ主メシア」（原文では「主キリスト」）なのだといわれます。「キリスト」とは油注がれた者を意味しますが、この「キリスト」が神である「主」その方であるということに強調点があります。「飼葉桶の中に寝ている」は探し出すためのしるしではなく、「この方こそ主キリスト」であることのしるしです。

そして最後に「この天使に天の大軍が加わり」「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」の賛美をなされます。この天の大軍とその賛美は御國の到来とその勝利が示されているのでしょう。ヨハネの黙示録に描かれる御國完成の姿を想起させるような壮大な賛美をもって天使が去ります。

こうして一方で「主の栄光」が周りを照らす中で非常に荘厳な「天使」の御告げと「天の大軍」による賛美がなされます。他方「野宿」の中の「羊飼いたち」と「飼葉桶に寝かせてある乳飲み子」の姿が描かれます。この非常に対照的な舞台設定こそ、神の救いと栄光を最大限に描き出し、それを伝え聞く者が賛美せずにはおれない喜びと感動を覚えるのです。

ルカによる福音書 2章8～21節

「羊飼いに告げられたクリスマスの喜び」

〔単元のねらい〕

降誕祭主日を迎えた。待ち望んだ、その日が来た。この大いなる喜びの日を、子どもと一緒に祝えることを先ず、感謝したい。そして、それだけに大喜びの理由をはっきりと証したい。羊飼いは、ユダヤ人から軽蔑された職業であったとされる。ある人は、この羊たちは神殿のいけにえとして使用されるための羊であって、神の子羊によって、もはや犠牲とされる必要がなくなったのだと言う。それはともかく、神がこの人々に御目を留められたことに心を打たれる。彼らを御心に適った者として、ご覧になる。夜でも見守っておられる。この人々にこそ、大いなる喜びが伝えられ、賛美を聞かせてくださる。なんという美しい物語、美しい御心であろうか。天と地、子どもたちどうしが喜びを響かせる礼拝式を。子どもの回りの人々へ喜びの響きがこだまする礼拝式を祈り求めよう。

クリスマスおめでとうございます。イエスさまは僕たち私たちのために今から 2001 年前に人間となってお生まれ下さいました。今日はそのクリスマスのお祭りの日です。イエスさまのお誕生日に「クリスマスおめでとうございます」と言うのは、誰に向かって言うのでしょうか。イエスさまに向かって言うものではありません。これは、僕たち私たち、お互いに言うのです。あなたのためにイエスさまがお生まれ下さいました。天のお父さまの独り子イエスさまによって、僕たち私たちも、神さまの子どもとなることができるようになりました。だから、「クリスマスおめでとうございます。」と言うのです。今日、世界中で、この驚敵な挨拶がかわされています。皆も今一緒に、隣のお友達に、「クリスマスおめでとう」と言ってみてください。イエスさまによって、隣のお友達も神さまの子どもにしていただいたからです。イエスさまを信じているお友達は、「クリスマスおめでとうございます。」と言われたいし、他のお友達にも言ってあげてください。それは、イエスさまのためではなく、僕たち私たちのためです。(一分ほど)

どうでしたか、皆の心はどのようになったかな。嬉しくなりませんでしたか。心の中に喜びが湧いてきませんか。僕たち私たちは、主イエスさまによって、罪を赦され、神さまの子どもにしていただいたのですから。

さあ、イエスさまが家畜小屋でお生まれ下さった最初の夜のことです。ベツレヘムには、羊飼いがたくさんおりました。羊飼いさんたちは、その頃、人々から尊敬されていませんでした。神殿に入って礼拝することも許されず、その言うことは、信用できないとさへ思われていたのです。しかも、ここに登場するのは、夜通し働いている羊飼いです。人間は夜じゅう起きているのは大変です。朝も夜もずっと起きていられる人は一人もいません。だから、この人達は、朝に寝て、夜にお仕事をやる羊飼いさんたちです。狼から、羊を守るのが彼らのお仕事です。とても怖くて大変なお仕事です。

いつものように、夜空をながめながら、狼が来ないかどうか、心をくばっていました。その時です。突然、光が輝いて彼らを照らしました。びっくりしたのは、羊飼いさんたちです。とても、怖がりしました。誰だつて怖かったでしょうね。でも、それは、神さまからの光でした。天使は言いました。今日の暗唱聖句です。皆で声を揃えて言ってみましょう。「恐れるな。わたしは民全体に与えられる大きな喜びを伝える。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」その意味はこうです。「羊飼いさんたち、怖がる必要はありません。実は、今日、とても嬉しいお知らせを告げるために、神さまのところからやって来たのです。この知らせを聞いたら、信じたら、あなたがたは大喜

びに喜ぶに決まっています。なぜなら、今日ダビデの町で、あなたがたを救って下さる方、あなた方を神さまの子どもとしてくださる、その方がお生まれになったのです。その赤ちゃんは、飼葉桶の中に眠っておられます。』

この声が終わると、教えることも出来ないくらい天使たちが現れて、声高らかに賛美歌を歌いはじめました。それはそれは美しい音色、美しいことばでした。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」羊飼いさんたちはうっとりしながら聞いていました。そして、心の中に、喜びがふつつつと湧いてきたのに気がつきました。「ああ、天の神さまは、こんな俺たちを見ていてくださったのだ。羊さへ眠っているこんな夜中、起きてるのは俺たちだけだと思っていた。ところが、神さまは俺たちのことを見守っていてくださったんだ。誰よりも、俺たちにこんな素晴らしい知らせを、伝えてくださったのだ。なんで俺たちだけ、人から軽蔑されたり、辛い仕事をしなけりやならないのかって、神さまに文句を言ったこともあるのに、神さまは、俺たちを愛してしてくれたんだ。こんな俺たちの事を、『御心に適う人』神さまに愛されている人って見ていてくださったんだ。なんて、嬉しいんだ。なんて有り難いんだ。」

皆は、言いあいました。「よし、今から、主なる神さまが教えてくださった俺たちの救い主を拝みに行こう。」こうして、彼らは、家畜小屋を見つけて、イエスさまに出会ったのでした。それは、まったく天使が教えてくれた通りでした。羊飼いさんたちは、神さまを心からあがめ、賛美しながら羊たちがいる所に戻って行きました。

どんな賛美歌を歌ったのでしょうか。クリスマスには、クリスマスの賛美歌をいっぱい歌います。この時の、羊飼いさんに負けないように、僕たち私たちも歌いましょう。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」そして、僕たち私たちも、決して神さまに見守られていることを忘れないようにしましょう。神さまは僕たち私たちを救おうかどうしようか迷っておられません。神さまの御心は僕たち私たちがイエスさまを信じて救われることなのです。天のお父さまは、僕たち私たちが神さまの仲良くなって、神さまの子どもとなることを、喜んでくださるのです。だったら、僕たち私たちも、大喜びで、感謝の歌を歌いましょう。そしてあの羊飼いさんたちのように、クリスマスの喜びを人々に伝えましょう。「クリスマスおめでどう。」って、お家の人に告げてあげて下さい。お友達に伝えてあげてください。

今週の暗唱聖句

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

ルカによる福音書 2章 10 - 11節

〈目標〉

羊飼いや天使が現れた箇所のお話しを通して、イエス様のお誕生の喜びを味わう。

〈展開例〉

クリスマスおめでとう。今日は待ちに待ったクリスマス！ アドベントカレンダーの最後の扉を開けてみよう。

この人達は誰かな？ 今日のお話しに出て来た羊飼いやさん達ですね。皆が眠っている真夜中、羊飼いやさん達は、いつもどおり寝ないで羊の番をしていました。そこへ突然、天使が現れてイエス様のお誕生を知らせてくれたのです。そして天の軍勢も現れて、「天には、栄光、神にあれ。地には平和、御心にかなう人にあれ」と賛美しました。どんなに嬉しかったでしょう。羊飼いやさん達は心はずませて、イエス様のお顔を見にベツレヘムの町

に出掛けたのです。

今日は、その喜ばしいクリスマス。お母さんやお父さん、お友達にも「クリスマスおめでとう」を言って、心からイエス様のお誕生をお祝いしましょう。

〈お祈り〉

天の父なる神様、私達のために生まれてくださったイエス様のお誕生日、クリスマスありがとうございます。皆と心からお祝い出来ますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉出てくる絵本

用意する物

画用紙、定規、カッター、ペンなど

※ 132,133 ページに掲載しました。

〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・羊飼いのお仕事は大変です。とても寒い上、夜通し、狼から羊を守るため目を覚ましていなければなりません。
- 本 ・よきおとずれの知らせは、まず最初に羊飼いに告げられました。羊さえも眠る真夜中にも、神さまの暖かい愛の眼差しが、羊飼いたちに注がれていたことを知り、その知らせに喜び踊ります。
- 「主メシア、救い主がお生まれになった」
- 結 ・「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」。
- 天の栄光、平和がイエスさまを通して地に現わされました。
- クリスマス、おめでとございます。
- ・神さまの愛のプレゼント、イエスさまを救い主として心の中心にお迎えしましょう。

〈やってみよう〉

- ブッシュ・ド・ノエルを作る -

- 材料 ・ロールケーキ (2本)
 ・生クリーム (1カップ)
 ・砂糖 (20グラム)
 ・ココア (大さじ2)
 ・フォーク、ナイフ
 ・溶けない粉砂糖
 ・飾り (ヒイラギの葉・実)

作り方

- ・切り株のように、ココアホイップクリームでつなぐ。
- ・ナイフで塗って、フォークで木肌を描く。
- ・粉砂糖をふり、ヒイラギの葉などを飾る。
- ・クリスマスの恵みを話しながら、みんなでおいしくいただきます！

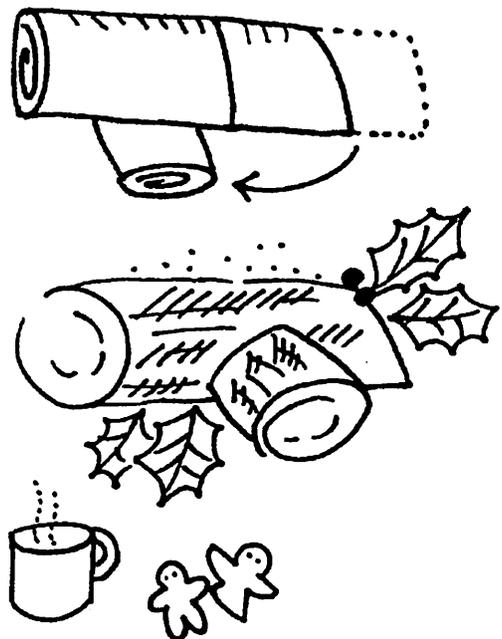
伝言板

あるクリスマスの集会で、イエスさまのお誕生についての聖書のお話をしていた宣教師の先生がお話の途中で、お財布から一万円札を取り出して、「この一万円札が欲しい人は手を挙げて下さい。その人にあげます！」と言いました。「本当のお金かな・・・？ 偽札かもしれない」と疑う人もいました。「手を挙げるのが恥ずかしい」とためらう人もいました。

誰よりも早く「ハイ！！」と手を挙げた高校生の子に、先生は「はい、どうぞ！」と一万円札をあげました。そして言いました。「神さまは、私たちにイエスさまという救い主をプレゼントしてくださいました。あなたは、そのプレゼントを喜んで受け取りますか？ それとも断りますか？」

救い主を、今日、心にお迎えしませんか。

ロールケーキ二本



〈目的〉

クリスマスの意味を子どもたちと分かち合う。

〈指導上の心得〉

教師自身がクリスマスの意味をもう一度覚え直し、感謝を持ってこの日を迎えるつもりで。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・クリスマスとは何の日か。
- ・主イエスは何のためにこの世に来られたのか。
(最初から罪の救済のための十字架を目的としてこられたことを語る。)
- ・それは、人々にとって大きな喜びであること。
- ・その最も大きな喜びが、位の高い者ではなく、最も低い者に伝えられた事実を伝える。
- ・最も低い者は、私たち自身であり、救い主がおいでになったことは、私たち自身にもたらされた大きな喜びなのである。

〈ワーク〉

1. クリスマスって何の日かな？
2. イエス様がお生まれになったことが最初に伝えられたのは誰でしょう。
 - a) 東の国の博士たち
 - b) 羊飼い
 - c) ポンテオ・ピラト
 - d) ヘロデ王
3. イエス様がお生まれになったことは、なぜ大きな喜びなんでしょう？
考えて書いてみよう。
4. ルカ福音書 2:10-11 を書いて覚えよう！

答え 1. イエス様がお生まれになった日 2. b
3. 私たちの罪を救し、救うためだから

〈目標〉

クリスマスを楽しむ。

〈指導上の心得〉

クリスマスの喜びを手作りカードにこめよう。

〈展開例〉

「クリスマスカードづくり」

- ①色画用紙をカード大に切る。
- ②スチレン皿や厚紙やダンボールなどを、リボン、星、ツリー、教会、ベルなど、好きなかたちに切って、スタンプの型にする。
- ③できたスタンプ型をフィルムケースの底に貼り、スタンプとする。
- ④カード用紙にできた型を押し（絵の具や市販のスタンプ台を使用する）、御言葉「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」を書く。

- ⑤贈る相手に対する祝福の言葉を書く。「クリスマスおめでとう」「神の祝福あれ」など。
- ⑥できたクリスマスカードは、子供たちの中で交換し合ってもよいし、教会に誘ってみたいお友達に贈ってもよい。教師は、事前に、全員に贈るクリスマスカードを用意しておきたい。

〈祈り〉

まことの神様。友への願いを込めて、素敵なカードをつくることができ、ありがとうございました。クリスマスの神さまの勝利を、多くの人々に伝えていくことができますように。

〈目標〉

クリスマスの喜びを一番最初に伝えられたのは身分の低い羊飼いたちであった。イエス・キリストの誕生は神様の選ばれたすべての民のためであることを学び、クリスマスの喜びを分かち合う。

〈展開例〉

今日はいよいよクリスマスです。今では、世界中の多くの人々が救い主が来てくださったことを喜び、お祝いしていますが、この世で一番最初にクリスマスを祝ったのはどんな人たちだったでしょうか。

○羊飼い

それは、ルカ 2:8-21 にあるように、野宿していた羊飼いたちでした。羊飼いというのは、羊を草原で放牧して育てるのが仕事の人たちで、私たちはなんとなく牧歌的な仕事のように思っています。しかし、本当はそんなまよさしい仕事ではなく、暑さ寒さの中で野宿をしたりして狼などから羊を守らなければならない、今で言う 3K（きつい、きたない、きけん）な仕事だったので。ですから、羊飼いに進んでなりたいと思う人はほとんどない、どちらかというときげすまれた職業なのです。イエス様がお生まれになった時というのは、ルカ 2:1-2 にあるように、住民登録の調査が行なわれており、みんな自分の故郷に帰らなければならなかったのですが、羊飼いたちはその中で変わらず野宿をしていました。彼らは、住民登録の中に入れてもらえないような人々だったので。

○羊飼いと飼い葉桶の救い主

そんな羊飼いたちに、天使は救い主のお誕生を最初に知らせました（ルカ 2:8-14）。このことは、先週学んだ、イエス様が馬小屋という赤ちゃんを産む場所としてはおそらく最低の場所でお生まれになったことと無関係ではありません。神様でありながらご自分を低くされて人となり、しかも馬小屋というみじめな場所にお生まれになった救い主は、まず最初に、住民登録の数にも入れてもらえないような羊飼いたちに、救い主と出会う喜びをお与えになったのです。

また、羊飼いたちがイエス様に会ったのは、彼らが救い主を探していたからではありません。彼らが求めたのではなく、まったく一方的に神様からの御使いがつかわされて、彼らをイエス様の所へと導いたのです。神様は、世の人たちには数にも入れてもらえないような羊飼いたちを選び、救い主のもとへと導いてくださいました。そして、私たちの救い主は彼らを受け入れ、最初の恵みを与えて下さいました。そのように、神様は、私たちに何一つ良い所がなくても、私たちを選び、聖霊をお与えになって救い主への信仰へと導き、イエス様は私たちを受け入れ、十字架の救いの恵みを示して下さいます。

○クリスマスの喜び

飼い葉桶の中のイエス様に会った羊飼いたちは、イエス様について天使が教えてくれたことを人々に知らせた（ルカ 2:17）と書かれています。そして、彼らは神様を讃美しながら帰っていききました。羊飼いたちが神様から天使を通して知らされ、その目で見たこと、救い主がお生まれになったことは、人々に語らずにはおられない、ほめたたえて歌わずにはいられない、素晴らしいことでした。神様は、もつとも低い人々に、クリスマスの喜びを伝える働きをもお与えになりました。

私たちも、クリスマスの喜びを周りにいる人たちに伝えることのできる恵みを与えられています。馬小屋で生れ、飼い葉桶の中に寝かされていた、その赤ちゃんが私たちにしてくださった素晴らしいこと - 私たちを天国に導いてくださること - を、このクリスマスの時に、あなたの友だちに伝えて、一緒にクリスマスの讃美歌を歌いましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、私たちの救い主、イエス様がお生まれになったクリスマスです。神様が羊飼いを最初に選んで救い主のお生まれになった喜びをお示しになったように、私たちも心からクリスマスを喜ぶ事ができ、友だちに喜びを伝えることができるように導いてください。

テキスト

詩編 103 章

歌い出しと最後に「わたしの魂よ、主をたたえよ。」と繰り返すように、神への感謝を真心から捧げる美しい詩編です。この詩編を通して私たちも主をたたえて感謝を捧げたいと思います。

この詩編には「わたし」のほかに「虐げられている人々」「イスラエルの子ら」「わたしたち」「御使いたち」「主の万軍」「造られたものすべて」というように様々な人や使いが出てきます。そうした主語や呼びかけている相手、それから歌い上げている内容を混同せずに読んでください。

1～2節は「わたしの魂よ、主をたたえよ」とわが身に呼びかけて、全身を神に直面して賛美を始めます。

3～5節は個人の感謝です。「お前」とは「わたしの魂」のことを指しています。「罪の赦し」「病の癒し」「命の贖い」「慈しみと憐れみの冠」「良いものに満ち足りる」こうしたものを「お前」に与えられたのが「主」であるという告白です。諸々のものが挙げられているように、主のわたしに対する愛には欠けるところがありません。「わたしの恵みはあなたに十分である。」(コリント二12章9節)「この四十年の間、あなたのまとう着物は古びず、足がはれることもなかった。」(申8章4節)

6～9節はイスラエルの歴史に顕わされた神の恵みを回顧してうたいます。「虐げられている人」とは「イスラエルの子ら」を指しているでしょう。捕囚において神の「怒り」を体験するものの「とこしえ」のものではなく「恵みの御業と裁き」を行われ、モーセのときの出エジプトの出来事の

ように「ご自分の道と御業」を示してくださいました。

10～14節では「わたしたち」と名乗り、「わたし」が今属しているイスラエルの味わった恵みをうたいます。特にここでは「罪に応じてあしらわれることなく」とうたって、おそらく帰国を通して罪の赦しを味わっているのでしょう。罪を告白して「主を畏れる人を主は憐れんでくださる。」のです。

「わたしは、高く、聖なる所に住み、打ち碎かれて、へりくだる霊の人と共にあり、へりくだる霊の人に命を得させ、打ち碎かれた心の人に命を得させる。」(イザヤ57章15節)

15～19節では草のような人の生涯と世々とこしえにおよぶ主の慈しみがうたわれています。イザヤ40章6～8節参照。

そして最後20～22節に「御使いたちよ」「主の万軍よ」「主に造られたものはすべて」とそれぞれに呼びかけて、壮大に主の賛美をうながし、再び「わたしの魂よ、主をたたえよ。」と自分自身に戻って主を賛美します。

こうして自分に神の愛が欠けることなく注がれていること、イスラエルの歴史に神様は恵みを現されたこと、さらにそれは今までの歴史の回顧に留まらず、イスラエルに属する自分の最近の体験においても同じように恵みを体験したこと、人は草のように移ろいやすくはかなくても、神は変わることなく慈しみをもって臨んで下さることを切々とうたいあげています。最後再び自分の言葉で主をたたえて、詩を閉じています。

詩編 103 編

「一年の感謝」

〔単元のねらい〕

本日は、本年最後の主日礼拝式となる。筆者の日曜学校では、毎年、この礼拝式では「暗証聖句大会」を行う。一年間暗唱した聖句を全て振り返って行く。暗証聖句によって、一年の礼拝を振り返ることができる。実に 52 の聖句を学んだことになる。さらに加えて、今年の礼拝式では、カテキズムの暗唱にも挑戦することとなろう。問 25 までを味わいながら。その後は、短く合同分級をする。遊び、ゲームを取り入れながら。それぞれの日曜学校で、一年の締めくくりとなるふさわしい礼拝式が捧げられますように。

今日は、今年 2001 年最後の礼拝式です。多くの詩を作って神さまを賛美したダビデさんは、こう歌っています。「わたしの魂よ。主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって 聖なる御名をたたえよ。わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」皆で声を揃えて、暗証聖句を読んでみましょう。「わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」ダビデさんは心の底から何をしていますか。主なる神さまを讃えています。自分自身の魂、心に向かって命令します。「神さまを讃えなさい。力の限りに、声のかぎりに、心の奥底から、僕たち私たちの神さまを賛美し、感謝しなさい」と言っています。主の御計らい、つまり、神さまが今までしてくださった良いことを何ひとつ忘れてはならないと言います。

昔、夏のキャンプで少女ポリアンナのお話をしたことがあります。ポリアンナは、自分の生活の中に、「良いこと、感謝なこと」を幾つでも探すことができた女の子です。キャンプの間、皆に、「感謝できること」を数え上げてもらいました。ダビデさんも、神さまに与えていただいた、「良いこと、感謝なこと」を数えることが得意です。そして、それを忘れないで感謝し続けることも得意です。ポリアンナもダビデさんも神さまを信じているから、そうできるのです。僕たち私たちも、今日、この一年間を振り返って幾つ感謝できるか、良かったことがあったかを数えて見てください。そのような競争は、素晴らしいですよ。感謝の競争です。

先生が、一番神さまに感謝したいことは何だと思いませんか。先生は、一番の感謝は、皆と休まずに、教会に来て、礼拝を捧げられたことです。去年はいなかったお友達が、今年一緒に礼拝を捧げることができたことです。キャンプにも一緒に行きました。一人ひとりが神さまの御言葉を聴いて、イエスさまとお祈りできるようになりました。「天のお父さま」って呼ぶことができるようになりました。これ以上に嬉しいことはありません。

皆は知っていますか。日曜学校の先生は皆、毎週毎週、僕たち私たちのことを覚えてお祈りしてくれていました。先生たちは、忙しくお仕事をしながら、でも、みんなのために分級のお話や、工作の準備をしてくださっていました。皆も、分級の先生に「ありがとうございます」って、言って下さい。先生たちは、皆に、もっともっとイエスさまを知って欲しい。イエスさまを信じてほしい。救われて神さまの子どもとなって欲しい。天のお父さまってお祈りができるようになってほしい。イエスさまのお名前によってお祈りする喜びを知って欲しい。イエスさまの愛を知って、もっともっと喜びにあふれて欲しいとお祈りしています。先生たちは、それが天のお父さまの喜ばれることを知っているから、日曜学校のご奉仕は大変ですけど、それを喜んでいるのです。

けれども、先生は日曜日の礼拝式の時に、感謝と喜びと同時に、心の中でいつも思うことがあります。まだまだ、この地域にはお友達が一杯いる、

その子どもたちは、イエスさまのことを教えてあげる人はいないのかな、イエスさまは、日曜学校に来ていない大勢のお友達のことでも愛しておられるはず。でも、ここに来るのは、まだまだ少しだけ。皆と礼拝する喜びと同時に心が痛みます。

皆はどうですか。学校のお友達に今年、何人「日曜学校と一緒にいこうよ。楽しいよ」って誘えましたか。誘うことができたお友達もいるでしょう。でも、誘うことができなかったお友達もいるかもしれません。「来年、お友達を誘えるように」って神さまにお祈りしませんか。「勇気を与えてください」ってお祈りしましょう。そして、誘っても来てくれなかったと行って悲しい思いを持っているお友達もいるでしょう。でも、声をかけて来てくれなくても、必ず神さまは、そのお友達の優しい心、神さまを思う心をお忘れになりはしません。見ておられます。だから、きっと良いときに、そのお友達も来てくれるでしょう。たとえ来てくれなくても、声をかけてあげたことが、神さまの栄光を表すことなのです。でも、「これまで何度も誘っても、ぜんぜん駄目だ、もう自分だけ来ていれば良いんだ」と考えてしまっているお友達もいるかもしれません。どうぞ、あきらめないで誘って下さい。イエスさまの愛を伝えてあげてください。先生たちは、その子の事を知りません。

お友達になれません。誘えません。皆のお友達や兄弟、お父さんお母さんに、イエスさまを伝え、教会に誘えるのは、皆しかないのです。どうぞ、まだイエスさまを知らないお友達の為に、兄弟のために、家族のためにお祈りしましょう。そして、分級の先生に、お祈りしてもらって下さい。先生に、お祈りしてもらいたいことがあれば、何でも、どんどん言ってください。先生たちは、とても嬉しいのです。だって、皆のためにお祈りしているのだから、もっと熱心に、もっともっと具体的に皆のためにお祈りしたいと思っていてくださるのです。心から待っています。

最後に、皆でお祈りしましょう。先生のお祈りの後について皆で声を揃えてお祈りしましょう。「愛する天の父さま、この一年間、毎日毎日、僕たち私たちを神さまの子どもとして見守っててくださいました。必要なものを与えて、助けてくださいました。心から感謝します。けれども、ときどき神さまを忘れてしまうこともありました。そのほうが多かったと思います。お赦し下さい。新しい年も、もっともっと神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光をあらわせますように、日曜学校でイエスさまを礼拝できますようお願いいたします。このお祈りをイエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。」

今週の暗唱聖句

わたしの魂よ、主をたたえよ。

主の御計らいをなにひとつ忘れてはならない。

詩編 103 編 2 節

〈目標〉

一年間の嬉しかったこと、楽しかったことを思い出して、神様に感謝する。

〈展開例〉

行事の時の話をしたり、写真を見たりしながら、嬉しかったこと、楽しかったことを思い出してみる。

(視覚教材や工作で作ったものを持ち出して、どんなお話だったか思い出したりするのも良い)

〈歌〉『こどもさんびか』(日本基督教団出版局)

85番「かみさまにかんしゃ」

一部分に、言葉をいれて感謝を表す。

〈お祈り〉

天の父なる神様、一年間いつも一緒に居て下さり、ありがとうございます。また来年も、みんなそろって教会に来られますようにお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。
アーメン。

〈工作〉メダル

用意する物

画用紙、色画用紙、シール、リボン、

はさみ、穴明けパンチ、のり、ペンなど

子どもの似顔絵や写真を貼ってメダルを作る。

○一年間、教会に来たことを褒めてあげよう。

一人一人に声をかけながら、メダルをかける。

◎ メダルの周りに、女子好きなシールを
はさみで、お気に入り
メダルに仕上げる。



〈礼拝説教のおさらい〉

- 序 ・ダビデはたくさんの詩を作って神さまを賛美しています。嬉しい詩だけではなくありません。悲しい詩、苦しい詩、情けない詩・・・、詩の始まりはそうでも、最後は神さまを讃える賛美に変えられています。
- 本 ・「わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」
 ・ダビデは、自分の弱さと無力さを知れば知るほど、神の恵みの大きさを知りました。神の恵みに生きる喜びに満ちあふれています。
- 結 ・私たちもダビデに負けないくらいに、神さまに感謝して、神さまを賛美しましょう。

*一年の恵みを数えましょう。

----- 伝言板 -----

この一年間をふり返ってみて、どうですか？
 小学校に入学したばかりのお友だちもいるかもしれません。二年生になって背が高くなったお友だちもいますか。お休みしないで日曜学校に来れたお友だち、よくがんばりました。お友だちをさそって、一緒に来れるようになって嬉しいお友だちもいることでしょう。

みんなで神さまに感謝することは、とても楽しいですね。神さまの恵みを一つ一つ数えてみましょう。感謝できない・・・と思うことも、中にはあるかもしれません。そのようなつらいことがあったときほど、神さまはより近く、あなたのことを支えていてくださったことを、感謝してください。今、感謝できないことも、いつかきっと、大きな恵みであったことを知ることができます。

「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」

〈やってみよう〉

- 賛美大会 -
 ・今年、賛美した曲をメドレーで賛美しましょう。
- 暗唱聖句大会 -
 ・今年、暗唱した御言葉のところどころを隠して言ってみましょう。
 ・暗唱聖句を上半分と下半分に分け、混ぜたあと、上半分と下半分を正しく組み合わせる。
 ・自分の得意な暗唱聖句を一つ選んで発表しましょう。
- カテキズム大会 -
 ・今年、学んだカテキズム 25 までを、「問い」と「答え」に分かれて言ってみましょう。
 ・工夫しておぼえたカテキズムを発表しあいましょう。

*一年間、精勤できたお友だちを励まし、神さまに感謝しましょう。

*今年、新しく礼拝に導かれたお友だちを紹介しましょう。

*場所的にゆるされれば、手をつないで丸くなって、感謝の祈りを捧げましょう。

*新年も、神さまの豊かな恵みと導きに期待して別れましょう。

*「日曜学校だより」新年号などを準備して、新年のよいスタートをきるができますように。

〈目的〉

一年の感謝を共に分かち合う。

〈指導上の心得〉

神様がこの一年も守ってくださったという感謝を子どもたちと共に分かち合う。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・この一年で一番思い出に残っていることを子どもたちに聞く。
- ・この一年の、教会の行事について色々話し合い、思い出を語る。
- ・その、思い出をふまえて、思い出に残る楽しいことがあったことが神様の恵みと導きであることをしっかりと語る。
- ・一年の感謝の祈りを持って日曜学校の分級を閉じる。(お祈りできる子どもにも祈ってもらう)

〈ワーク〉

1. 一年間で一番覚えている思い出を書いてね。
 - ・学校やふだんの生活のこと
 - ・教会でのこと

神様は、みんなが楽しく元気に過ごせるように、一年間守って、導いてくださいました。そして、みんなの心に思い出が残るような、楽しいことも作ってみんなに恵みを与えて下さいました。
2. 神様に一年間の感謝の手紙をそれぞれの言葉で書いてみましょう。
3. 詩編 103 編を書いて覚えましょう。
来年まで覚えていられるかな？

〈目標〉

1年の恵みを感謝する。

〈指導上の心得〉

夏期キャンプ、イースター、クリスマスなどの写真、思い出の品、分級で作った工作サンプルなどを用意しよう。また、1年の分級記録をあらかじめ確認し、子供たちが思い出せるよう導けるようにしておく。また新聞はあらかじめレイアウトを決めておく。

〈展開例〉

「新聞作り」

- ① B4 か A3 版の用紙を使って、新聞を作ろう。
- ② 見出しは、「決定！今年の5大ニュース」とし、サブタイトルは、「主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない」とする。
- ③ 楽しかったこと、勉強になったこと、心に残っ

たことなど、今年を振り返り自由に語りあおう。

- ④ その場で、記事を書き、新聞を完成させたい。できるだけ、こどもたちが奮けるように導こう。また写真も貼るとよい。
- ⑤ 新聞が出来上がったら、コピーし、全員に配り、教会掲示板にも貼り出す。礼拝後の報告の場で、みんなに読んでいただくようアピールしよう。
 - * 近所にカラーコピーサービスがあれば、いろいろな色のマジックを使用したい。
 - * 教会に飾ってあったクリスマス工作をひとつの袋にまとめ、新聞を入れて、ひとりひとりに「がんばったね」と渡してもよい。みんなで作った絵などは、人数分を事前に写真をとっておき、袋に入れる。

〈祈り〉

天の父なる神さま。今年もさまざまなお恵みがありました。ありがとうございます。

〈目標〉

この一年、神様からいただいた恵みを振り返り、感謝の祈りを共にする時とする。また、祈る時に自分のことだけでなく、隣人のために祈る事を勧める。

〈展開例〉

今日の礼拝で学んだ、詩篇 103:1-3 見てみましょう。特に3節に「主の御計らいを何一つ忘れてはならない」という御言葉があります。

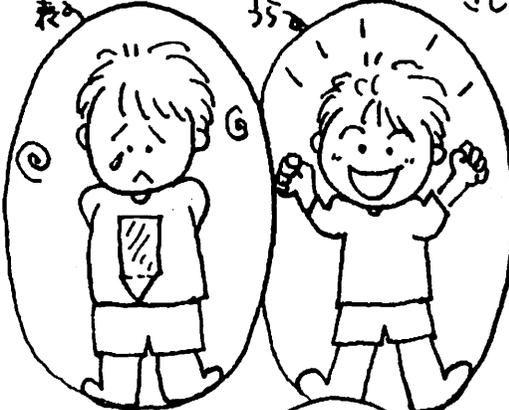
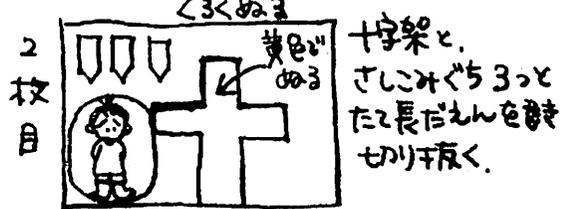
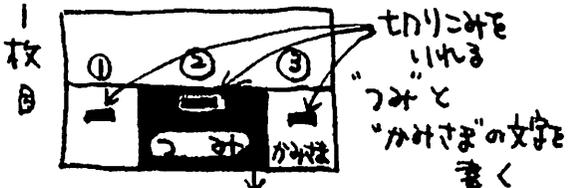
私たちは、神様からいつもいろんな恵みをいっぱいいただいています。以前にもお話ししたことがあります。神様のしてくださることは、私にとっては都合の悪いこともあるかも知れないけれども、すべてが「私の益」のためになるものです（ローマ 8:28）。そのことをおぼえて、今日はみなさんがこの一年神様からいただいたと思う恵みを書き出して見てください。そして、書き出してみたら、その恵みをみんなで発表しあい、恵みを分かち合いましょう。

もう一つ、みなさんが来年神様にしていただきたいことを考えて書いてみてください。それも、みんなで分かち合いましょう。

〈祈り〉

今日は、みなさん一人一人にお祈りしてもらいましょう。短いお祈りでいいですから、みなさんが今年一年にいただいた恵みの感謝と、来年の導きを祈りましょう。特に、来年のお導きについては、隣の人（あるいは前の人でも）の願いを神様が聞いて下さるように、お祈りしてあげてください。自分のためだけでなく、あなたの友人・隣人のために祈る事の恵みをいただきましょう。

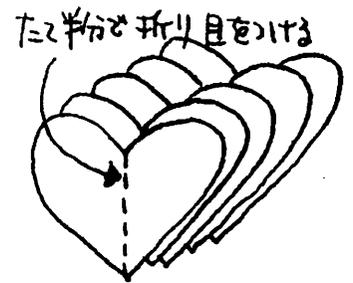
<視覚教材>...画用紙2枚 カッター 12枚目 色えんぴつ or クラヨン @ 読む=合わせて①から順に



- さしこみぐちのこの部分だけのりがけする。だんをの表方も同様にします。
- ①...表の面を見せる
 - ②...十字架をさしこむ
その道を通って③に行く
 - ③...うらの面を見せる

<工作>字のなま本...色画用紙(緑・黒・赤・白・黄)のり・はけみ

1. 5色の画用紙を同じ型に切る (左右対称の型)
※緑だけ少し大きめに作る
2. 黒右の方と赤左の方
赤"と白"
白"と黄"をのりつけ
緑を表紙ににして完成!!

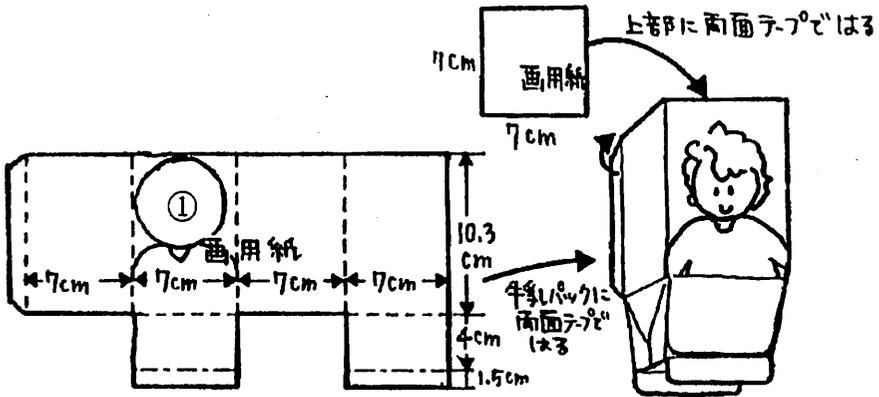


とじている状態
緑...成長(聖化)を現す色。

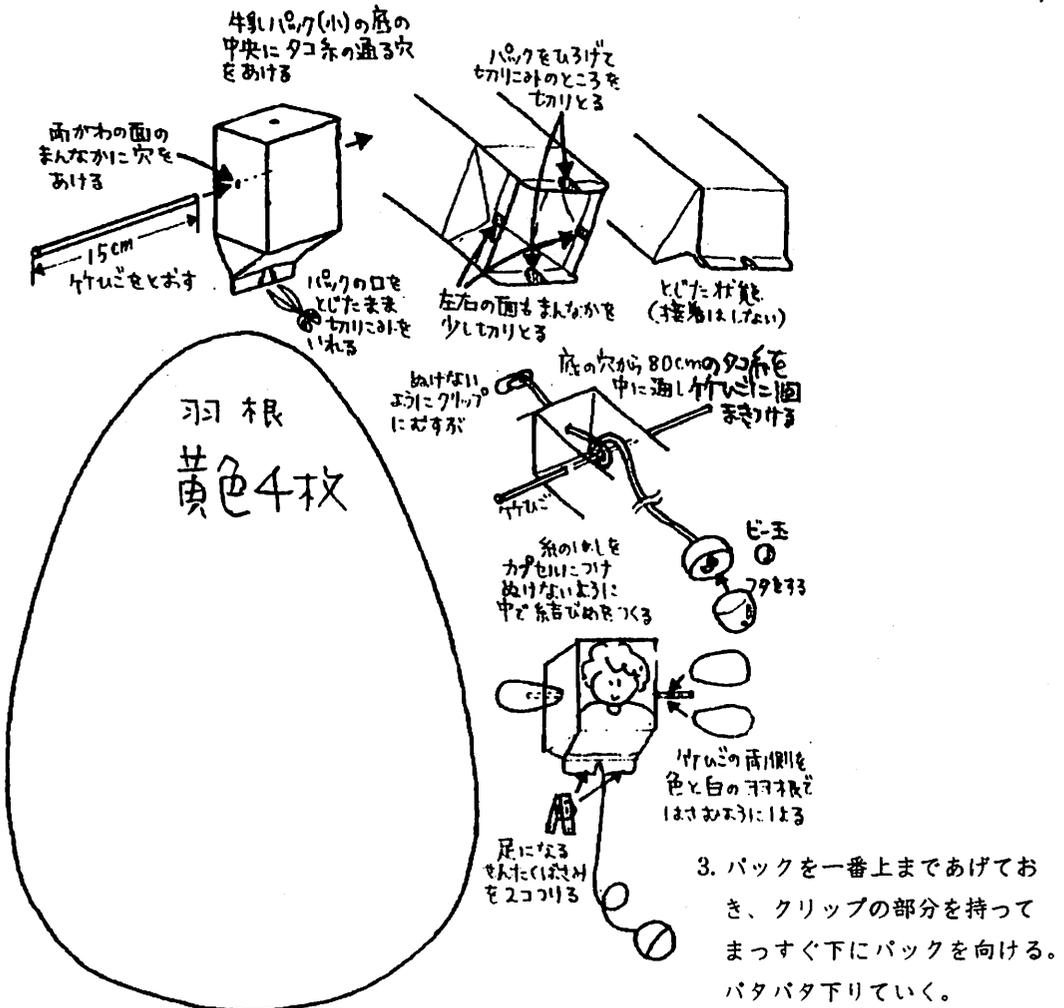
遊び方
①、②、③の順番に
「じのなまほん」を歌いながら、順番にぬくこと。



《10月14日分 幼稚科展開例（工作）》

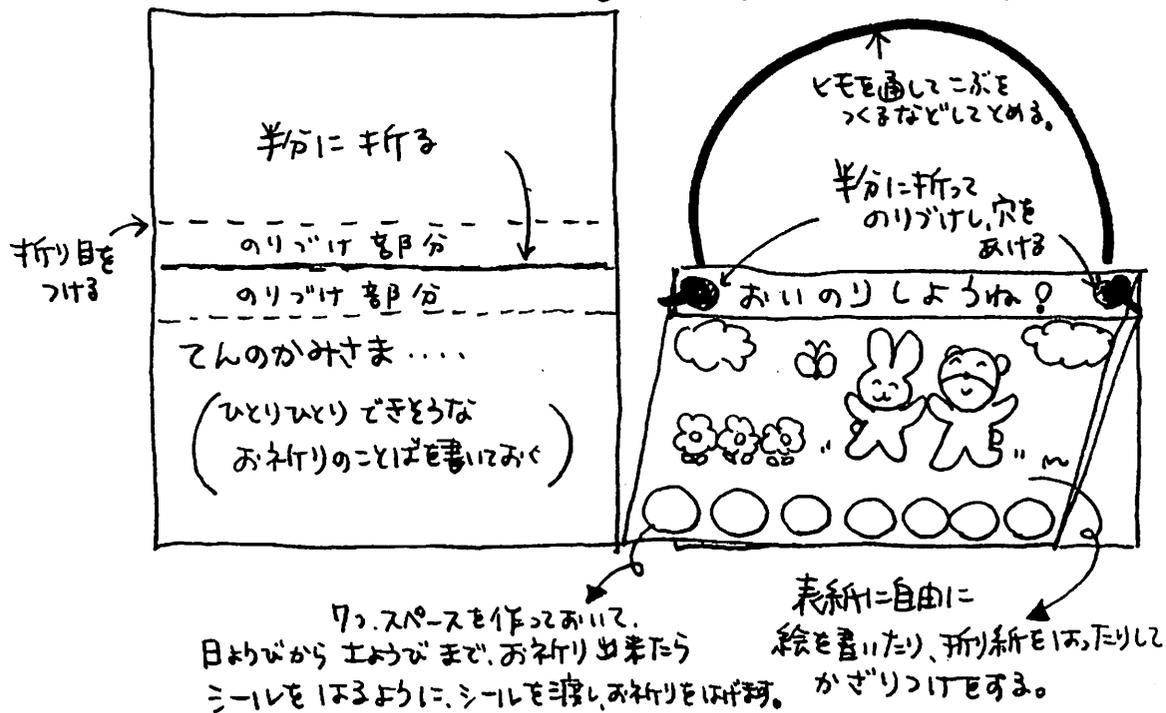


1. 画用紙と色画用紙を図のように切る。
2. ①の部分に天使の顔と上半身を描く。



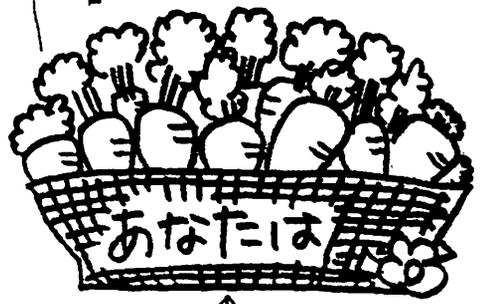
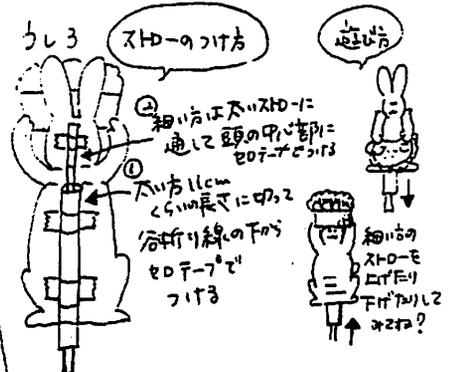
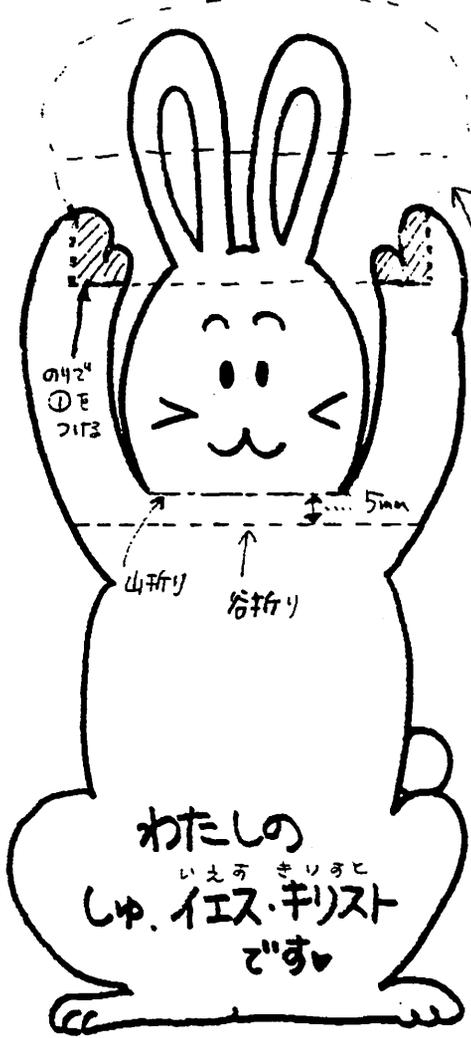
<歌> 友よ歌あうこ「3つの約束」のしぼんを、ポーズを付けながら歌う
 ♪ お祈りねね（アムアム）毎日お祈りねね（OK）11もイエスマキいてくねから ♪

<工作> お祈りカード ... 色画用紙 ひも（首にかけるもの）シール（1人7つ）
 のり はさみ 色えんぴつ クレヨン ペン 色糸など

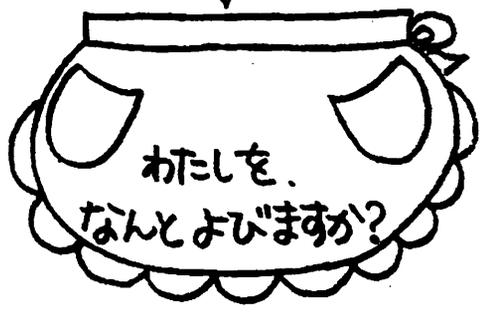


《11月4日分 幼稚科展開例（工作）》

《制作》 元日にあそび「ハイ」うさぎ... 色画用紙 ストロー2種類(太細) 207-7°



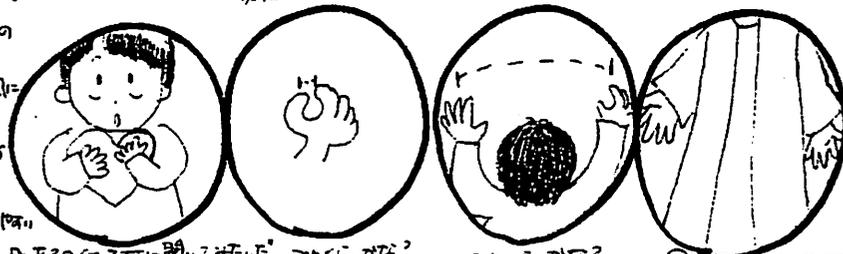
① 1枚の紙の表と裏に書いて下さい



《11月11日分 幼稚科展開例 (歌、工作)》

《歌》 工作して、元日に贈るおもしろいプレゼントは「両手いっしょの愛」に作られています。

歌の歌詞の
かたりに
ペーパー+画
紙のカードを
作る見本
を、歌と
一緒に渡す。



♪ 両手いっしょの愛に作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。どのおもしろいプレゼントに作られていますか？

これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。

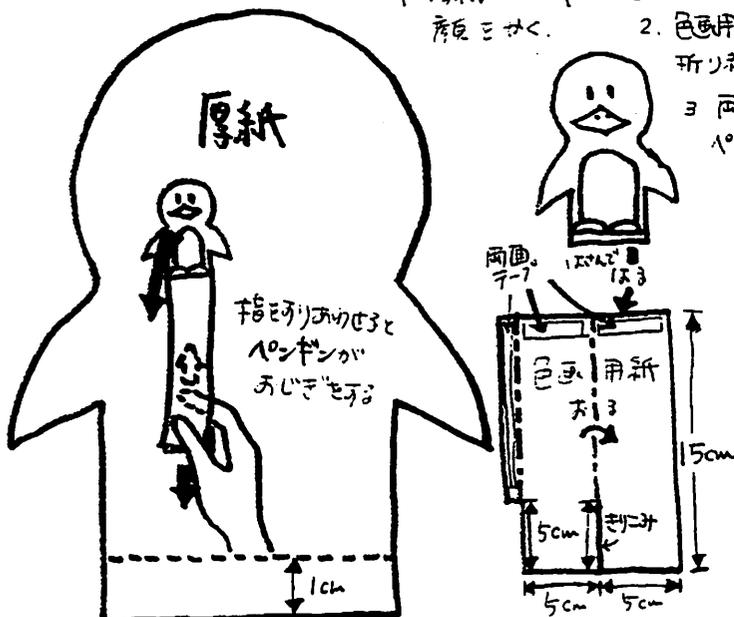


このおもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。

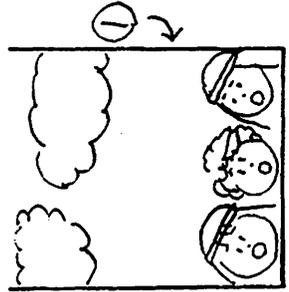
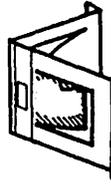
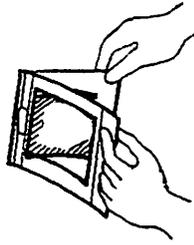
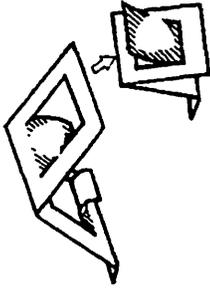
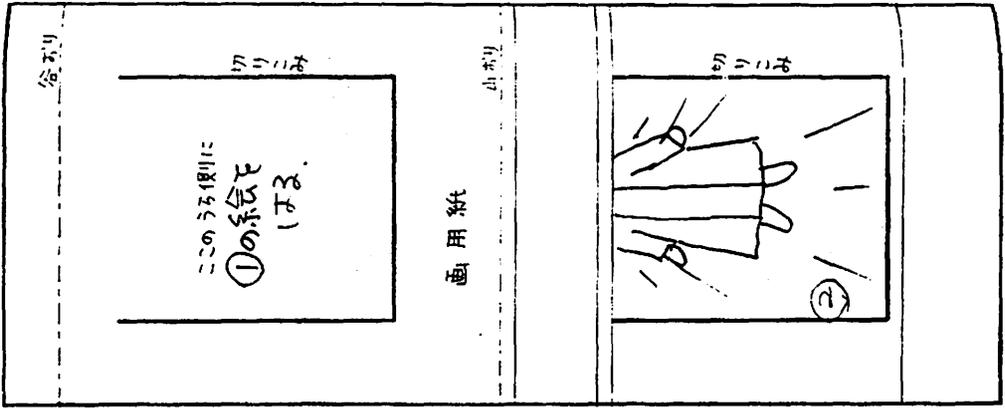
これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。これは、おもしろいプレゼントに作られています。

《工作》 ありがとう神集 (おじきおじき) ... 厚紙 色画用紙 1枚 18cm 両面テープ

1. 厚紙にペンギンの型をうつして切りぬき色をぬく。
2. 色画用紙を2枚のつりに切り取り折り線をつける。
3. 両面テープを18cmの幅で貼る。



《11月18日分 幼稚科展開例（工作）》



1. 画用紙に型をかき、絵を書く

2. 切りこみを入れる。

3. 折り線である。

4. 切り込みに対同士を組合わせ

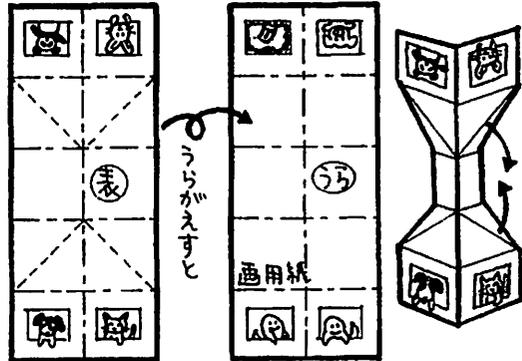
①の上にはTの字のように重ねて

T=Tで。

5. 後ろの紙を上にはきあげ

絵をかえる。

(①には、雲におおわれてしまった
 仮さまを、見つけた弟さんたち
 ②には、天に昇らぬ子イースさま)



型紙をコピー機で
画用紙にうつし色をぬる(コピーしてはありあ
わせる場合は表・うらがいのようになるように)



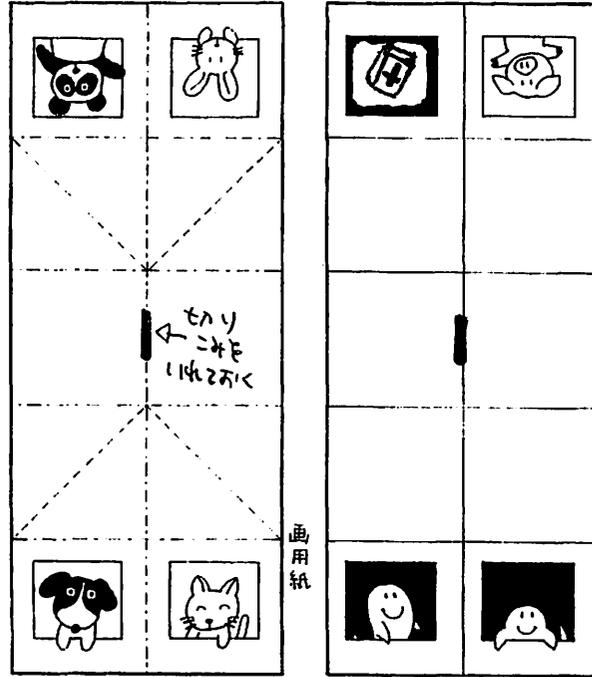
いろいろたみかえ
まが物のくあわせ
を交えてみよう



せいろは
見か
かな?

型紙 a

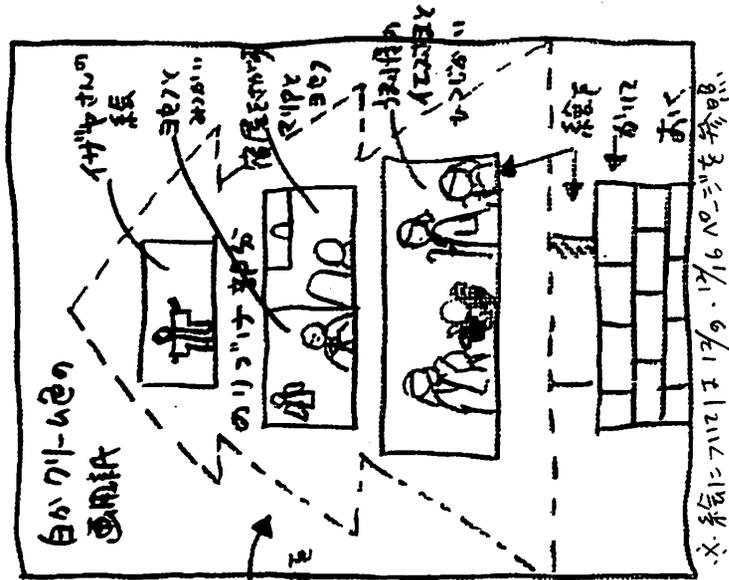
拡大コピーしてください。



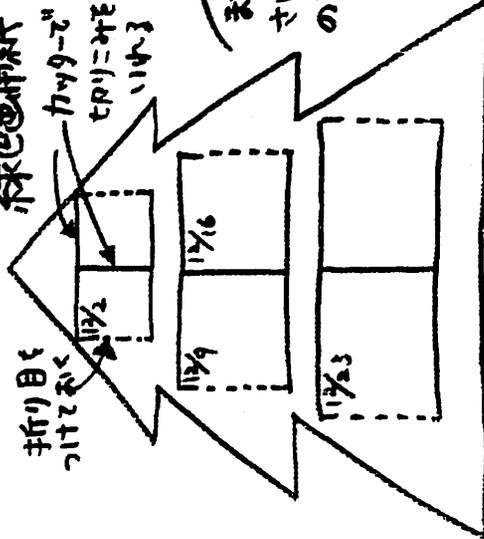
色画用紙で
十字形をつくって置く。
屋根の中央セリニキのところに
さしこみ、のりがけする。
(セリニキをいれこく)。

《12月2日分 幼稚科展開例（視覚教材、工作）》

〈視覚教材〉… 画用紙・色画用紙・のり・はさみ・カッター・定規



緑色画用紙

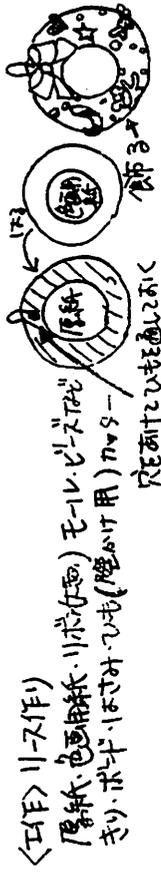


まどい部分を
さけて
のりかけ
ます。

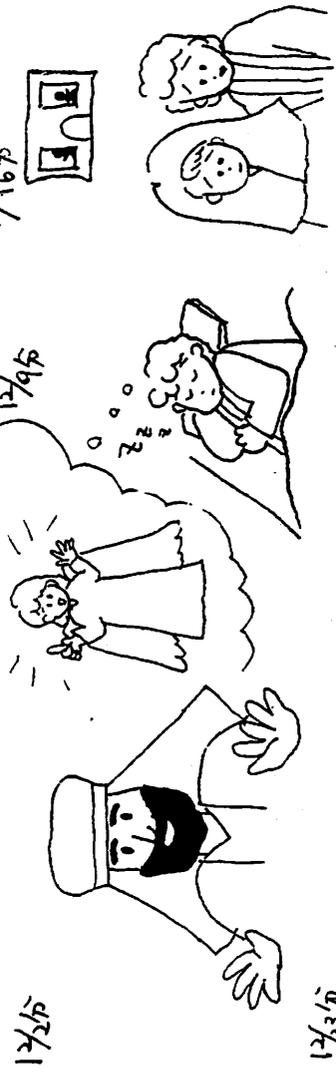
〈工作〉 アドバンタカードを
飾ります。

… 色紙・ビーズ・モールなどで飾ります。

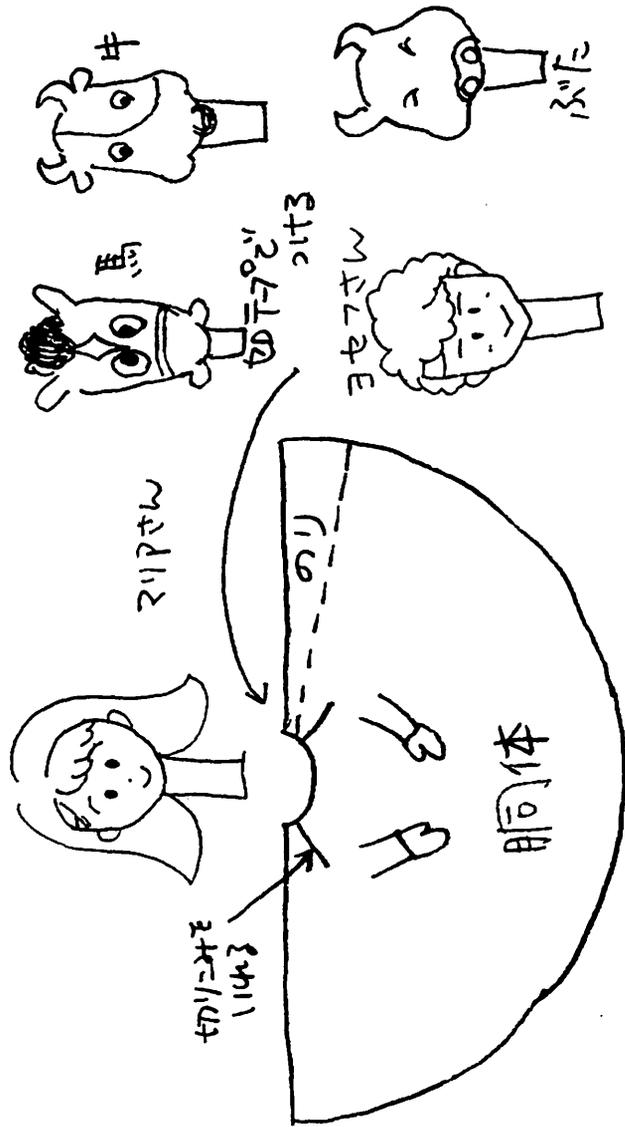
〈歌〉ふくいんニゴモさあひか39
 ♪ みこいだもよくきいてすなふりにしたがおうし主任さあはあすくすすた♪



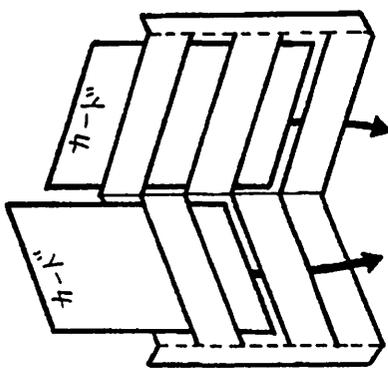
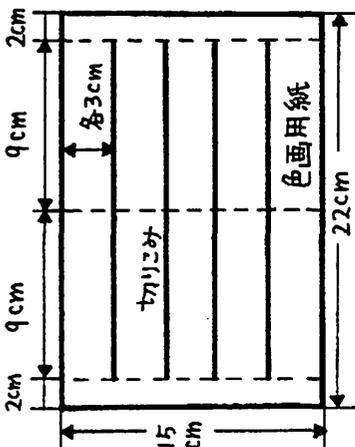
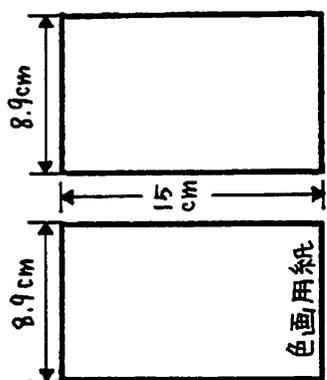
〈12/2 視覚者文研 アドベントカレンダー〉の系会の例。



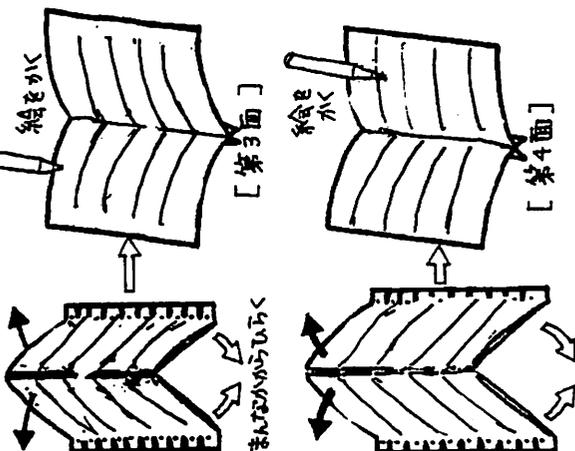
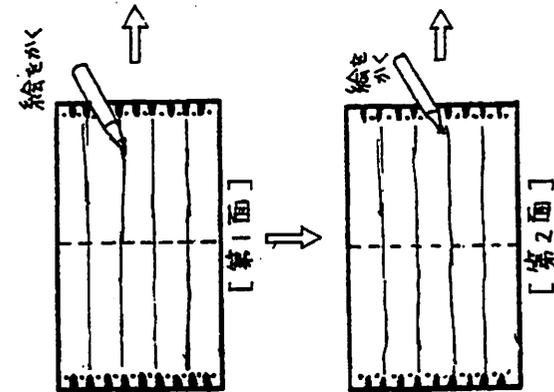
〈工作〉馬小屋に油まらね子イースト、おかし箱、パンのソリ、カッター、はさみ
 1. マリアさん、ヨセアさん、イーストさん（赤ちゃん）、馬、牛、豚の人の形をつくり、
 箱を馬小屋に貼って、並べたり、動かしたりして遊ばす



2. 第1面から第4面まで
糸を縫う
(12/30の"例"参照)



1. 左右で縫うが、縫い目
は、折り返しに合わせる



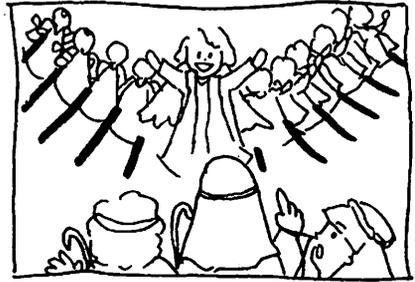
《「出てくる絵本」の絵の例》

<1/2/3 出てくる絵本の絵の例>、※ 順番になるおひらきながら書く。

1画



3画



2画



4画



日曜学校 2001年度カリキュラム (2002年1～3月分)

2年サイクル第1年 (子どもカテキズム問1～33)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
1月6日 年始	大祭司イエス	問26	ウ小教理25、ハイデ31
		ルカ23:32-43	ヘブライ7:25
昔も今も、主イエスは子どもたちを守るために執り成し続けておられる			
13日	真の王イエス	問27	ウ小教理26、ハイデ31
		ルカ19:28-40	ヨハネ16:33b
十字架のキリストこそは、勝利の王、王の王であり、この主に従う喜びを伝える			
20日	恵みのみ	問28	ウ大教理58、ハイデ60,61
		ルカ18:15-17	エフェソ2:5
どんなに優れていても救いを自ら獲得することはできない。徹底的に恵みの神			
27日	選びと有効召命	問29	ウ小教理29～32
		ルカ18:18-30	ガラテヤ1:15
恵みの選びによって、契約の子も生徒も皆ここに招かれている。感謝に導く			
2月3日	キリストとの結合	問30	ウ小教理29,30、ハイデ53,65
		ヨハネ15:1-10	ヨハネ15:5
聖霊によるキリストとの結合が信じて救われている状態。その絆の強さを示す			
10日	罪の赦しと義認	問31	ウ小教理33、ハイデ56
		マタイ18:21-35	ローマ8:21
教理は信仰の体験に根ざして身に付く。個別に魂を看取り、共に祈りたい			
17日	神の子とされる	問31	ウ小教理34、ハイデ59
		ルカ15:11-24	ローマ8:15
神の子とされる喜び、その祝福を証しし、救いへと招く。			
24日 レント	御子の姿に似せられて	問32,33	小教理35,36
		ヨハネ13:1-20	コリント二3:18
足をきよめてくださった主イエスを仰いで、御子の姿に似せられる			
3月3日 レント	愛の歩み	問32,33	小教理35,36、ハイデ60,61
		マタイ5:43-48	マタイ5:44-45a
完全なる神の愛で愛されて、私たちもすでに完全な者とみなされている			
10日 レント	ゲッセマネの祈り	キリストの受難	
		ルカ22:39-46	ルカ22:42
受難週、イースターへの備え。私たちのために苦しみ。祈りへ招く			
17日 レント	死刑判決を受ける	キリストの受難	
		ルカ23:13-25	ローマ5:8
死刑を求めた群衆とそれに負けたピラトは私たちの姿である。悔い改めへ招く			
24日 受難週	十字架と葬り	受難週	
		ルカ23:44-56	コリント一15:3a-4
十字架と葬りの事実は、私たちが神の子とされるために必要不可欠であった			
31日 イースター	復活と顕現	イースター(復活祭)	
		ルカ24:36-43	コリント一15:5-6a
主イエスの復活と顕現を物語り、救いの成就を心から喜ぼう			

編集後記

●このようなことをするのは初めてでしたが、神様に守られ、お祈りに支えられて、終えることができ、感謝しています。少しでも参考になれば幸いです。表紙について・・・クリスマスの喜びと共にふりそぐ神様の愛をイメージして。(弓矢容子、名古屋岩の上教会日曜学校教師) ●出産のみならず、何かを産み出す時には、「産みの苦しみ」が伴うものですね。真夏にクリスマスの恵みを覚えることができました。(相馬直子、名古屋岩の上伝道所日曜学校教師) ●子供たちがより主体的に参加でき、カテキズムを楽しく暗唱できるような展開例を目指しました。(山口英俊、豊明伝道所日曜学校教師) ●今回の原稿の多くは中国のホテルで書き上げました。旅の中にあると、御言葉に守られている恵みがひしひしとせまります。(伊藤治郎、四日市教会日曜学校教師)。 ●本

誌の「ユニーク」さは、日曜学校教師方のご奉仕に支えられている点にあります。中国で執筆された方、徹夜された方・・・感謝！皆様にも執筆に加わって頂きたいのです！ご意見、ご感想をお待ちしています。(相馬伸郎、名古屋岩の上伝道所宣教教師) ●子どもたちと共に御言葉をかこむ幸いをいよいよ豊かに与えられたいと願っております。(木下裕也、豊明伝道所宣教教師)。 ●初めて奉仕に加わり、担当者の労がわかりました。(村手淳、太田伝道所宣教教師) ●力不足を感じつつ、今回も作成にあたらせていただき、最後まで導かれたことを神様に感謝しています。さらなるお導きがありますよう御加禱ください。(春名義行、津島伝道所宣教教師) ●第三号も出版にこぎつけました。皆さんに用いていただけることが嬉しいです。(望月信、高蔵寺伝道所協力牧師)。

執筆担当

聖書研究・・・村手淳
カテキズム研究
10月分・・・木下裕也
11月分・・・望月信
説教展開例・・・相馬伸郎
表紙イラスト・・・弓矢容子

分級
幼稚科・・・弓矢容子
小学科下級・・・相馬直子
小学科中級・・・春名義行
小学科上級・・・山口英俊
中学科・・・伊藤治郎

編集部

相馬伸郎(長)
木下裕也
村手淳
春名義行(会計、販売取次)
望月信(書記、編集)

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2001年10・11・12月号(季刊)

第3号

2001年9月16日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
編集・発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部 名古屋岩の上伝道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F Tel/Fax. 052-877-8962
頒布取り次ぎ	津島伝道所 宣教教師 春名義行 〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30 Tel/Fax. 0567-26-4221
印刷	株式会社あるむ
頒価	900円(本体価格)